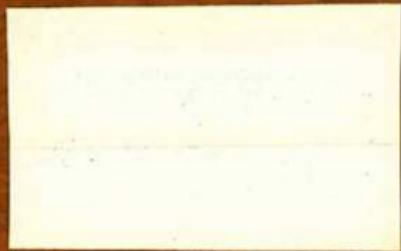


山梨県韮崎市

# 坂井南遺跡

埋蔵文化財緊急発掘調査報告書



1984

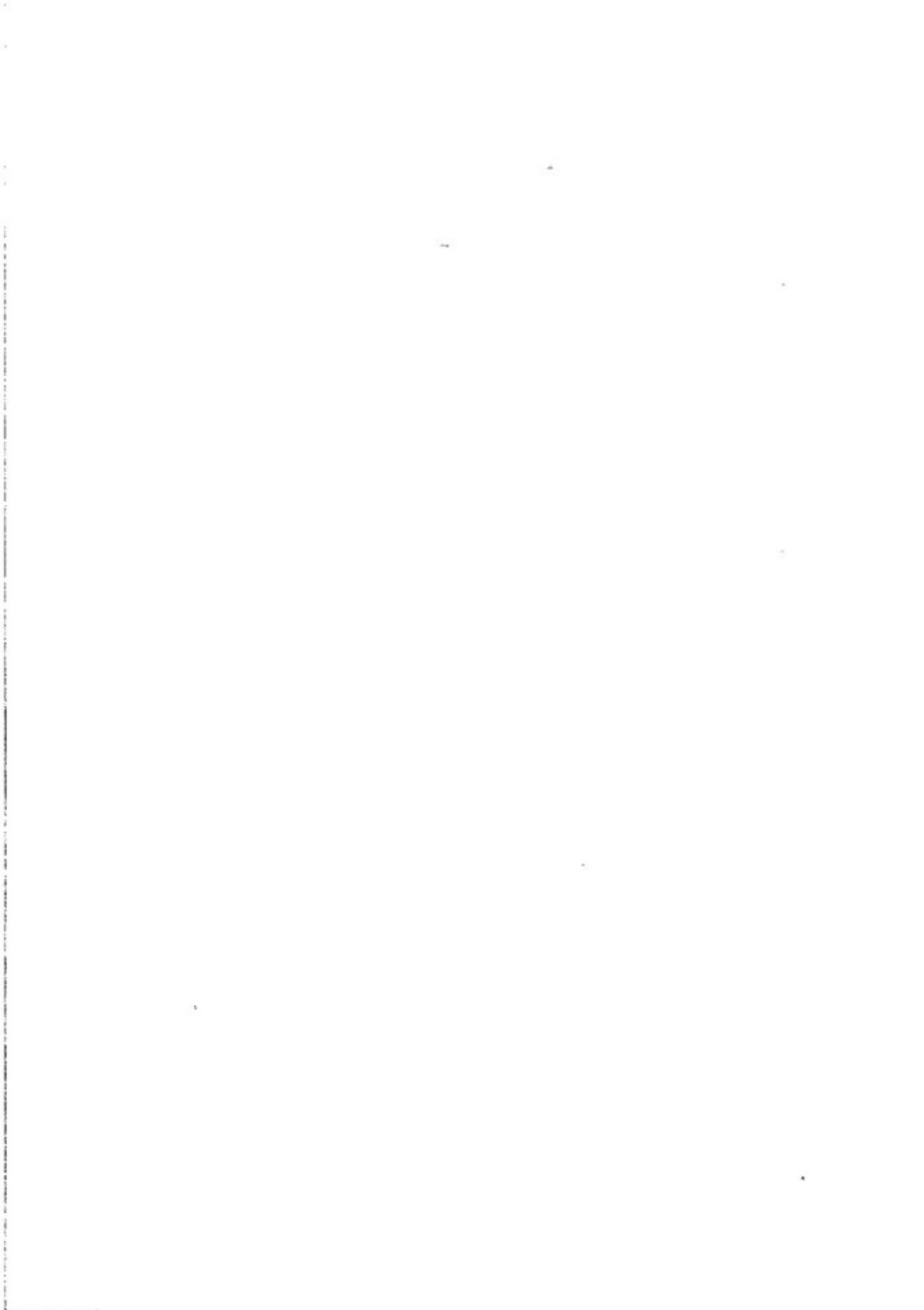
東京エレクトロン株式会社

韮崎市教育委員会

## 坂井南遺跡正誤表

ページ	行 数	誤	正
序	15行目	挿 図 国 次 並崎市民族資料館	挿 図 日 次 並崎市民俗資料館
46ページ	10行目	黄褐色土を張り	黄褐色土を貼り
85ページ	14行目	9号住居址と重複	9号住居址と重複
98ページ	16行目	A住居と重複	A住居と重複
101ページ	12行目	黒 褐 土 層	黒褐色土層





## 序

韮崎市は、県内でも有数の埋蔵文化財の豊富なところで分布調査によりますと縄文、弥生、古墳、平安時代と広範囲にわたり遺跡は相当な数にのぼる状況を呈しております。

坂井遺跡は七里岩台上に位置し縄文中期から弥生時代の遺構、遺物が多量に検出された全国的に有名な遺跡であります。

今回の調査は坂井遺跡の隣接南側の区域で株式会社テルメック、東京エレクトロン株式会社の工場増設、福利厚生施設建設のためにやむをえず発掘し、記録保存の処置を講ずることとしたものであります。今般の坂井南遺跡からは、縄文時代中期、古墳時代前期、平安時代の遺構が確認され主体は古墳時代前期の五領式土器を伴なう住居址を中心とするものであります。

この五領式土器は、土師式の初現期の土器で学界から注目されているもので、弥生時代から古墳時代への変遷を示すものといわれているものであります。

これらの出土品等は整理し、韮崎市民族資料館に保存展示し一般に公開、活用を図っていく所存であり、今後この報告書が文化財に対する理解を一層深めるうえで役立つとともに、研究者のみならず、多くの皆さまに広く活用されますことを念願とします。

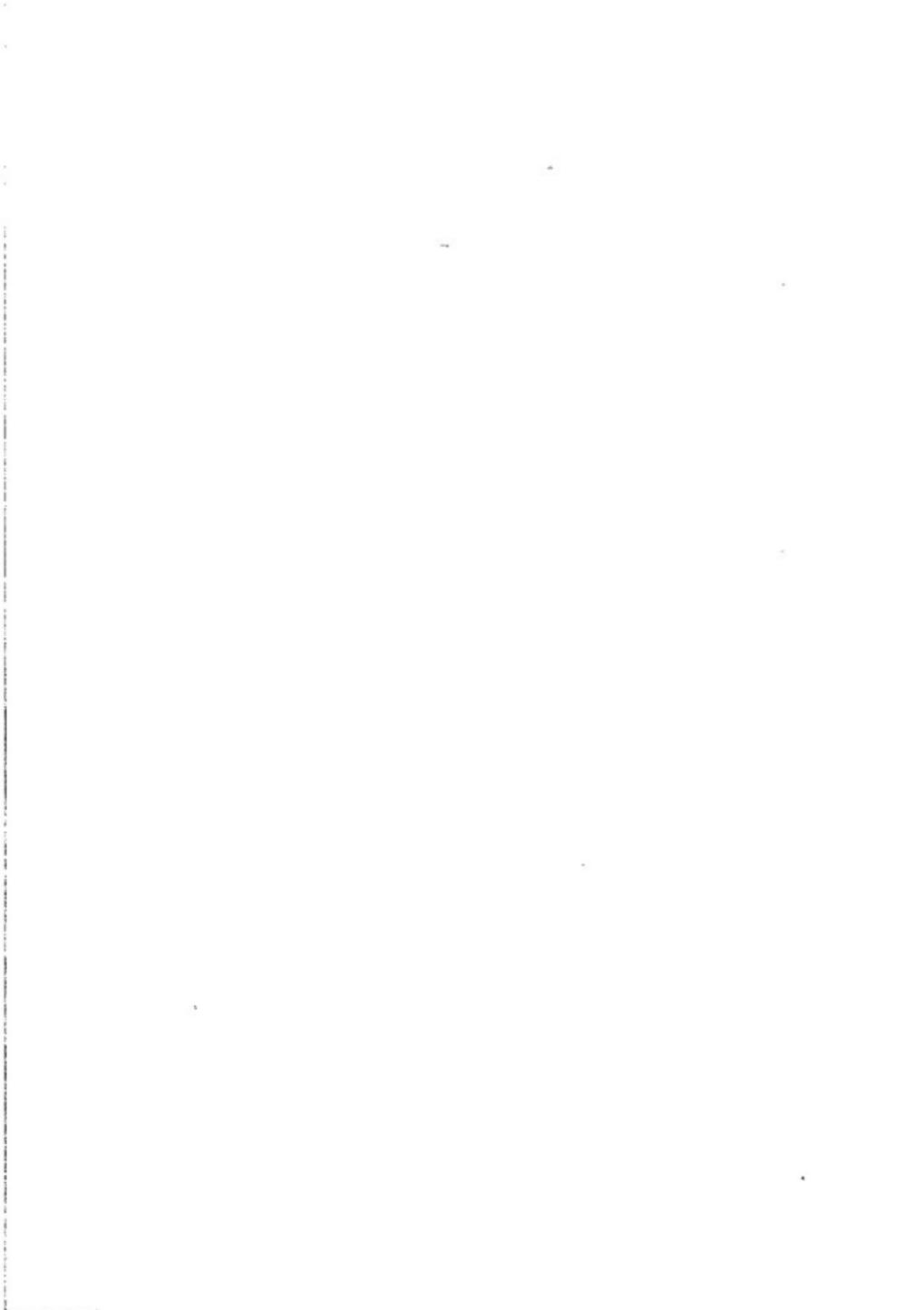
また、これからもかけがけのない文化財を永く後世に保存し、これを活用して文化の創造に役立てることは、現代の私たちに課せられた重大な責務であると考えます。

最後に、会社の方々、調査関係者のご協力に対しまして深甚なる謝意を表します。

昭和59年8月1日

韮崎市教育委員会

教育長 岩下俊男



## 例　　言

1. 本書は、東京エレクトロン株式会社・株式会社テルメックの受電施設設置及び工場等建設のための造成工事にともなう、坂井南遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から報告書作成の費用は、東京エレクトロン株式会社・株式会社テルメックが負った。
3. 発掘調査は蔚崎市教育委員会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。
4. 本書の編集は中島保比古・山下孝司が行い、執筆は中島の協力を得て山下が行った。
5. 遺構の図面トレースは山下孝司・保坂典子が行い、遺物の実測及び図面トレースは山下が行った。

尚、発掘調査及び報告書作成にあたり、諸先生がたの適切な御指導・御助言をいただいたので、次に御芳名を記して感謝の意としたい。

木本健（山梨県教育委員会文化課） 新津健（山梨県埋蔵文化財センター） 保坂康夫（山梨県埋蔵文化財センター） 志村富三（蔚崎市文化財審議会委員）

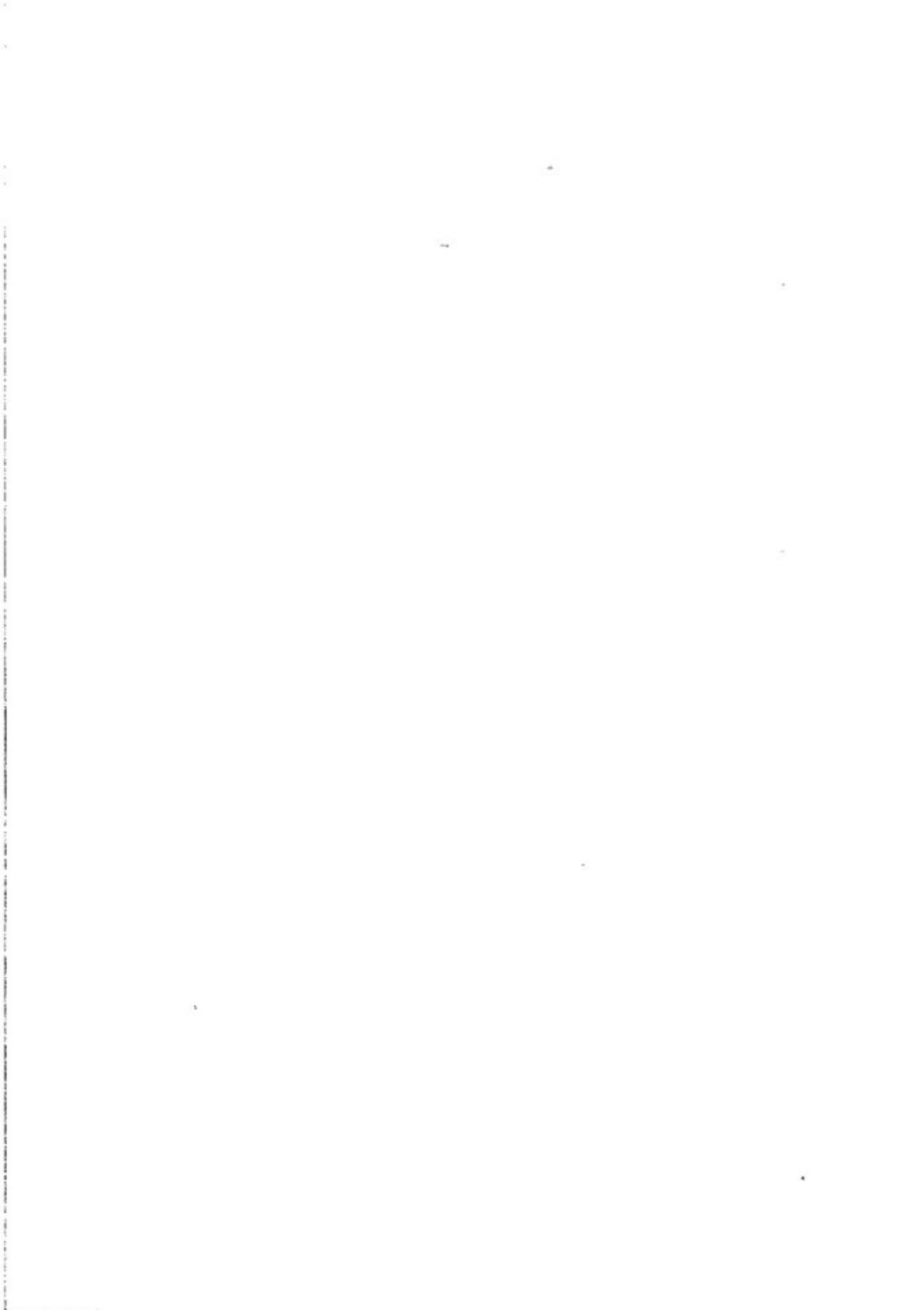
## 調　　査　組　織

### 第1次発掘調査

1. 調査主体 蔚崎市教育委員会
2. 調査担当 山下孝司（市教委文化財主事）
3. 調査参加者 岡本嘉一、小田切まさ子、小田切綱枝、鈴木きく江、小沢高恵、小沢みやの、小沢久江、小沢千代子、志村洋子、岡本保枝、五味ゆき子、乙黒きくゑ、長島昌子、貝瀬辰子、戸沢清美（山梨大学）、登川美樹（淑徳短期大学）、小野美恵（英和短期大学）
4. 調査協力者 山路恭之助（須玉町教育委員会）、深沢裕三、山秋泰
5. 事務局 蔚崎市教育委員会社会教育課  
教育長 岩下俊男、課長 清水達弥、係長 真壁静夫、主任 守屋喜治・中島保比古・博林由起子

### 第2次発掘調査

1. 調査主体 蔚崎市教育委員会
2. 調査担当 山下孝司（市教委社会教育課）
3. 調査参加者 岡本嘉一、小田切まさ子、小田切綱枝、鈴木きく江、小沢高恵、小沢みやの、小沢久江、小沢千代子、志村洋子、岡本保枝、乙黒きくゑ、長島昌子、五味ゆきこ、登川秀樹、中島和彦、開発好明（以上蔚崎）、平井仁志、細田みぎわ、細田綱代、細田茂登枝、浅川とくえ、浅川よしこ、浅川久代、浅川満江、浅川けさ子、三井澄子、藤森房子、細田和哉、細田徳哉（以上大泉）、千野毅（山梨大学）、秋山政裕（東京農大）、他多数
4. 調査協力 山梨大学考古学研究会
5. 事務局 蔚崎市教育委員会社会教育課  
教育長 岩下俊男、課長 田中永蔵、係長 真壁静夫、主任 中島保比古・円道芳美



# 目 次

序 文	
例 言	
調査組織	
目 次	
挿 図 目 次	
図 版 目 次	
I. 調査に至る経緯と概要 ..... 16	
1. 発掘調査に至る経緯 ..... 16	
2. 第1次調査 ..... 16	
3. 第2次調査 ..... 17	
II. 遺跡の立地と環境 ..... 17	
1. 遺跡の立地 ..... 17	
2. 周辺の遺跡 ..... 18	
III. 遺構・遺物 ..... 31	
1. 第1次調査 ..... 31	
2. 第2次調査 ..... 53	
IV. 坂井南遺跡におけるまとめ ..... 114	
1. 遺構について ..... 114	
2. 五領期集落址の様相 ..... 115	
3. 遺物について ..... 116	
参考文献 ..... 119	
おわりに ..... 119	
図 版 (図版1～図版60)	

## 挿 図 図 次

第1図	坂井南遺跡周辺図	19
第2図	坂井南遺跡位置図	20
第3図	坂井南遺跡第1次調査区全体測量図	21~22
第4図	坂井南遺跡A地区全体測量図	23
第5図	坂井南遺跡B地区全体測量図	25~26
第6図	坂井南遺跡C地区全体測量図	27~28
第7図	坂井南遺跡D地区全体測量図	29~30
第8図	第1号住居址	32
第9図	第1号住居址出土遺物	31
第10図	第2号住居址	34
第11図	第2号住居址出土遺物	33
第12図	第3号住居址	36
第13図	第3号住居址出土遺物	36
第14図	第4号住居址遺物出土状態図	37
第15図	第4号住居址	38
第16図	第4号住居址出土遺物	40
第17図	第4号住居址出土遺物	41
第18図	第5号住居址	43
第19図	第5号住居址出土遺物	42
第20図	第6号住居址	45
第21図	第6号住居址出土遺物	45
第22図	第7号住居址	47
第23図	第7号住居址出土遺物	48
第24図	特殊遺構	50
第25図	第1号掘立柱建物址	51
第26図	第2号掘立柱建物址・付穴列	52

---

第27図	A地区配石遺構	54
第28図	A地区配石遺構出土石器	53
第29図	A地区第1号住居址	56
第30図	A地区第1号住居址出土遺物	57
第31図	B地区第1号住居址	59
第32図	B地区第1号住居址出土遺物	58
第33図	B地区第2号住居址	61
第34図	B地区第2号住居址出土遺物	62
第35図	B地区第3号住居址	64
第36図	B地区第3号住居址出土遺物	63
第37図	B地区第4号住居址	67
第38図	B地区第4号住居址出土遺物	68
第39図	B地区第4号住居址出土遺物	69
第40図	B地区第5号住居址	71
第41図	B地区第5号住居址出土遺物	72
第42図	B地区第6号住居址	75
第43図	B地区第6号住居址出土遺物	76
第44図	B地区第7号住居址	77
第45図	B地区第7号住居址出土遺物	79
第46図	B地区第8号住居址	81
第47図	B地区第8号住居址出土遺物	80
第48図	B地区第9号住居址	83
第49図	B地区第9号住居址出土遺物	84
第50図	B地区第10号住居址	86
第51図	B地区第10号住居址カマド平面図	85
第52図	B地区第10号住居址出土遺物	87

---

第53図	B地区K土壤	88
第54図	C地区第1号住居址	89
第55図	C地区第1号住居址出土遺物	90
第56図	C地区第2号住居址	91
第57図	C地区第2号住居址カマド平面図	92
第58図	C地区第2号住居址出土遺物	92
第59図	C地区第3号住居址	94
第60図	C地区第3号住居址出土遺物	95
第61図	C地区第4号住居址(A)	97
第62図	C地区第4号住居址(A)出土遺物	96
第63図	C地区第4号住居址(B)	99
第64図	C地区第5号住居址	100
第65図	C地区第6号住居址	102
第66図	C地区第6号住居址出土遺物	102
第67図	C地区第6号住居址カマド平面図	102
第68図	C地区第1号土壤	103
第69図	C地区土壤	105
第70図	C地区溝状造構	106
第71図	D地区第1号方形周溝墓	108
第72図	D地区第2号方形周溝墓	109
第73図	D地区第3号方形周溝墓	110
第74図	D地区第4号方形周溝墓	111
第75図	D地区方形周溝墓出土遺物	112
第76図	その他の出土遺物	113

## 図 版 目 次

---

- 図版 1 遺跡遠景
- 図版 2 遺跡遠景
- 図版 3 第1号住居址
- 図版 4 第2号住居址
- 図版 5 第3号住居址
- 図版 6 第4号住居址
- 図版 7 第5号住居址
- 図版 8 第6号住居址
- 図版 9 第7号住居址
- 図版 10 特殊遺構
- 図版 11 A地区配石遺構
- 図版 12 A地区第1号住居址
- 図版 13 B地区第1号住居址
- 図版 14 B地区第2号住居址
- 図版 15 B地区第3号住居址
- 図版 16 B地区第4号住居址
- 図版 17 B地区第5号住居址
- 図版 18 B地区第6号住居址
- 図版 19 B地区第7号住居址
- 図版 20 B地区第8号住居址
- 図版 21 B地区第9号住居址
- 図版 22 B地区第10号住居址
- 図版 23 C地区第1号住居址
- 図版 24 C地区第2号住居址
- 図版 25 C地区第3号住居址
- 図版 26 C地区第4号住居址

- 
- 图 版 27 C地区第5号住居址·第2号溝  
图 版 28 C地区第6号住居址  
图 版 29 C地区第1号土壤  
图 版 30 C地区第5号土壤  
图 版 31 C地区第6号土壤  
图 版 32 C地区第1号溝  
图 版 33 D地区第1号方形周溝墓  
图 版 34 D地区第2号方形周溝墓  
图 版 35 D地区第3号方形周溝墓  
图 版 36 D地区第4号方形周溝墓  
图 版 37 第1号住居址遺物  
图 版 38 第2号住居址遺物  
图 版 39 第3号住居址遺物  
图 版 40 第4号住居址遺物  
图 版 41 第5号住居址遺物  
图 版 42 第6号住居址遺物  
图 版 43 第7号住居址遺物  
图 版 44 特殊遺構遺物  
图 版 45 A地区配石遺構石器  
图 版 46 A地区第1号住居址遺物  
图 版 47 B地区第1号住居址遺物  
图 版 48 B地区第2号住居址遺物  
图 版 49 B地区第3号住居址遺物  
图 版 50 B地区第4号住居址遺物  
图 版 51 B地区第5号住居址遺物  
图 版 52 B地区第6号住居址遺物

- 
- 図 版 53 B地区第7号住居址遺物  
図 版 54 B地区第8号住居址遺物  
図 版 55 B地区第9号住居址遺物  
図 版 56 B地区第10号住居址遺物  
図 版 57 C地区第1号住居址遺物  
図 版 58 C地区第3号住居址遺物  
図 版 59 D地区方形周溝墓遺物  
図 版 60 その他の遺物

# I 調査に至る経緯と概要

## 1 発掘調査に至る経緯

調査区域は大正時代、故志村淹藏氏が自分の桑畠から土器片、土偶、石器等を採集したことによる端を発してから昭和17年から昭和31年まで5回、遺跡の発掘が行なわれその結果、縄文時代前期から晩期・弥生時代に及ぶ遺構が検出された坂井遺跡に隣接している。

今般の発掘調査は、株式会社テルメックより変電所建設のため開発申請が出され、当該地域は坂井遺跡の周辺であり、当然埋蔵文化財の埋蔵地として推定されるため山梨県教育委員会文化課、韮崎市教育委員会社会教育課、株式会社テルメック、三者で協議検討のうえ、市教育委員会が事業主体となり文化庁の補助事業を受け第1次調査として、昭和57年6月下旬より7月下旬にかけて事前の試掘調査を行ない遺構等の存在が明らかになったため本調査を10月初旬より12月下旬まで実施した。

第2次調査は東京エレクトロン株式会社より工場施設拡張、福利厚生施設建設に伴なう開発申請が出され、それに附隨して試掘調査の依頼があったため昭和58年3月下旬より4月中旬まで試掘調査を行なった。市教育委員会では試掘の資料をもとに本遺跡の取扱いについて県文化課の指導を得て会社側と協議を重ねた結果、開発の目的、影響、周辺の条件等を考慮し第1次調査に引きづき第2次調査も発掘調査による記録保存の措置を講ずると結論を出し各方面との調整に努めた。

韮崎市教育委員会は昭和58年5月初旬より調査を開始し、9月初旬に終了した。なおこの調査に要する経費については第1次調査の試掘調査を除いて株式会社テルメック（現在東京エレクトロン韮崎製作所と商号を変更）、東京エレクトロン株式会社において負担され出土品の扱いについても市に全面委譲するなど格別の協力を得た。

## 2 第1次調査

昭和57年6月7月に行われた試掘調査の結果をもとに、株式会社テルメックの特別高圧受電設備建設用地およびその周辺の約3,600m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

調査は昭和57年10月2日より開始され12月18日に終了した。試掘により調査区域内には何か所か住居址が確認されていたので全面発掘を行うことにした。まず表土を重機により削ぎ、10m四方の方眼を設定し、西から東をA～F、南から北を1～7とした。

10月2日から10月13日には排土作業をし、鋤慶を使用し、遺構の確認を進め、数ヶ所に褐色土、暗褐色土の落ち込みを発見した。10月14日より、必要に応じ埋没土の状態を調査するため土層観察用の土手を遺構内に残し、それら遺構の掘り下げに入った。10月24日までに4号住居址までを検出したが、10月25日から一時調査を中断した。調査を再開したのは11月12日からで、遺構を検出し実測、写真撮影等の調査が完了したのは12月18日となった。結果古墳時代前期の竪穴式住居址7軒、特殊遺構1、掘立遺構3が発見された。

### 3 第2次調査

昭和58年3月22日から4月8日に行われた試掘調査の結果に基づき。工場等建設予定地内をA・B・C・Dの4地区に分け発掘調査を行った。調査は昭和58年5月6日より開始され9月2日に終了した。

A地区、5月6日より排土作業を行い遺構の確認を実施。5月19日より遺構の掘りさげにかかる。結果、古墳時代前期の竪穴式住居址1軒、配石遺構1基が検出された。

B地区、A地区に引き続き排土作業を行い。遺構の確認を実施。測量の基準に杭打を行い、10m四方の方眼を設定した。6月に入り遺構の掘り下げを開始し、7月上旬に実測、写真撮影等の調査を完了した。発見された遺構は古墳時代前期の竪穴式住居址8軒、平安時代の竪穴式住居址2軒、土壙2基。

C地区、B地区の調査に平行して、6月20日より排土作業にかかり、10m四方の方眼を設定し、遺構の確認をすすめた。7月7日より遺構の掘り下げに入る。遺構の実測、写真撮影等の調査は8月8日に完了した。結果、縄文時代中期の竪穴式住居址1軒、古墳時代前期の竪穴式住居址1軒、平安時代の竪穴式住居址5軒、土壙6基、溝状遺構2基が発見された。

D地区、7月13日より排土作業を開始し、遺構の確認をすすめた。測量用の杭を10m四方の方眼に設定し、7月25日より遺構の掘り下げを始め、遺構の測量、写真撮影等の調査が完了したのは9月2日であった。発見された遺構は方形周溝墓が4基あった。

## II 遺跡の立地と環境（第1図・第2図）

### 1 遺跡の立地

坂井南遺跡は、山梨県韮崎市藤井町北下条字大原地内及び同藤井町坂井字村の前地内に所在する。

七里ヶ岩台地は、八ヶ岳泥流と東西を流れる塩川と釜無川によってつくられた南東にのびる舌状台地である。台地上には、八ヶ岳泥流によってつくりだされた小円丘とくぼみが所々にあり、湧水地も点在しており、桑園と果樹園が多い田園地帯となっている。西側を流れる釜無川による台地の浸食は激しく、その浸食崖が長野県下高木から韮崎に至っており奇観を呈し七里ヶ岩の呼称のおこりとなっている。この釜無川は水量は多いが川幅が広く、普段は流れが緩やかである。しかし、一度集中豪雨が降ると南アルプスの前山の山々からの土石流が多量に流れこみ、氾濫などにより大水害を起こすこともたびたびであった。台地下東側は塩川の氾濫源で、肥沃な平地をつくりだしており、中田町、藤井町を含む藤井平は穀倉地帯として古くから「藤井五千石」と呼ばれていた。

本遺跡は、七里ヶ岩台地上の南部西端の標高約450mに位置する。台地下との比高差はおよ

そ70mを測る。

## 2 周辺の遺跡

七里ヶ岩台地および周辺には数多くの遺跡が発見されている。

七里ヶ岩台地上には、山梨県を代表する標式遺跡である坂井遺跡①をはじめとして、天神前②、中条上野1③、中条上野2④の各遺跡がある。坂井遺跡は、大正14年の土器発見を契機として、昭和31年頃まで志村浅藏氏を中心に何回か発掘調査が実施され、2軒の住居址、12か所の炉址などの遺構が発掘されて多量の土器、石器類が採集された。時代は縄文時代中期を中心として、前期～晚期、弥生時代、平安時代にまで及んでいる。現在住居址は復原され、出土した土器類は坂井考古館に保存展示されている。天神前遺跡は、昭和29年に志村浅藏氏らによって、縄文時代前期の住居址1軒が発掘調査されている。

七里ヶ岩台地東側の低地には縄文時代、弥生時代以降の遺跡が数多くある。特に藤井町北下条の藤井小学校周辺は遺跡の宝庫と思われる。昭和57年11月・12月に韮崎市教育委員会によって発掘調査された北下条遺跡⑤は、調査面積が720m<sup>2</sup>と小規模ではあったが、弥生時代から奈良・平安時代までの住居址が10軒検出されその他中世の遺物も発見された。

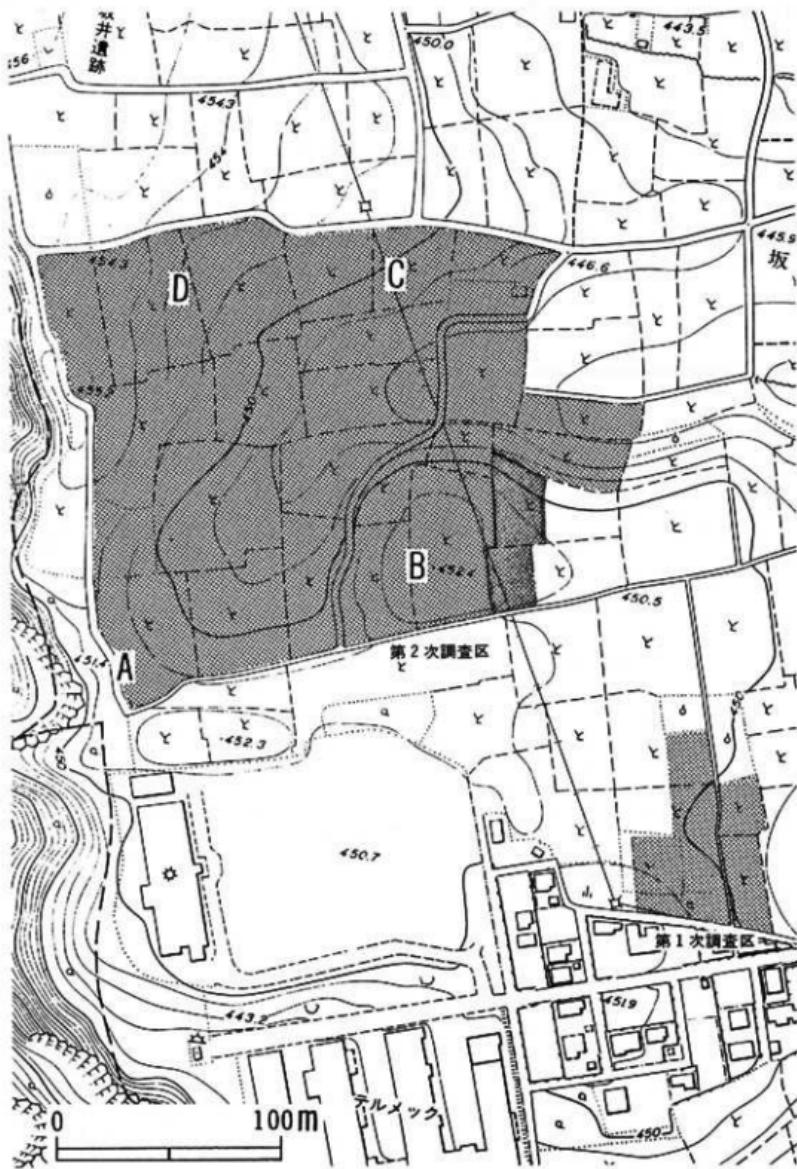
その他に、坂井1（縄文時代）⑥、宮の前（縄文時代・弥生時代）⑦、後田（縄文・弥生時代）⑧、殿田（縄文・弥生時代）⑨、北下条（縄文時代）⑩、南下条（縄文・奈良・平安時代）⑪、中田小学校（縄文・平安時代）⑫、小田川（平安時代）⑬などの各遺跡が知られている。

台地西側を流れる釜無川の右岸には、青木遺跡（奈良時代）⑭、鶴塚遺跡（縄文時代）⑮などがある。

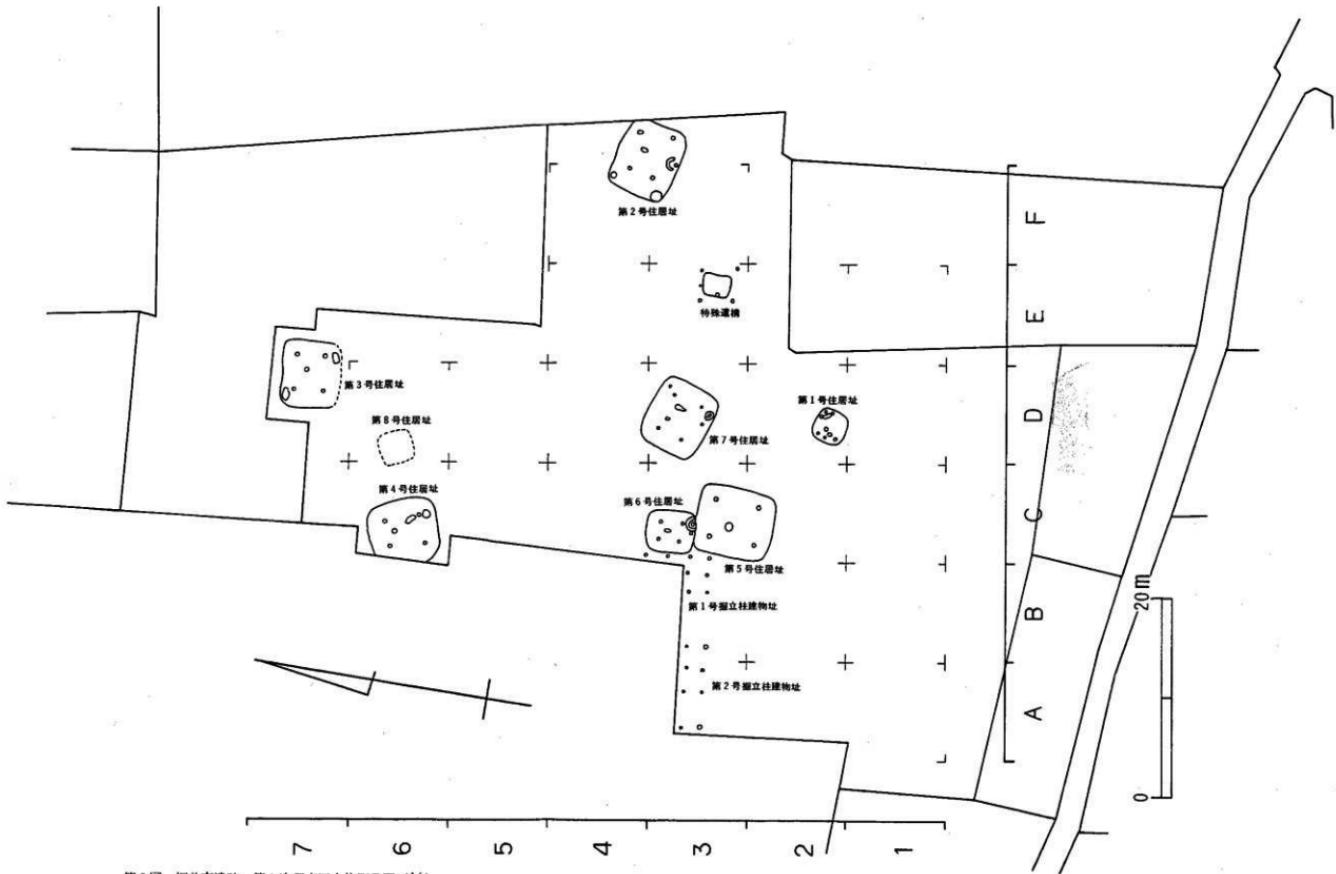
また、韮崎市には、甲斐源氏武田氏発祥の地および終焉の地として、武田氏ゆかりの城郭跡・館跡などが存在している。神山町には、甲斐源氏武田氏の始祖武田信義の館跡⑯をはじめ、信義の中興開基による順成寺⑰、武田氏の氏神、武田八幡神社⑱がある。七里ヶ岩台地上の穴山町には、武田氏の一族穴山氏の宅跡と伝えられる黒駒神社とその要塞城である能見城⑲、中田町には、武田勝頼の築城による新府城⑳がある。新府城は、敵方勢力が四隅に迫るなか、大陥の地を利用するため、天正9年2月より築城をはじめ、9月には完成したものであり、同じ年の12月には甲府の櫛山城の館を引き払いここに遷り来た。しかし、時すでに遅く、織田軍の進攻を目前にして、天正10年3月に勝頼自ら火を放ち、岩殿城へ落ちのびていった悲劇の城である。城の形態は、中世から近世への移行期の中にあって、土累を使った最終段階の最大級の城として理解されている。特徴的な構造は、鉄砲などの近代兵器に対する東西の「出構」のほか、「シトミの構」などが上げられる。現在城跡は、国の史跡となっており当時の雄姿を偲ばせている。



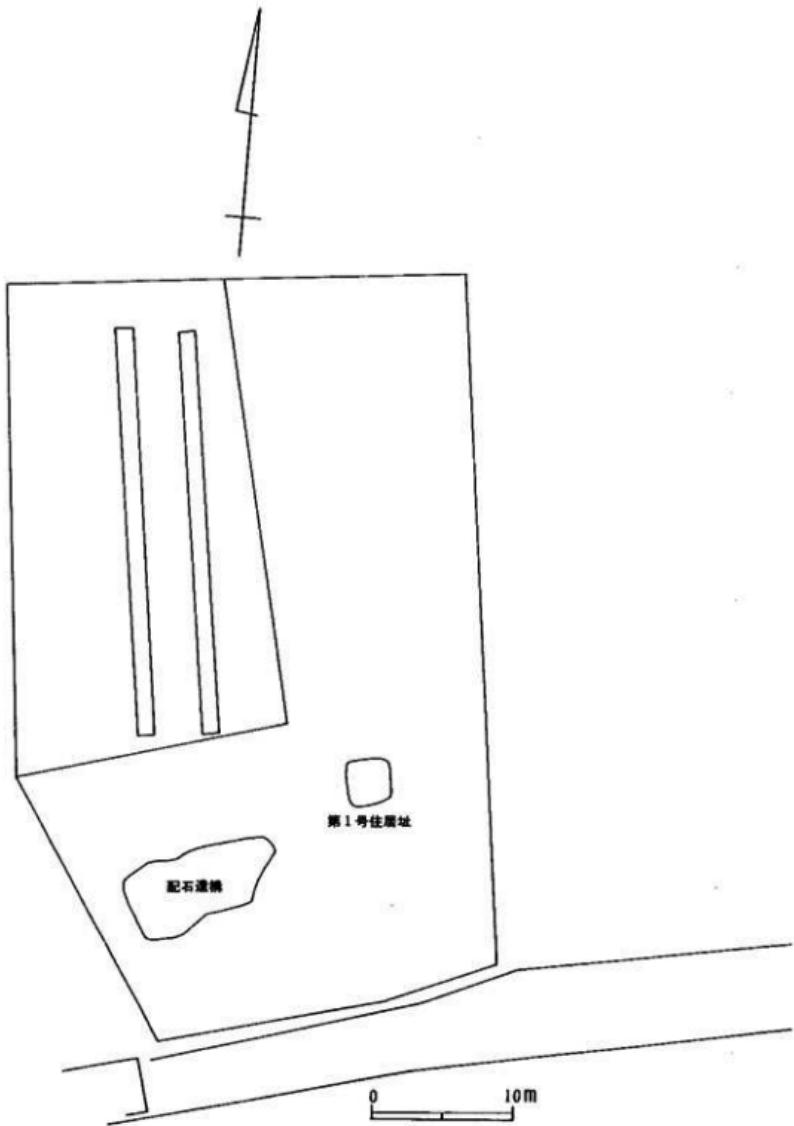
第1図 坂井南遺跡周辺図



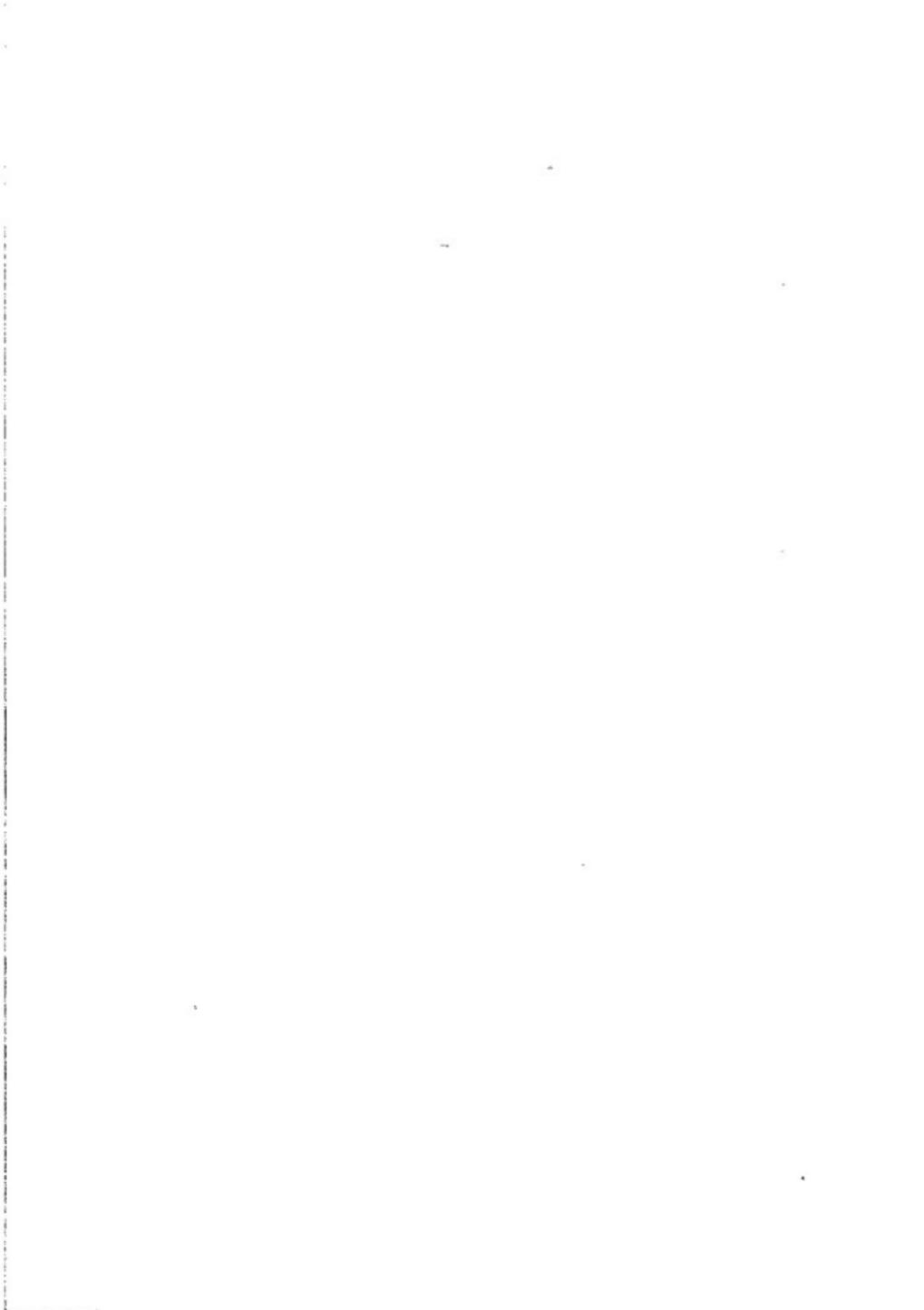
第2図 板井南遺跡位置図 (1 : 2,500)

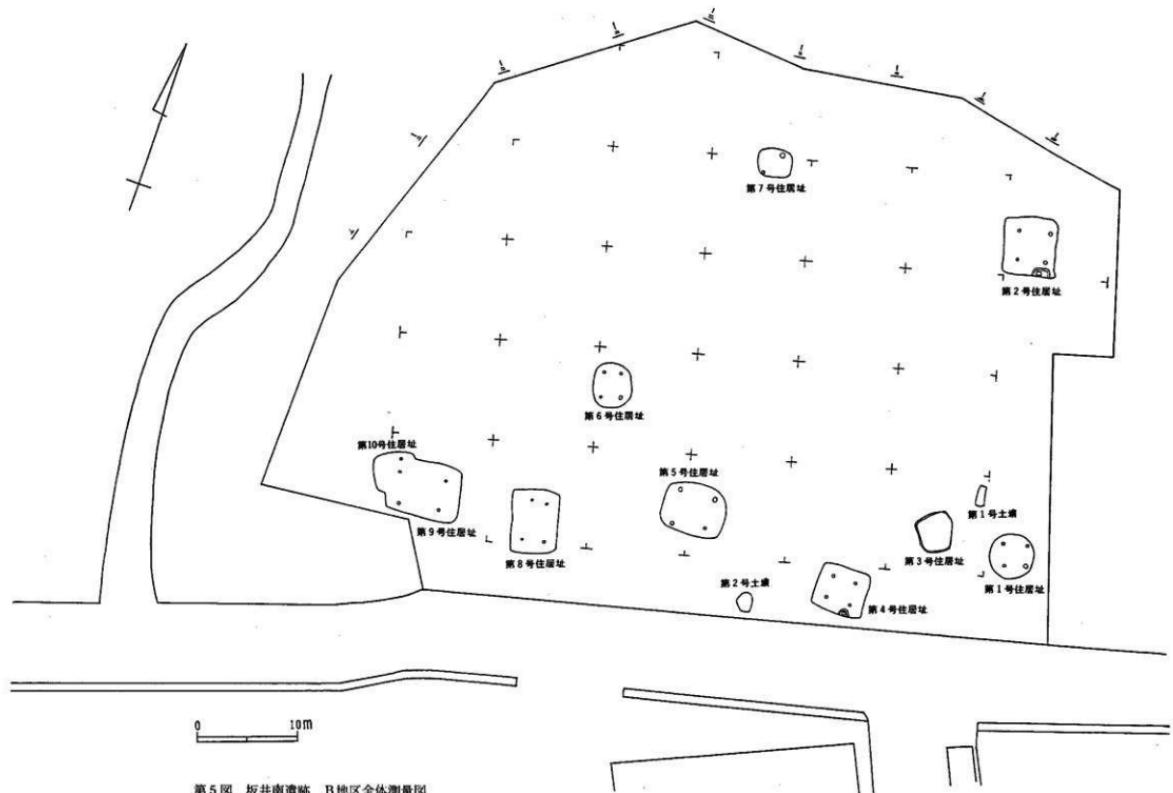


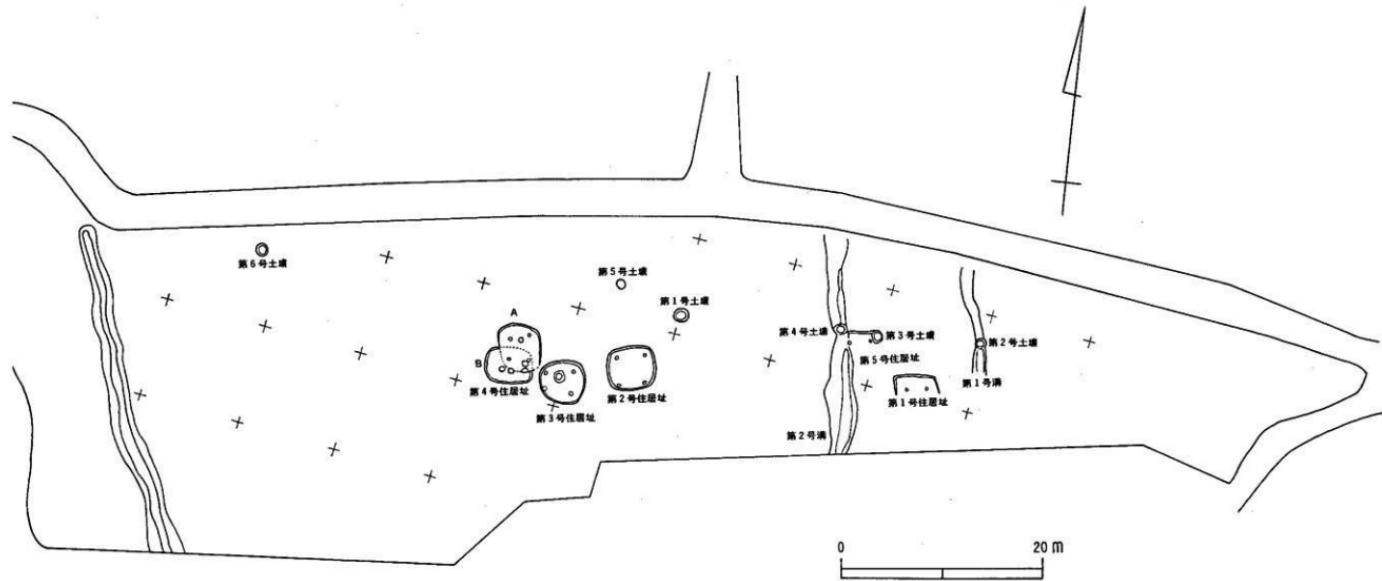
第3図 板井南遺跡 第1次調査区全体測量図 (Km)



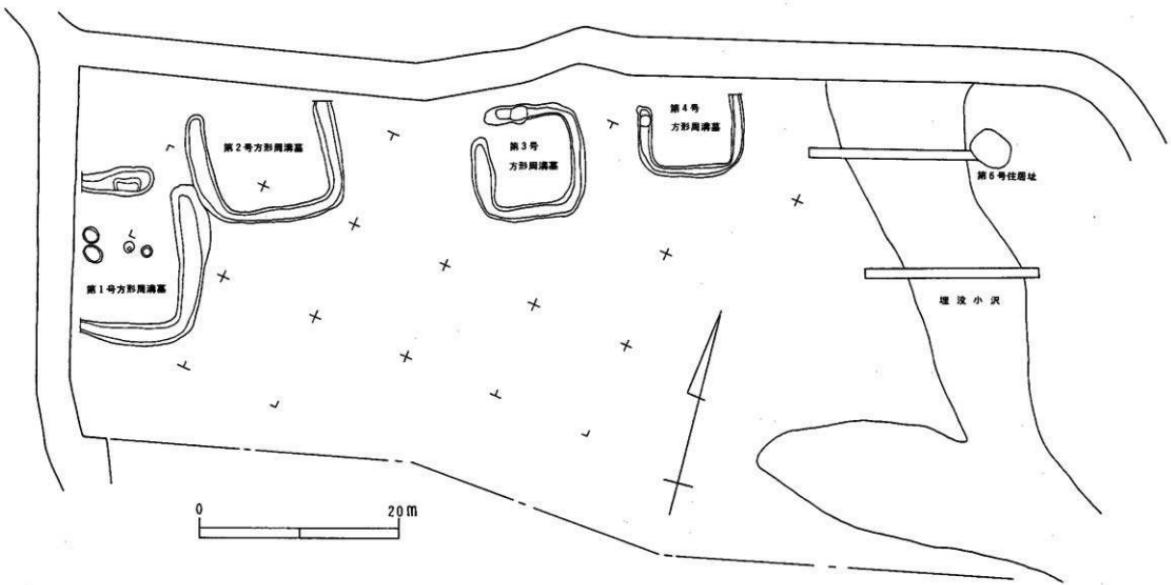
第4図 坂井南遺跡 A地区全体測量図







第6図 坂井南遺跡 C地区全体測量図



第7図 板井南遺跡 D地区全体測量図

### III 遺構・遺物

#### 1. 第1次調査

##### 《第1号住居址》(第8図)

発掘区南端に位置する。試掘調査に際して発掘された住居址である。地表下約30cmで褐色土の落ち込みを発見、試掘用溝を拡張し平面形を確認し、土層観察用の土手を東西・南北十字に残し調査を行った。埋没土の状態は上層から褐色土、暗褐色土、黄褐色土の順に堆積。遺構の遺存状態が良好な小形の住居址であるが、遺物の出土は少ない。時期は五領期と思われる。

##### 【構造】

平面形 やや胴部のふくらんだ隋円方形

規模 長軸の長さ3.4m、短軸の長さ3.3m

長軸の方向 N-76°-W

壁 ローム層を掘り込んで良好な立ち上がりをもつ。壁高は17~30cmを測る。北西側がやや削平されている。

床 床面は黄褐色土で堅い。全体的に平坦で良好な床面である。

柱穴 積穴内には8個の小穴が検出されたが、主柱穴の判断はむづかしい。床面からの深さは、P<sub>1</sub>10cm、P<sub>2</sub>10cm、P<sub>3</sub>10cm、P<sub>4</sub>7cm、P<sub>5</sub>11cm、P<sub>6</sub>36cm、P<sub>7</sub>27cm、P<sub>8</sub>9.5cm。

炉 床面西側よりに2ヵ所ある。1つは40×45cmの隋円形を呈し、若干掘り空めてある。他の1つは45×50cmの隋円形の範囲で焼土があり、枕石が2つ（長さ15cm直径4cm、長さ18cm直径6cm）東端におかれていた。

尚、P<sub>7</sub>のまわりP<sub>6</sub>からP<sub>8</sub>にかけて土手状のたかまりがみられた。

##### 【出土遺物】(第9図)

壺形土器

1. 若干の欠損はあるがほぼ完形となる。赤褐色を呈し、焼成良好である。底部には箆削り痕が認められる。

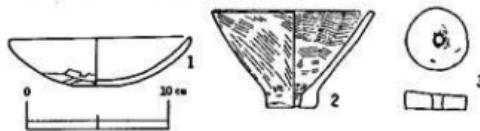
瓶形土器

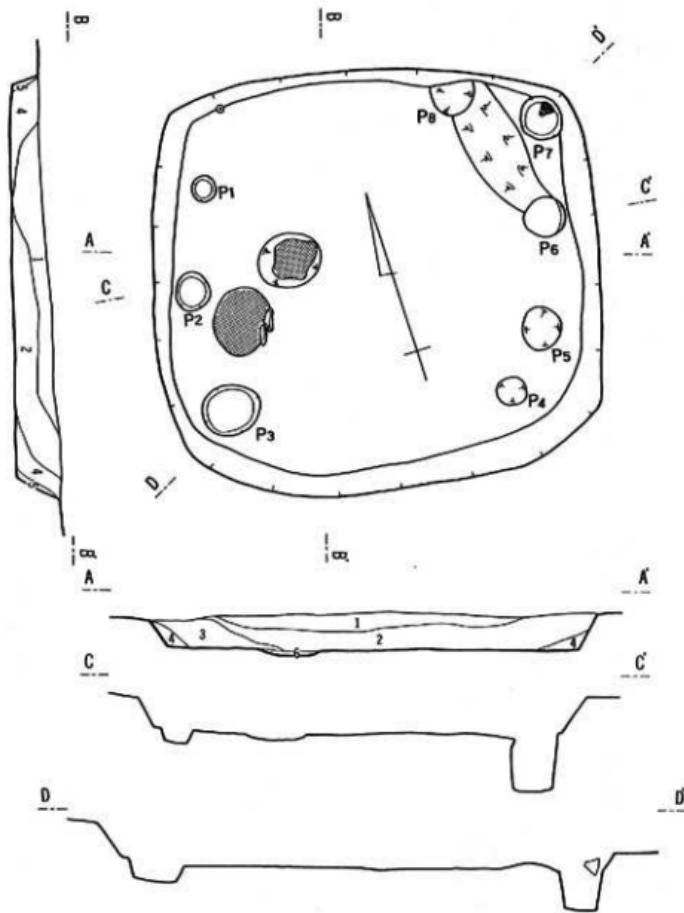
2. 完成品で器形は漏斗形を呈す。底部は平底で单孔が穿ってある。外面、内面ともに刷毛目が顕著である。色調は褐色を呈し、内面はやや煤ける。焼成は良好である。

土製紡錘車

3. 直径4.5cm、厚さ約1cm、孔の直径は7mmを測る。

第9図 第1号住居址  
出土遺物 (1/4)





1. 棕色土層
2. 棕色土層（1層よりも暗い、赤色粒子を含む）
3. 紫褐色土層（ややしまりがある）
4. 黄褐色土層
5. 棕色土層（黄褐色粒を含む、しまりがある）
6. 暗褐色土層（焼土を混入する）



第8図 第1号住居址 (3)

### 〈第2号住居址〉 (第10図)

発掘区域内東端にあり、東隅は区域外で完掘できなかった。遺物は少なく、土器片数点が出土した。時期は五傾期と思われる。

#### 〔構造〕

平面形 囲円長方形

規模 長軸の長さ7.2m、短軸の長さ6m

主軸の方向 N-74°-W

壁 ローム層を掘り込んでおり良好な立ち上がりをもつ。壁高は6~20cmを測る。

床 比較的平坦な黄褐色土面を床とするが、固めた床は若干しかなく軟弱である。

柱穴 壁内に7個の小穴が検出されたが、各壁に平行して整然と配列された4個が主柱穴と思われる。床面からの深さは、24~50cmを測り、壁内東よりになっている。

炉 床面中央より北東にあり、規模は45×70cmで、不整隋円形を呈す。

尚、床面南側やや東よりの穴のまわりには、土平状のたかまりがみられた。

### 〔出土遺物〕 (第11図)

高壺形上器

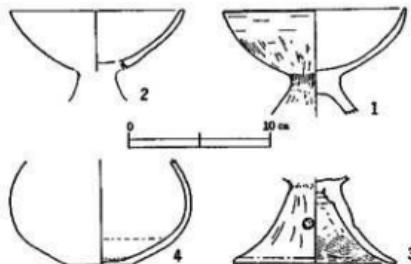
1. 脚部下半を欠損。外面に範みがき痕がみられる。色調は淡褐色を呈し、器面は若干ザラついている。

2. 脚部を欠損する高壺形土器の壺部。色調は淡褐色を呈す。胎土には砂粒を含み、焼成は良好である。

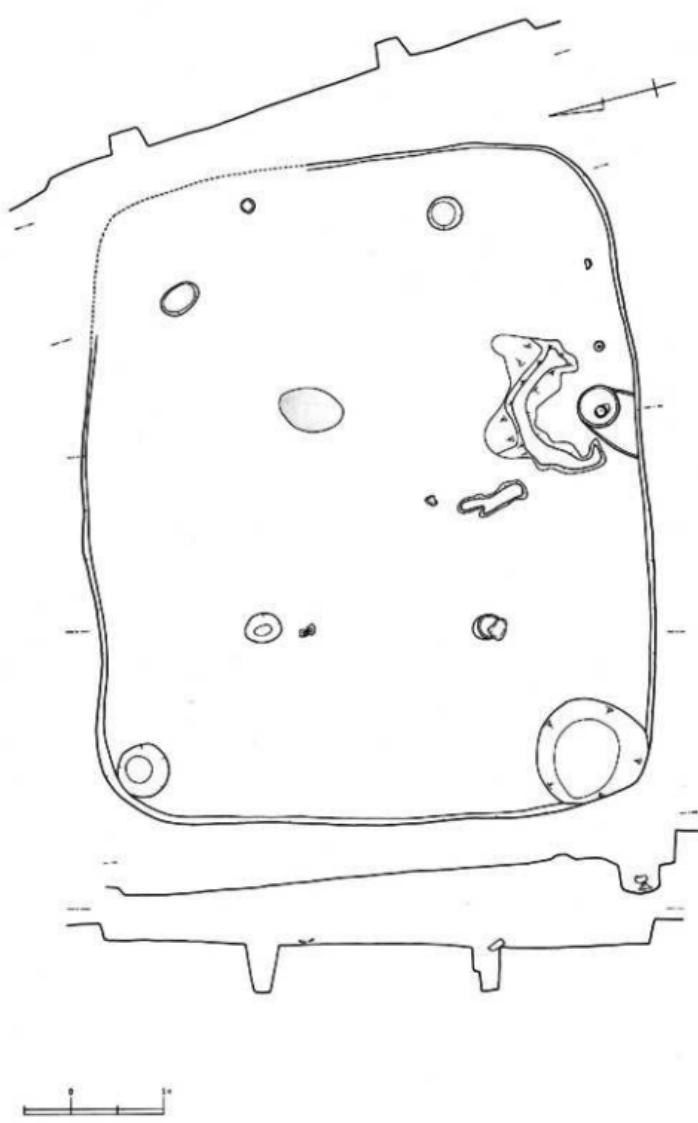
3. 脚部のみ遺存、色調は淡褐色を呈す。胎土は精製してあり、焼成は良好。内面に刷毛目がみられる。外面は綴の範みがきが施され、丹彩され疑似孔を有する。

壺形土器

4. 口縁部を欠損する壺形土器の胴部と思われる。色調は褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒を含む。外面は範みがきが施されているが、磨滅によりザラついている。



第11図 第2号住居址出土遺物 (1/4)



第10図 第2号住居址 (3)

### 〔第3号住居址〕 (第12図)

発掘区北端に位置する。表土層の排土作業により、遺物が出土し、拡張の結果暗褐色のおちこみが発見された。削平が激しく住居址南側は壁及び床面の遺存が認められなかった。火災に合ったらしく、炉を中心として焼成を受け赤褐色になっている床面が散在。炭化材も出土している。時期は五領期と思われる。

#### 〔構 造〕

平面形 扇円長方形

規模 長軸の長さ6.5m、短軸の長さ5.5m。

主軸の方向 N-96°-W

壁 ローム層を掘り込んであり立ち上がりをもつが、上部がかなり削平されて壁高は5~17cmを測る。

床 黄褐色土の床面は平坦で堅い。南側は擾乱により堅い面はない。

柱穴 4個の小穴が整然と配列されており主柱穴と思われる。深さは43~52cmを測る。

炉 床面中央から北東よりにあり、直径40cmの円形を呈する。焼土西端に長径28cm、短径25cm、高さ20cmの人頭大の錐の集石があった。

尚、床面西北隅には幅90cm、長さ110cm、深さ50cmの隋円状の穴が検出された。又、東北隅には幅65cm、長さ100cm、深さ37cmの舟形状の穴が検出された。

#### 〔出土遺物〕 (第13図)

壺形土器

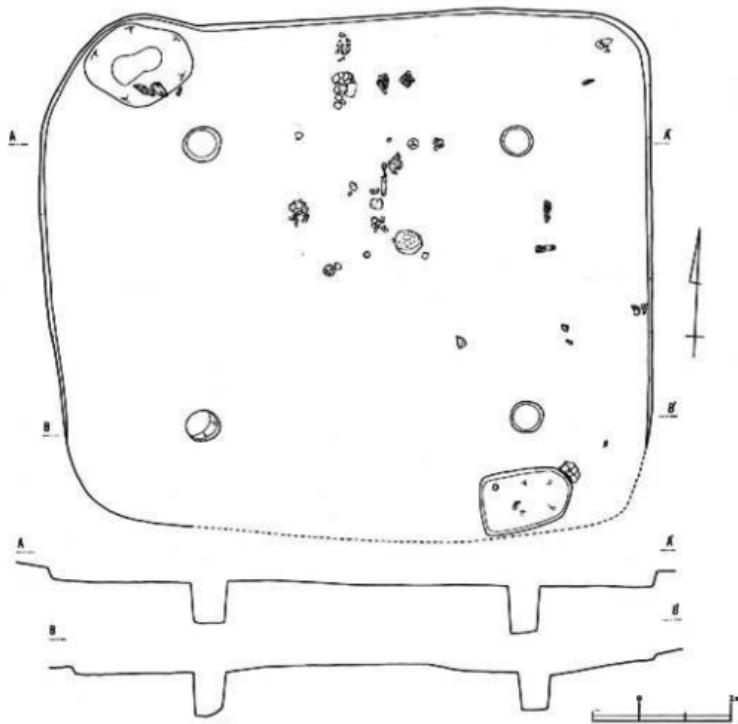
1. 口縁部、胴部下半を欠損する。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部は籠みがきが施され、胴部には刷毛目がみられる。
2. 口縁部及び胴部の3分の1を欠損。胴部下半に最大径をもつ小形の壺。色調は明褐色を呈し、胎土には砂粒を混入する。
3. 3分の1を欠損する小形の壺。色調は赤褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。焼成良好。口縁部は横撫で、胴部外面は籠みがきによる整形が施されている。

甕形土器

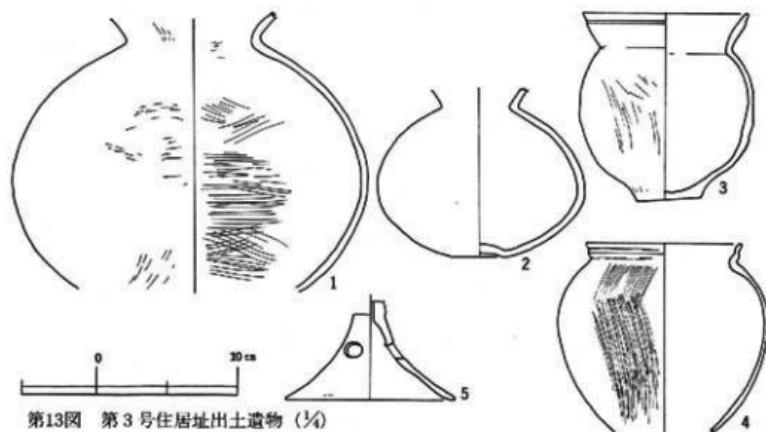
4. 台部を欠損するS字状口縁の台付甕と思われる。色調は赤褐色を呈し、胎土には砂粒を含む薄手の土器。口縁部は横撫で、胴部外面に刷毛目整形。

器台形土器

5. 器受部を欠損。色調は赤褐色を呈し、胎土には赤褐色粒子、砂粒を含む。外面は籠みがきが施されており3孔が穿ってある。



第12図 第3号住居址 (1/4)



第13図 第3号住居址出土遺物 (3/4)

《第4号住居址》（第14・15図）

発掘区域内北西にあり、試掘調査に際して確認されたものである。削平により壁の残存状態は悪いが、出土遺物は比較的多い。また、火災を受けたらしく、床面上に焼土、炭化材が散在していた。住居址西側は調査区域外であり完掘できなかった。時期は五傾期と思われる。

【構造】

平面形 鶲円長方形と思われる。

規模 長軸の長さ 6.7m、短軸の長さ 5.7m

主軸の方向 N-87°-E

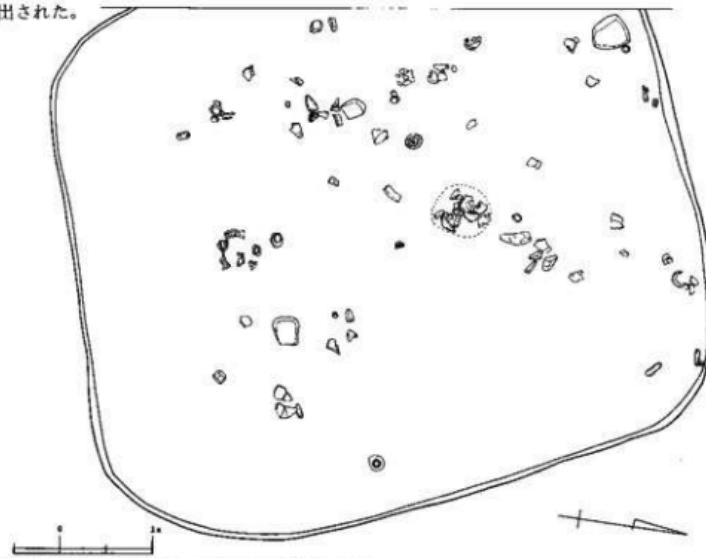
壁 振乱等により削平されているが、立ち上がりはある。壁高は、浅い所で 6cm、深い所で 19cm を測る。

床 黄褐色土の床で比較的平坦である。堅い面は全体的にはない。

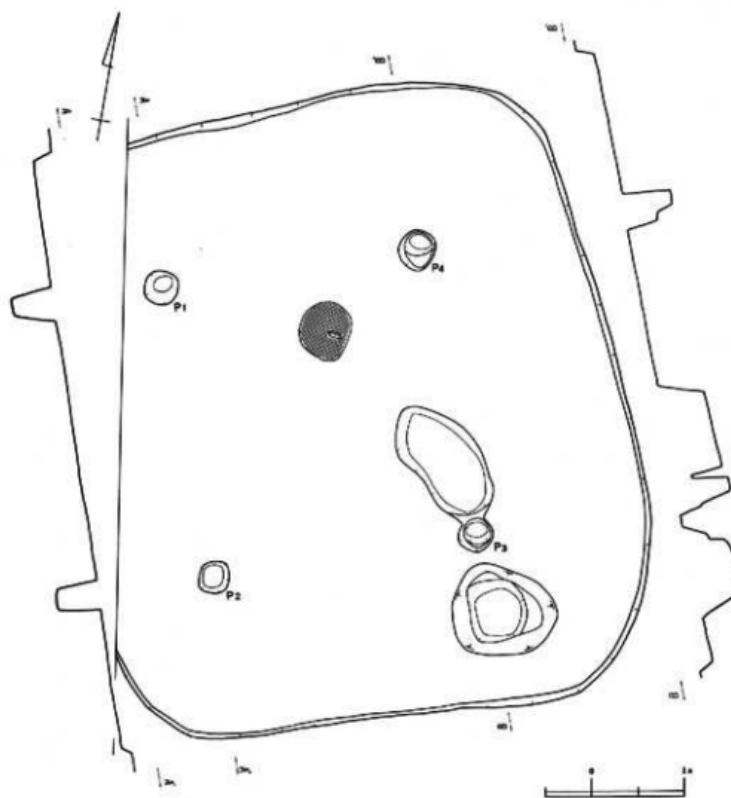
柱穴 整前と配列された 4 個の主柱穴がある。平面形は方形に近い円形をなし、径は 35cm 前後、床面からの深さは、P<sub>1</sub>46cm、P<sub>2</sub>46cm、P<sub>3</sub>60cm、P<sub>4</sub>52cm を計測する。

炉 中央部から北寄りに位置する。60×65cm の不整円形を呈し、長さ 15cm 直径 5cm の枕石をもつ。

尚、床面南東隅には長径 114cm、短径 90cm の不整円形を呈し、床面からの深さ 48cm を計測する穴が検出された。この穴は貯蔵穴と思われ、中からは人形の產形土器が出土している。また、P<sub>3</sub>の北西には長辺 120cm、短辺 70cm の不整長方形を呈し、床面からの深さ 52cm を計測する穴が検出された。



第14図 第4号住居址 遺物出土状況図 (1/6)



住居址内穴

第15圖 第4号住居址 (36)

【出土遺物】（第16・17図）

壺形土器

1. 底部を欠損。胴下半に最大径をもち、色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒が混入している。磨滅により器面はザラザラしている。頸部下に斜位と横位の櫛目痕により斜格子目文をつくりだしてある。
2. 口縁部の破片。広口壺の資料と思われる。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。磨滅によりザラザラしている。
3. 脇部の4分の1を欠損。小形壺（壺）。色調は赤褐色を呈し、胎土には赤色小粒等を含む。器面は磨滅しているが、籠みがきの痕跡がある。

甕形土器

4. 3分の1を欠損。色調は外面黒褐色、内面暗褐色を呈し、胎土には赤色小粒、砂粒などを含む。内外面に刷毛目がみられる。
5. 脇部上半の3分の1を欠損。台付甕。色調は赤褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部・台部下半に横撫でがみられる。肩部に刷毛目（波状櫛目文、流水文に似る）が認められる。磨滅により若干ザラザラしている。
6. 口縁部の破片。S字状口縁台付甕の資料。色調は暗褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部は横撫で、外面には斜位と横位の刷毛目がみられる。
7. 肩部より上半の破片。S字状口縁台付甕の資料。色調は褐色を呈し、胎土には石英・長石小粒、赤色小粒、砂粒などを含む。口縁部は横撫で。頸部下面は刷毛目が顕著。
8. 台付甕の台部資料。色調は褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。外面は刷毛目のみ、内面は刷毛目と籠けずりがみられる。
9. 3分の2を欠損。色調は褐色を呈し、胎土には雲母小片、砂粒を含む。口縁部は横撫で、肩部は刷毛目が施されている。

瓶形土器

10. 完形。色調は赤褐色を呈し、内外面ともに刷毛目が顕著である。胎土には砂粒などを含み、焼成良好。
11. 3分の2を欠損。色調は淡褐色を呈し、胎土には石英・長石小粒等を含む。外面は櫛齒状工具による調整痕がみられ、内面は細かい刷毛目が顕著である。磨滅によりザラザラしている。

器台形土器

12. 脚部下半を欠損。色調は褐色を呈す。器受部は口縁部に横撫で、内外面に籠みがきが施され、底部に単孔があく。脚部外面は籠みがきにより仕上げられているが、内面は籠けずりのみである。脚部には3孔がある。

蓋形土器

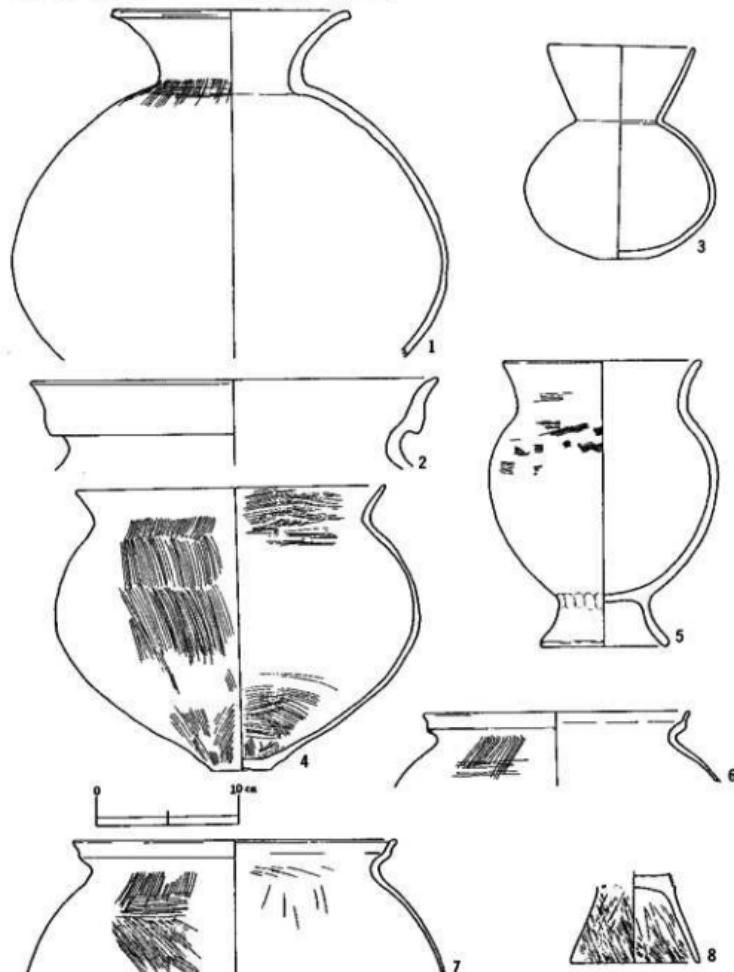
13. ツマミ部が若干欠損。色調は褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。内外面に刷毛目がみられ

るが、特に内面は顯著である。

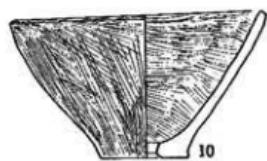
#### 石 器

14. 磨石。挙大の石で、帯状に磨滅痕がまわっており、表と裏に敲打痕がある。石材は安山岩。

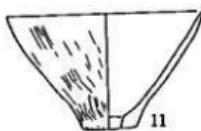
15. 欠損しているが、方形槽状の形態の石皿と思われる。直立する縁で裏に脚台をもつ。石材は多孔質の安山岩。14・15は縄文時代の所産と思われる。



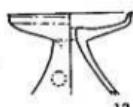
第16図 第4号住居址出土遺物(1/4)



10



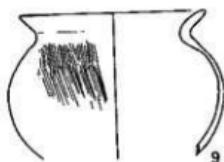
11



12



13



9



15



14



第17図 第4号住居址出土遺物 (1/4)

### 〈第5号住居址〉（第18図）

発掘区域内西側にあり、北壁西側で6号住居址に切られており壁は遺存していない。時期は五領期と思われる。

#### 〔構造〕

平面形 開口長方形

規模 長軸の長さ7.7m、短軸の長さ6.6m

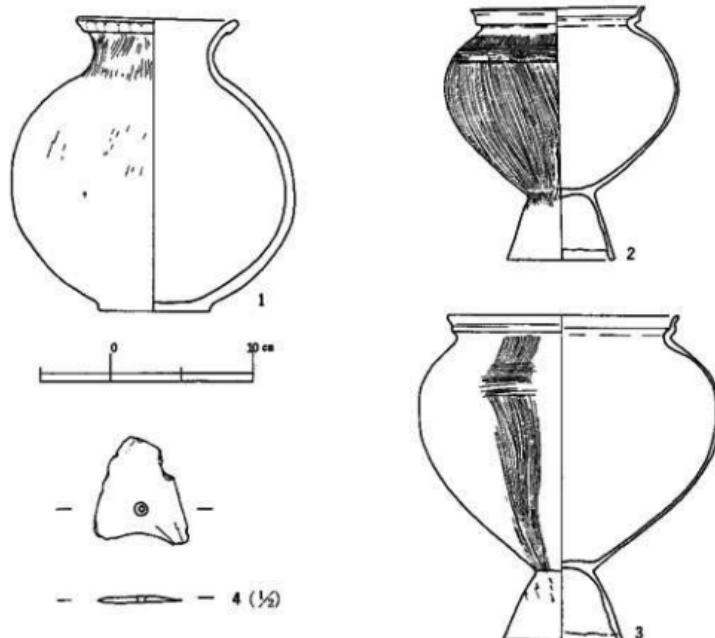
主軸の方向 N-1°-E

壁 ローム層を掘り込んであり立ち上がりをもつ。削平により西側から東側へ漸次低くなっている。壁高は15~45cmを測る。

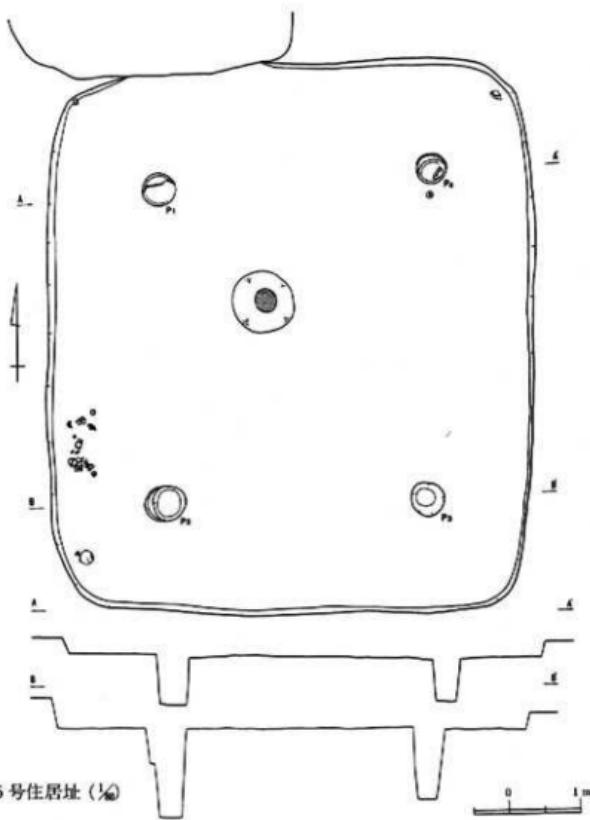
床 暗黄褐色土の床面。比較的平坦であるが軟弱である。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。深さはP<sub>1</sub>70cm、P<sub>2</sub>80cm、P<sub>3</sub>100cm、P<sub>4</sub>60cmを測る。

炉 床面中央より北西に位置する。直径80cmの円形を呈し、深さ14cmでレンズ状に掘り立む。焼土の範囲は直径30~35cmの不整円形を呈す。



第19図 第5号住居址出土遺物 (3)



第18図 第5号住居址(1/6)

〔出土遺物〕 (第19図)

壺形土器

1. 褐色を呈する完形の壺。底部に木葉痕が認められる。胎土は精製され、焼成は良好。胴部外面は刷毛目整形の後範みがきが施される。頭部外面及び器内面は刷毛目がみられる。

壺形土器

2. 5分の1を欠損。S字状口縁の台付甕。色調は褐色を呈し、胎土には雲母片、砂粒を含む。口縁部には横拂で、胴部には刷毛目整形が施される。頭部下に横位の平行沈線が走る。

3. 3分の2を欠損。S字状口縁の台付甕。外面は暗褐色、内面は褐色の色調を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部は横拂で、胴部外面は刷毛目がある。

磨製石鑿

4. 炉址より出土。若干欠損。基部に単孔があく。緑色片岩質の石材で薄くつくられている。

### 〔第6号住居址〕（第20図）

発掘区西側、5号住居址北側に位置する。南壁が5号住居址と境を接している為、遺構間の切り合いと埋没土の状態の観察用に、東西・南北に十字に土手を残し調査を行った。埋没土は色調から言うと褐色土と暗褐色土が交互に堆積している。竪穴の遺存状態は良好であるが、出土遺物は少ない。時期は五領期と思われる。

#### 〔構造〕

平面形 圓円長方形

規模 長軸の長さ4.7m、短軸の長さ4.2m

主軸の方向 N-5°-W

壁 ローム層を掘り込んで良好な立ち上がりをみせるが、南壁は5号住居址と重複しておりあまり良好ではなかった。壁高は約20cmを測る。

床 堅く平坦な黄褐色土の床面。

柱穴 各壁から中央よりに規則的に配列された4個と、南壁よりに飛び出た1個の小穴が支柱穴と思われる。直径は5個とも約30cmで、床面からの深さはP<sub>1</sub>60cm、P<sub>2</sub>65cm、P<sub>3</sub>55cm、P<sub>4</sub>48cm、P<sub>5</sub>45cmを計測する。

炉 床面中央部から北よりに位置し、長径160cm、短径65cmの不整隋円形を呈し、深さ6cmでレンズ状に窪んでいる。焼土範囲は長径60cm、短径30cmの不整隋円形で、直径8cm長さ19cmの枕石をともなう。

尚、床面東隅南壁添に直径約40cm、床面からの深さ35cmの円形の穴が検出された。この穴は貯蔵穴と思われ、周囲には土手状のたかまりが半月形に繞っている。

#### 〔出土遺物〕（第21図）

甕形土器

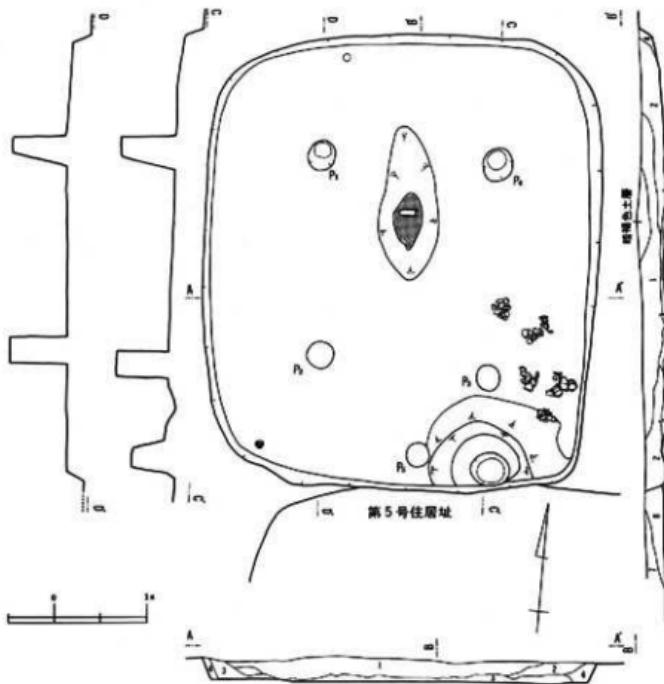
1. 台部下半を欠損。小形の台付甕。色調は暗褐色を呈する。胸部外面上半に刷毛目がみられる。口縁部は横撫で施され、刻目が連続する。

片口付甕形土器

2. 色調は褐色を呈し、胎土には石英・長石・金雲母・砂の小粒を含む。口縁部は横撫で、外面は刷毛目の上を籠みがきで仕上げてあがるが、磨滅によりザラついている。3分の1を欠損する。

土製円盤

3. 直径7.5cmの円形をなし、色調は暗褐色を呈す。



1. 棕色土層
2. 單褐色土層
3. 單褐色土層(カーボン、燒土を含む)
4. 棕色土層(黄褐色土を混入する)
5. 單褐色土層(黄褐色粒子、燒土粒子を含む)
6. 單褐色土層(燒土、灰を混入する)
7. 棕色土層(黄褐色粒子、小さなロームブロックを若干含む)
8. 單褐色土層(黄褐色、赤褐色の粒子を含む)

第20図 第6号住居址 (5)



第21図 第6号住居址出土遺物 (3)

### 〈第7号住居址〉 (第22図)

発掘区域内中央に位置する。表土層を排土した段階で黒褐色の落ち込みを確認。大形の深い住居ではあるが出土遺物は比較的少量であった。時期は五領期と思われる。

#### 【構造】

平面形 圓円長方形

規模 長軸の長さ 7m、短軸の長さ 6.2m

主軸の方向 N-68°-W

壁 ローム層を掘り込んでおり、良好な立ち上がりをもつ。壁高は45~55cmを測り、やや外傾している。

床 床面は平坦で、粘性のある黄褐色土を張り、堅く踏み固められ所謂バリバリの状態である。この貼床は厚さ5cmで全体を覆っており、それを削がすと堅い床がさらに全体に確認された。

柱穴 各壁から中央よりに規則的に配列された4個の小穴が主柱穴と思われる。直径は25~30cmで、深さ45~50cmを測る。

炉 床面中央から北西よりに、長径55cm短径30cmの不整隋円形状に焼土がある。東よりに地床炉があり、縫穴状の平面形を呈し、東側に焼土が散在し長さ35cm底辺13cmの三角形状の扁平な石が置いてあった。

周溝はなく、他に内部施設として南壁添いに、直径30cm、深さ30cm程の円形の穴と、長径110cm、短径90cmの不整隋円形状に床面が産んだなかに長径55cm、短径45cm、深さ50cm程の不整円形状の穴が発見された。また、貼床を削いた段階で、床面北東隅に小穴が発見された。

#### 【出土遺物】 (第23図)

壺形土器

1. 口縁部の破片。色調は明褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部は横撫でが施される。
2. 口縁部の破片。色調は明褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部は横撫での調整。胴部に刷毛目がみられる。

坏形土器

3. 3分の1を欠損。色調は赤褐色を呈し、胎土には石英・長石・雲母片・砂粒を含む。焼成は良好。全面に丹念な窓みがきが施されている。

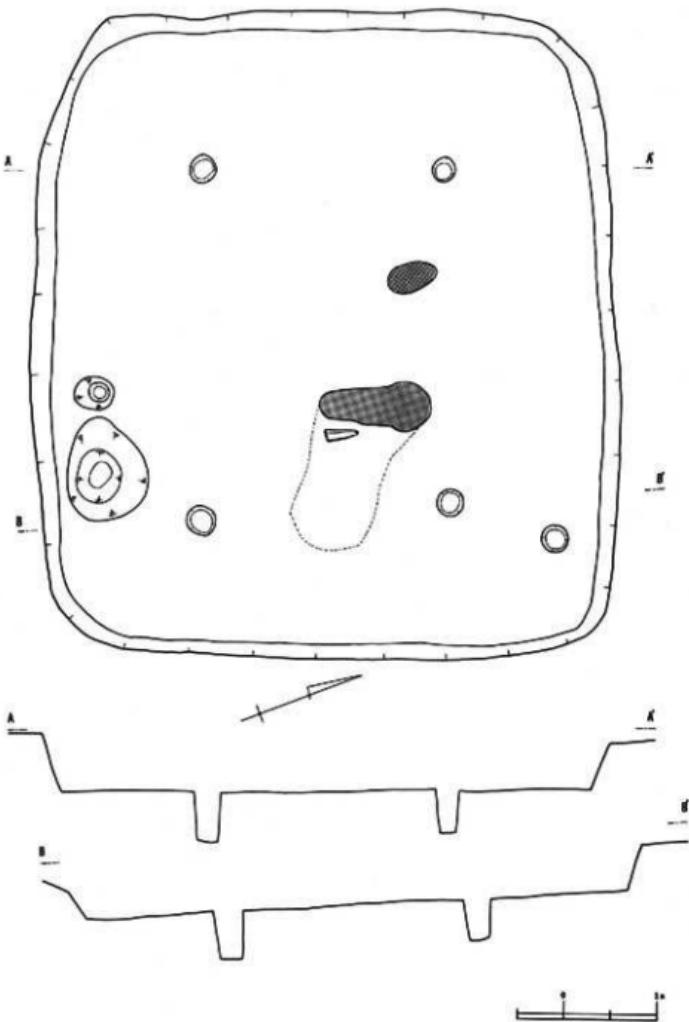
4. 3分の1を欠損。コップ形土器。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。焼成良好だが、磨滅により若干ザラついている。

5. 完形品。コップ形土器。色調は明褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。焼成は良好。

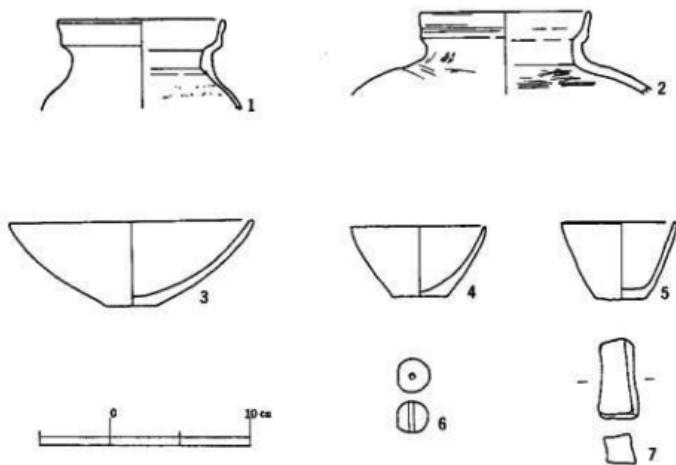
土製品・石器

6. 土製錠球

7. 砥石。床面出土。全面使用された痕跡がある。



第22図 第7号住居址 (36)



第23図 第7号住居址出土遺物 (1/4)

#### 〈第8号住居址〉

擾乱等による削平が著しく、若干の床面と東側壁がわずかに残存しているだけである。時期は五傾期と思われるが、不明である。

#### 〔構造〕

平面形　隅円方形と思われる。

規模　南北3.3m、東西不詳

壁　削平により東壁が遺存するのみ、最高10cmの壁高をもち若干の立ち上がりがみられる。

床　中央部に長辺2.5m、短辺1mで堅い床面が残存。

柱穴　なし

炉　中央部に長径75cm、短径50cmの不整圓錐形を呈し、やや窪んで直径20cm程で焼土がある。

### 〔特殊遺構〕（第24図）

発掘区南東に位置する。遺構内には焼土、炭、石等が散在している。遺構外周に小穴が発見された。出土遺物は、遺構内からは雜器の壺の破片が、周辺からは小形の土器片がみられたが、時代判定は難しい。

### 〔構 造〕

平面形 隅に丸味をおびた長方形

規模 長軸は2.3m、短軸は2.7mを測る。

主軸の方向 N—3°—W

壁 若干の立ち上がりをもつ。壁高は7cm前後を測る。

床 軟弱である。

柱穴 なし。遺構内西壁に接し直径30cm、深さ17cmの小穴が発見された。また、遺構外周に6個の小穴が発見された。大きさは、P<sub>1</sub>直径30cm、深さ35cm、P<sub>2</sub>直径30cm、深さ70cm、P<sub>3</sub>直径35cm、深さ43cm、P<sub>4</sub>直径25cm、深さ12cm、P<sub>5</sub>直径25cm、深さ9cmを測る。

### 〔出土遺物〕（第24図）

環形土器

1. 3分の1を欠損。色調は赤褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。焼成は良好であるが、磨滅によりザラついている。

壺形土器

2. 口縁部を若干欠損するがほぼ完形の小形の壺形土器。色調は淡褐色を呈し、丹彩してある。胎土には砂粒を含み、焼成良好。胴部下半に単孔があく。頸部に円形貼付文があり、1ヵ所欠落しているが4ヵ所に付けられていたと思われる。

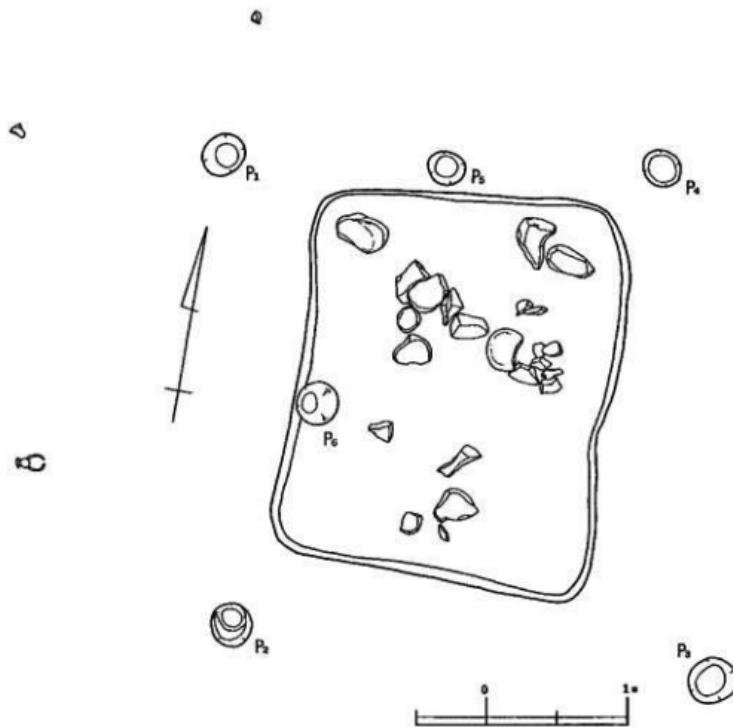
### 第1号掘立柱建物址 （第25図、穴内数字は確認面からの深さを表す。）

発掘区西側、第6号住居址の西に位置する。北及び北西部部分は調査区域外で完掘できなかつたが、柱間は東西約1m75cm、南北約1m80cmで、東西2間南北3間の掘立柱建物であると思われる。主軸の方向はN—7°—W。柱穴は、直径20~40cm、確認面からの深さは11~40cmを測る。出土遺物はなく、構築時期は不明。

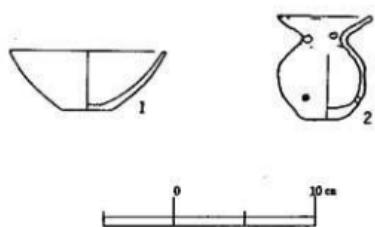
### 第2号掘立柱建物址 付穴列 （第26図、穴内数字は確認面からの深さを表す。）

第1号掘立柱建物址の西側に位置する。穴は6個検出され、東西約2m30cm前後、南北約1m80cmの間隔で配列されていた。第1号掘立柱と同じ形態と思われるが、北側が調査区域外であり断定はできない。直径は20~40cm、確認面からの深さ20~45cmを測る。遺物の出土はなく、時期は不明である。

尚、西に3m程離れて、南北に1m90cmの間隔で2個の穴が検出された。

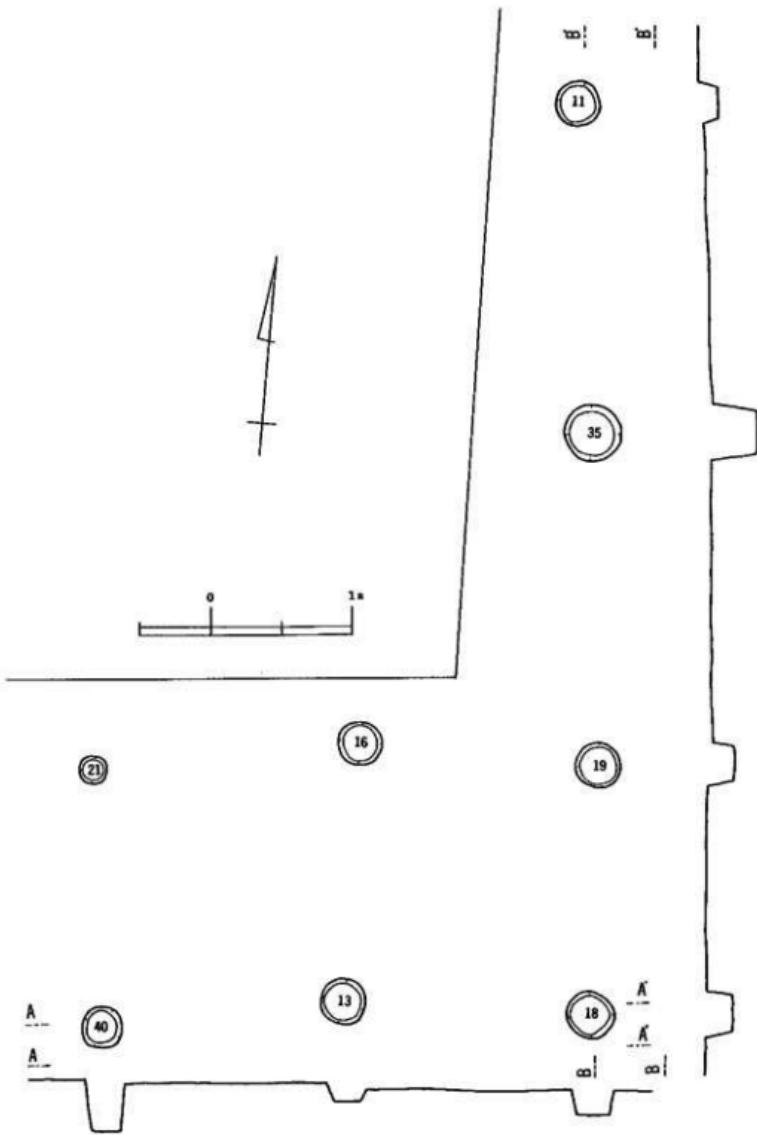


遺構平面図 (1/4)

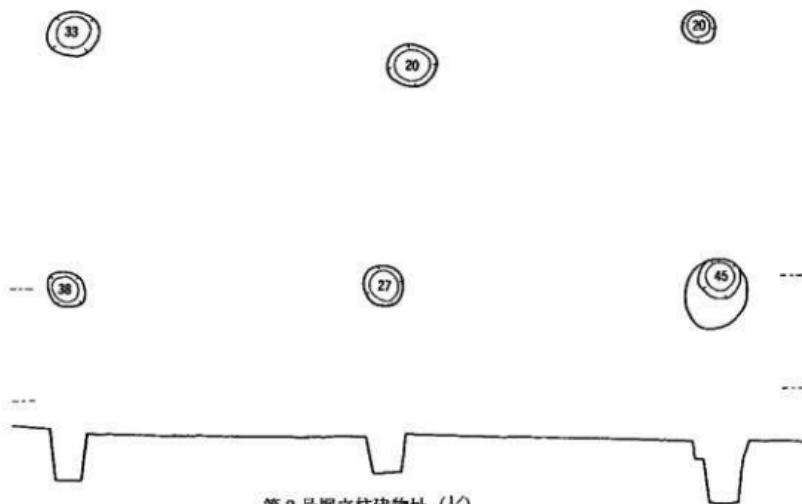


出土遺物 (1/4)

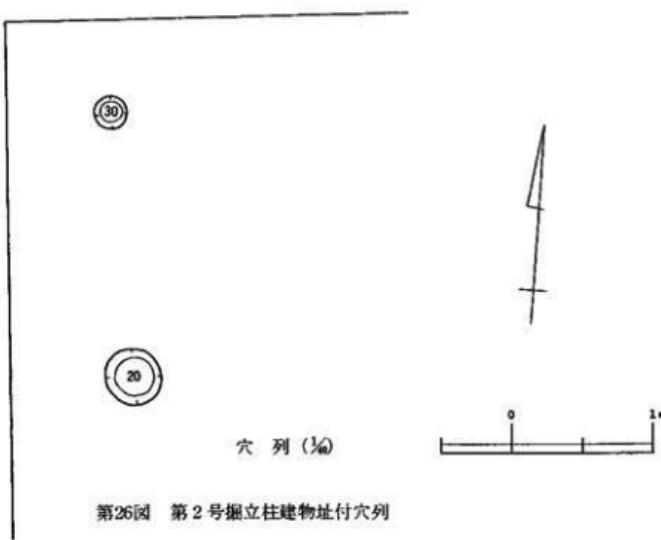
第24図 特殊遺構



第25図 第1号掘立柱建物址 (1)



第2号掘立柱建物址 (ノム)



第26図 第2号掘立柱建物址付穴列

## 2. 第2次調査

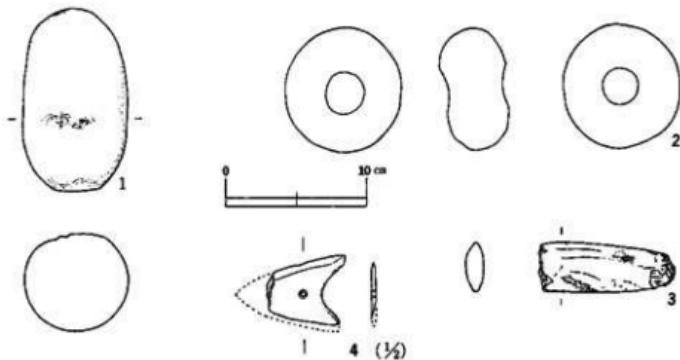
### A地区 配石遺構（第27図）

発掘区南西端に位置する。幅2m、長さ6m強で、北西にコーナーをもつ弧状に石が並んでいる。出土遺物は、土器片、石器類が若干みられた。構築時期は縄文時代と思われるが、定かではない。

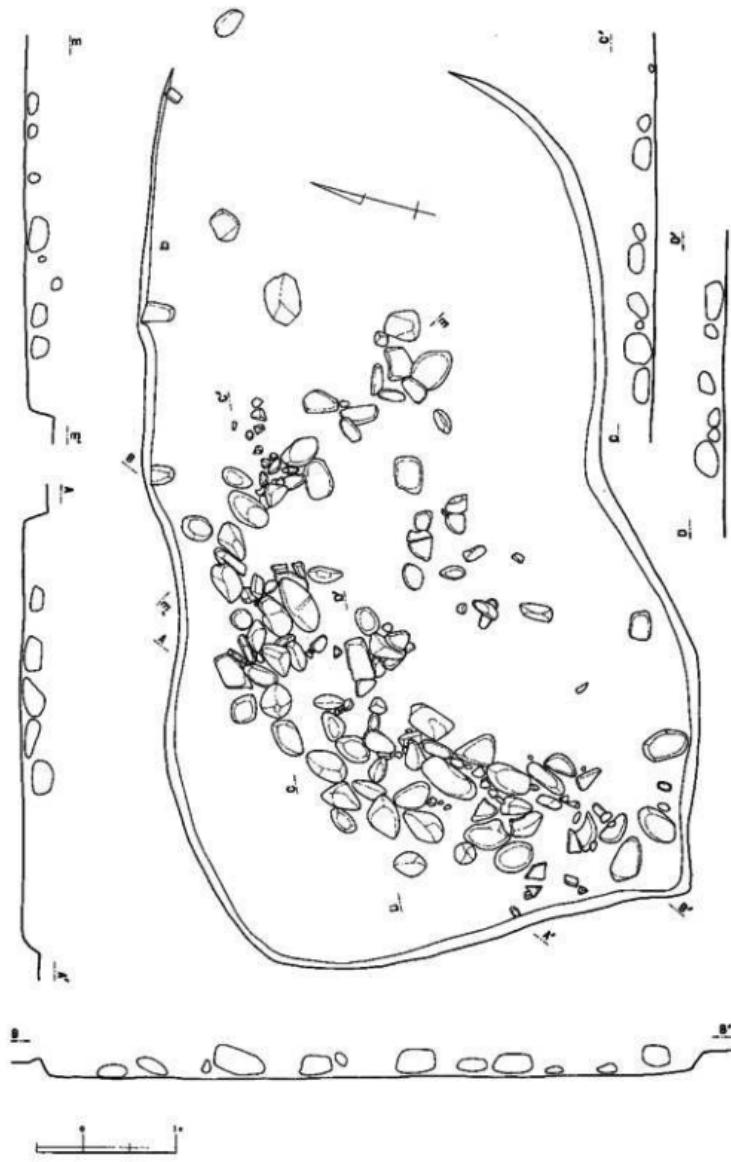
### 〔出土遺物〕（第28図）

#### 石 器

1. 磨石。形態は砲弾形を呈する。安山岩質の石材をもちいてあり、敲打痕もみられる。
2. 回石。偏平な安山岩質の石で、両面に凹みがある。
3. 刃部を欠損する磨製石斧と思われる。緑泥片岩製であるが、石剣を2次加工してつかわれた可能性もある。
4. A地区トレンチ内から出土。緑色片岩製の磨製石鎌の破片。薄く、基部に単孔があく。



第28図 A地区 配石遺構出土石器 (少)



第27図 A地区配石造構 (16)

### A地区 第1号住居址（第29図）

発掘区南側に位置する。該地は以前に長芋の畑であり、トレンチャーによる擾乱が帯状に何本も走る。黄褐色土中に黒褐色土の落ち込みを発見し、発掘を行う。小形の深い住居址であり、擾乱が著しいが出土遺物は良好であった。時期は五領期であろう。

#### 〔構造〕

平面形 四円方形

規模 長軸の長さ 3m60cm、短軸の長さ 3m30cm。

主軸の方向 N-15°-W

炉址 床面中央部から北東よりに直径18cm前後の範囲で焼土がみられた。

柱穴 なし

床 比較的平坦であるが、軟弱である。

壁 ローム層を掘り込んであり、外傾し良好な立ち上がりをもつ。壁高は43cm～66cmを測る。

周溝 なし

#### 〔出土遺物〕（第30図）

##### 壺形土器

1. 胴部以下を欠損する大形の壺。色調は褐色を呈するが、内面の口縁部から頸部にかけては黒色を呈する。胎土には砂粒等を含む。焼成は良好。籠みがきにより仕上げてあるが、所々に刷毛目痕がみられる。複合口縁外側に4本1単位の棒状浮文が4ヶ所に付けられている。肩部には刺突のある円形貼付文が3個1単位で3ヶ所に付けられている。

2. 胴部以下を欠損。色調は外面褐色、内面明褐色を呈する。内外面ともに刷毛目が頗著に認められる。口縁部には刻目が連続する。

3. 胴部以下を欠損。色調は明褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒等の砂粒を含む。折り返し口縁の外側は刷毛目の上を横撫してあり、内側は刷毛目が認められる。外面は刷毛目があり、さらにその上は籠みがきが施されている。

##### 壺形土器

4. 胴部だけ。色調は褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。焼成は良好で、薄手である。外面に刷毛目が頗著である。台付壺と思われる資料。

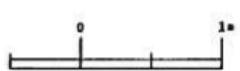
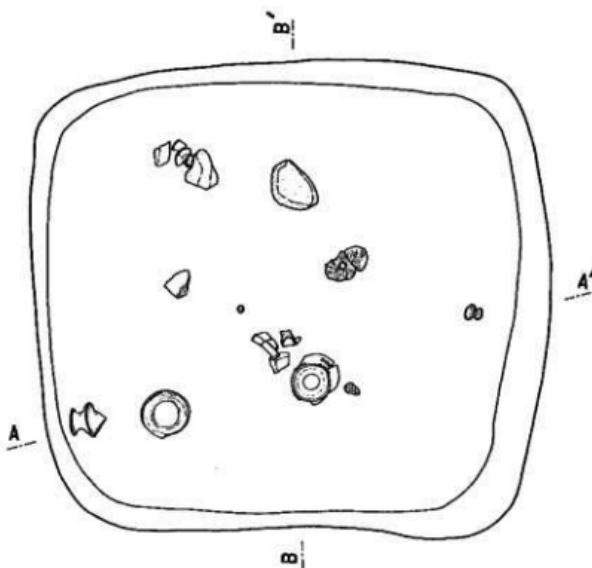
5. 台部破片。台付壺の資料。色調は外面明褐色、内面暗褐色を呈する。外面に刷毛目がみられる。

##### 高杯形土器

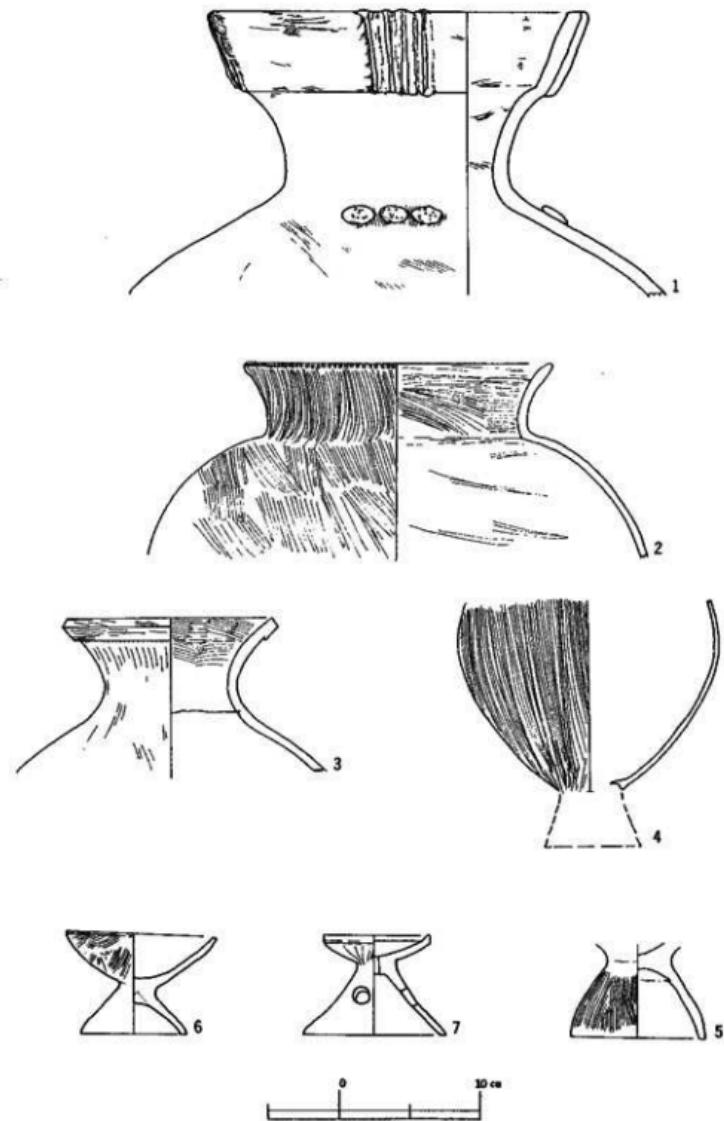
6. 小形の完形品。色調は明淡褐色を呈する。杯部外面に刷毛目がみられる。

##### 器台形土器

7. 器受部先端を若干欠損するが略完形。色調は褐色を呈する。焼成良好。器受部は段を有し、底部に孔があく。脚部は3孔を有する。脚部内面は刷毛目が認められ、他は丹念な籠みがきが施され、丹彩された痕跡が認められる。



第29図 A地区第1号住居址 (%)



第30图 A地区第1号住居址出土遗物 (3/4)

### B地区 第1号住居址（第31図）

B地区、東南端に位置する。削平により若干浅めの堅穴となっており、遺物の出土も少ない。時期は五頭期であろう。

#### 【構造】

平面形 円形

規模 長軸の長さ 4m90cm、短軸の長さ 4m70cm

主軸の方向 N-15°-W

炉址 床面中央から北よりにある。

柱穴 整然と配列された4個の柱穴がある。直径は26cm～37cmで、床面からの深さは27cmを測る。

床 平坦、軟弱。

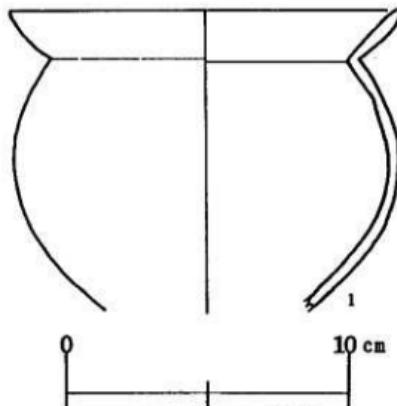
壁 ローム層を掘り込んであり、壁高は20cm前後でやや外傾している。

周溝 なし

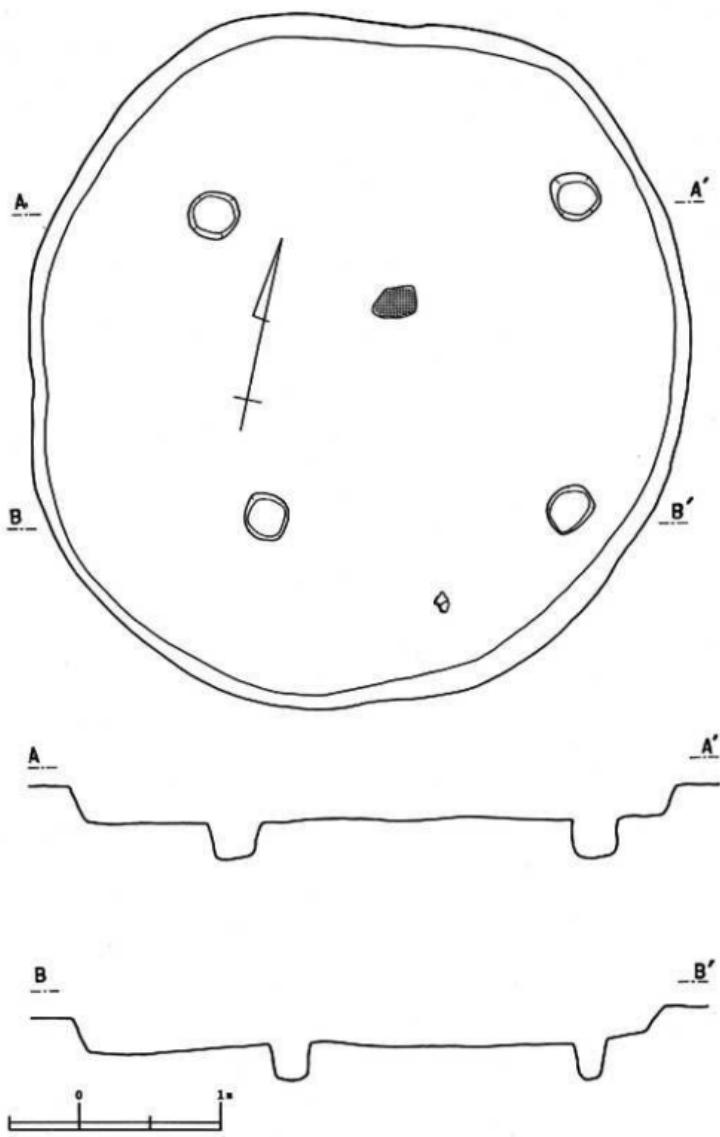
#### 【出土遺物】（第32図）

変形土器

1. 胸部以下を欠損。色調は赤褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部は横撫で、外面は箒みがきが施されている。



第32図 B地区 第1号住居址出土遺物（3分）



第31図 B地区第1号住居址 (縦)

## B地区 第2号住居址（第33図）

B地区、東端に位置する。褐色土の落ち込みを確認し、東西南北に土層観察用の土手を残し、発掘を行う。埋没土は上層から、暗褐色土、黄褐色土、褐色土、暗褐色土の順で堆積。最下層の暗褐色土は焼土、灰、炭などが混入していた。土器の出土は少量であるが、小形品の出土が目立った。時期は五領期と思われる。

### 〔構造〕

平面形 四円方形

規模 長軸の長さ 6m、短軸の長さ 5m 60cm

主軸の方向 N-14°-W

炉址 中央部から北、北壁・東壁コーナーよりにある。東西55cm、南北60cmの円形を呈し、焼土は厚さ5cmでレンズ状に堆積している。幅8cm、長さ24cmと、幅6cm前後、長さ17cmの枕石を2個ともなう。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。直径は24cm～36cm、床面からの深さ60cm前後を測る。

床 黄褐色土の床面で、全体的に平坦で堅い。火災を受けたらしく、焼土、灰、炭化材が散在していた。

壁 ローム層を掘り込んで良好な立ち上がりをもつが、北側は、南側に比し削平が顕著である。壁高は、浅い所で7cm、深い所では35cm。

周溝 なし

尚、内部施設として、南壁ぞい東よりに貯蔵穴がある。この穴の周囲には、コの字形に土手状のたかまりが続いている。

### 〔出土遺物〕（第34図）

壺・塊形土器

1. 完形。色調は外面淡褐色、内面赤褐色を呈する。胎土には砂粒を含み、焼成良好。横撫で、箆状工具による磨きで器面を密にしてある。

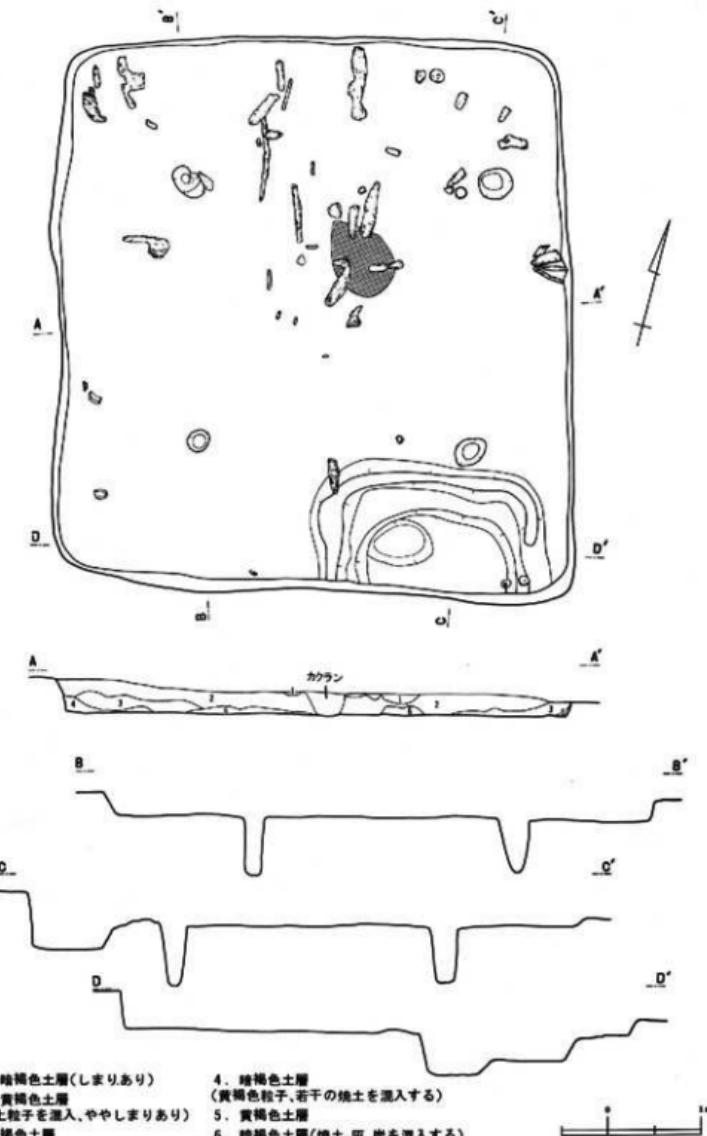
2. 完形の塊。色調は淡褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒、金雲母などを混入する。口縁部は横撫で調整。胴部外面には若干の刷毛目痕が認められ、内面には指頭押圧痕がみられる。高坏形土器

3. 坏部を欠損するが、高坏形土器脚部と思われる。色調は褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒、砂粒などを含む。4孔を有し、外面は刷毛目の上に箆みがきが施されている。

蓋形土器

4. 略完形。色調は淡褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母小粒、砂粒を含む。紐作りによってつくられ、横撫でにより仕上げてある。ツマミ部は孔が穿ってある。

5. 略完形。色調は赤褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。紐作りによってつくられる。外面に

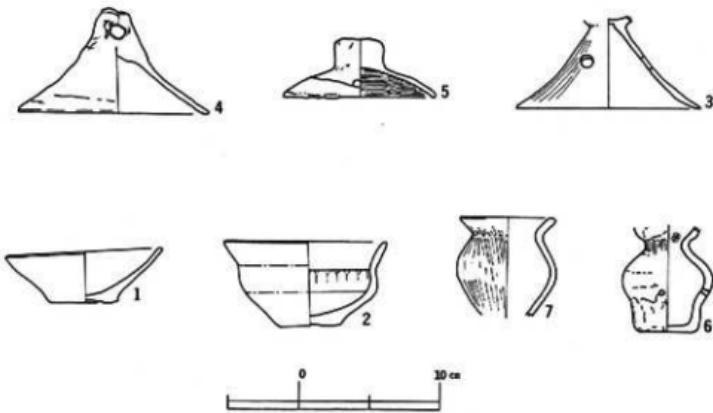


第33図 B地区第2号住居址 (3分)

指頭押圧痕がみられ、内面には刷毛目が顕著である。

#### 小形土器

6. 口縁部を欠損する壺形土器の小品。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。外面は、指頭による押圧、撫でがみられ、頸部及び胴部下半に刷毛目がみられる。胴部中位に小孔があく。
7. 3分の1を欠損。底部の破損状況により、小形の台付甕と思われる。色調は淡褐色を呈する。内面は籠みがきにより仕上げられ、外面は刷毛目がみられる。



第34図 B地区 第2号住居址出土遺物 (34)

### B地区 第3号住居址（第35図）

B地区、第1号住居址の西側に位置する。ローム層中に黒褐色土のシミを発見したが、住居址かどうか、確認する為土層観察用の土手を東西・南北十字に残し発掘を行う。埋没土の状態は上層から黒褐色土、褐色土、黄褐色土の順に大別できる。不整形の住居址で遺物の出土は少ない。時期は五傾期と思われる。

#### 【構造】

平面形 隅円不整方形、各辺のやや張る梯形を呈する。

規模 長軸の長さ4m30cm、短軸の長さ2m70cm

主軸の方向 N-33°-W

炉址 床面中央部をはさんで南北に1つずつ焼土が有る。北は、30cm四方の菱形、南は、南北67cm、東西57cmで、深さ10cmに焼土と黒褐色土が混入し、以下6cmにわたり焼土がレンズ状に堆積している。

柱穴 なし

床 床面は黄褐色土で比較的平坦であるが軟弱。

壁 ローム層を掘り込んであり、やや外傾した良好な立ち上がりをもつ。壁高は25cm～45cmを測り南壁がやや高い。平均35cm。

周溝 北東壁コーナーから同中央の壁側面にかけて確認できた。深さ4cm～7cm、周溝幅は6cm～10cm。

#### 【出土遺物】（第36図）

壺形土器

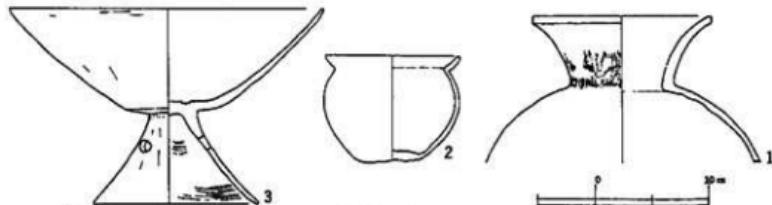
1. 脇部下半を欠損。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部外側に横撫で、頸部外面に細かい刷毛目がみられる。口縁部内面と脇部外面は篦みがきが施される。

壺形土器

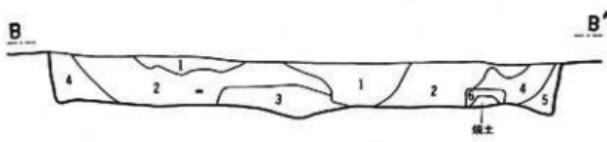
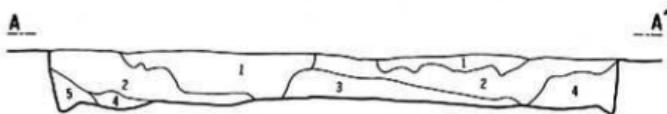
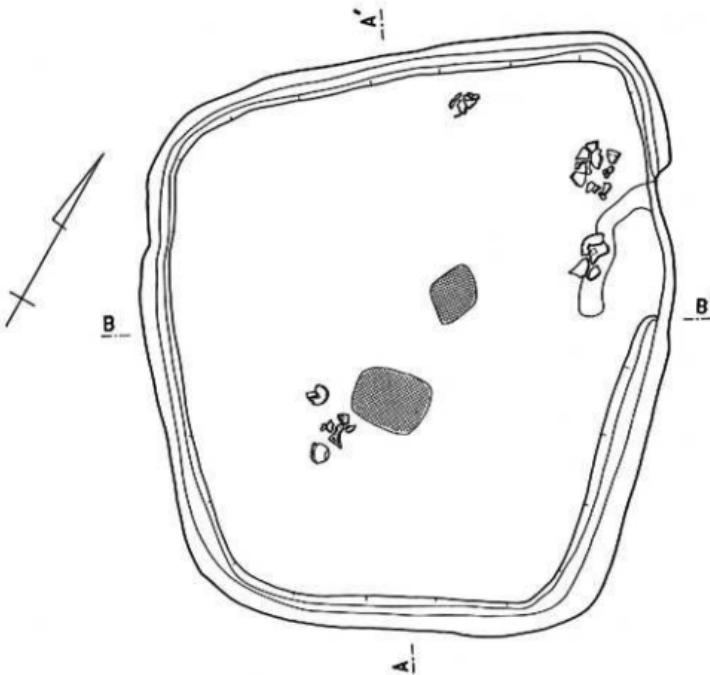
2. 口縁部を若干欠損。色調は褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部は横撫で整形。

高坏形土器

3. 3分の1を欠損。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。焼成良好。器面は篦状工具により磨かれているが、刷毛目が部分的に残っている。脚部には3孔が穿ってある。



第36図 B地区 第3号住居址出土遺物(3)



- |               |                          |
|---------------|--------------------------|
| 1. 黑褐色土層      | 4. 黃褐色土層                 |
| 2. 黄色土層       | 5. 黄褐色土層<br>(若干の燒土粒子を含む) |
| (若干の燒土粒子を含む)  | (黄褐色土ブロック粒子を含む)          |
| 3. 棕色土層       | 6. 棕色土層<br>(暗褐色土、燒土粒子混入) |
| (暗褐色土、燒土粒子混入) | (燒土を含む)                  |

第35図 B地区第3号住居址 (1/4)

#### B地区 第4号住居址（第37図）

B地区、南端に位置する。遺構内に十字の土層觀察用の土手を残し調査を行う。埋没土は大別して、上層から黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土の順で堆積。堅穴は深く、遺物の出土も多い。残存状態のよい住居址である。時期は五領期であろう。

##### 〔構造〕

平面形 圓円方形

規模 長軸の長さ 5m40cm、短軸の長さ 4m60cm

主軸の方向 N-87°-E

炉址 床面中央部から、北東コーナーよりに位置する。直径54cm程の不整円形を呈し、焼土、褐色土がレンズ状に10cmほどに堆積。炉の南側に、長さ約45cmのハマグリ状の偏平な石が置いてあった。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。直径は23cm前後、床面からの深さは35cm前後を測る。

床 床面は黄褐色土、全面的に平坦で比較的堅い。

壁 ローム層を掘り込んで良好な立ち上がりをもつ、壁はやや外傾している。壁高は南47cm、北50cm、東42cm、西50cm。

周溝 なし

尚、内部施設として、南壁ぞい中央からやや東よりに貯藏穴がある。この穴の周囲には半月形に土手状のたかまりが繞っている。

##### 〔出土遺物〕（第38・39図）

壺形土器

1. 口縁部、胴部3分の1を欠損。胴部下半に最大径をもつ大形の壺。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。口縁部内面は横位の籠みがき、器外面は縦位の籠みがきが施してあるが、磨滅によりザラついている。

2. 壺形土器の胴部下半と思われる。色調は赤褐色を呈する。底部付近に刷毛目がみられる。甕形土器

3. 台部を若干欠損。S字状口縁台付甕。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。胴部外面に刷毛目が顕著。肩部内面に指頭押圧痕と刷毛目がみられる。

4. 略完形。色調は赤褐色～淡褐色を呈し、胎土には砂粒、土器粉砕粒を含む。磨滅によりザラザラしているが、焼成良好で薄手の土器である。口縁部は横撫でが施され、胴部外面は刷毛目が顕著である。外面肩部上に横位の平行沈線が2段に施されている。

5. 胴部下半を欠損。S字状口縁台付甕の資料。色調は淡褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒、砂粒を含む。口縁部は横撫でが施され、胴部外面は斜位の刷毛目がみられ、肩部に横位の刷毛目がつけられている。

6. 口縁部破片。S字状口縁台付甕の資料。色調は外面淡褐色、内面褐色を呈する。口縁部に横撫で、外面頸部下に刷毛目がみられる。肩部内面に指頭押圧痕がある。
7. 口縁部破片。S字状口縁台付甕の資料。色調は淡褐色を呈する。口縁部に横撫で整形。頸部以下に斜位の刷毛目がみられる。
8. 口縁部破片。台付甕と思われる資料。色調は褐色を呈する。内面は籠みがきが施され、外面は刷毛目が顕著である。

#### 甕形土器

9. 3分の2を欠損。色調は赤褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒などを含む。籠みがきが施されるが、磨滅によりザラザラしている。

#### 器台形土器

10. 器受部破片。器台形土器資料。色調は赤褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。磨滅が激しくザラザラしているが、器受部先端には横撫での痕が認められる。

#### 坏形土器

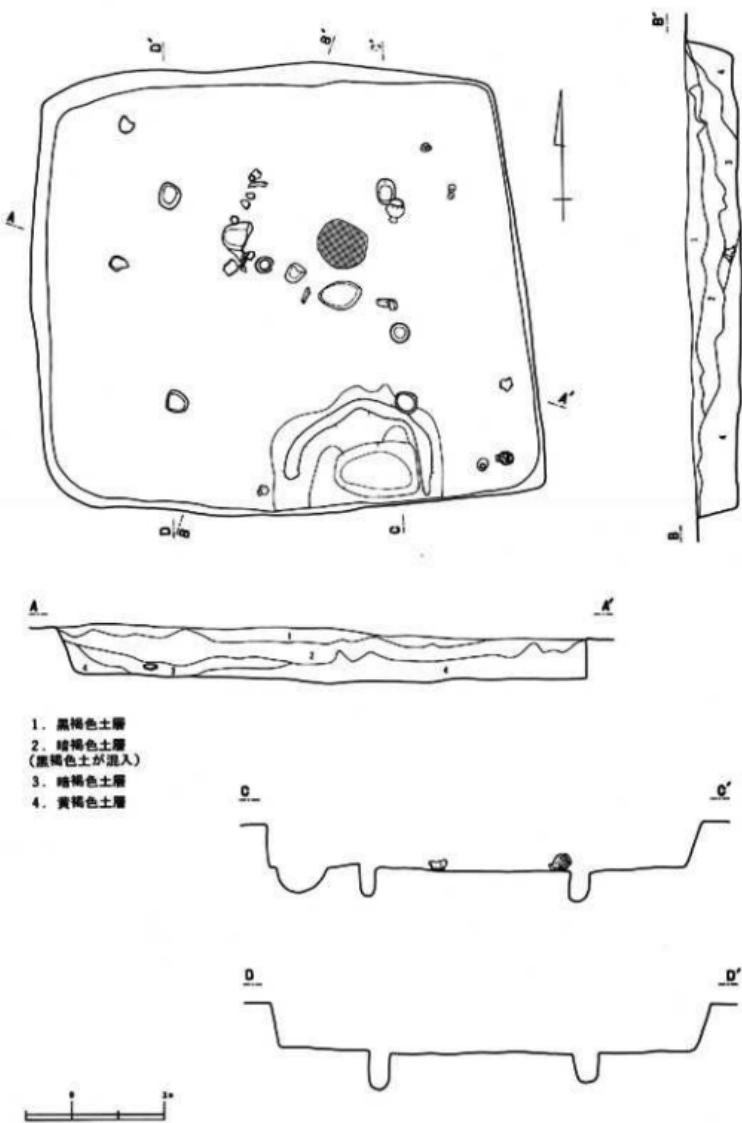
11. 口縁部若干欠損。色調は淡褐色を呈し、胎土は精製してあり、焼成良好。器面は、刷毛目の上を籠みがきで仕上げてある。

#### 手捏形土器

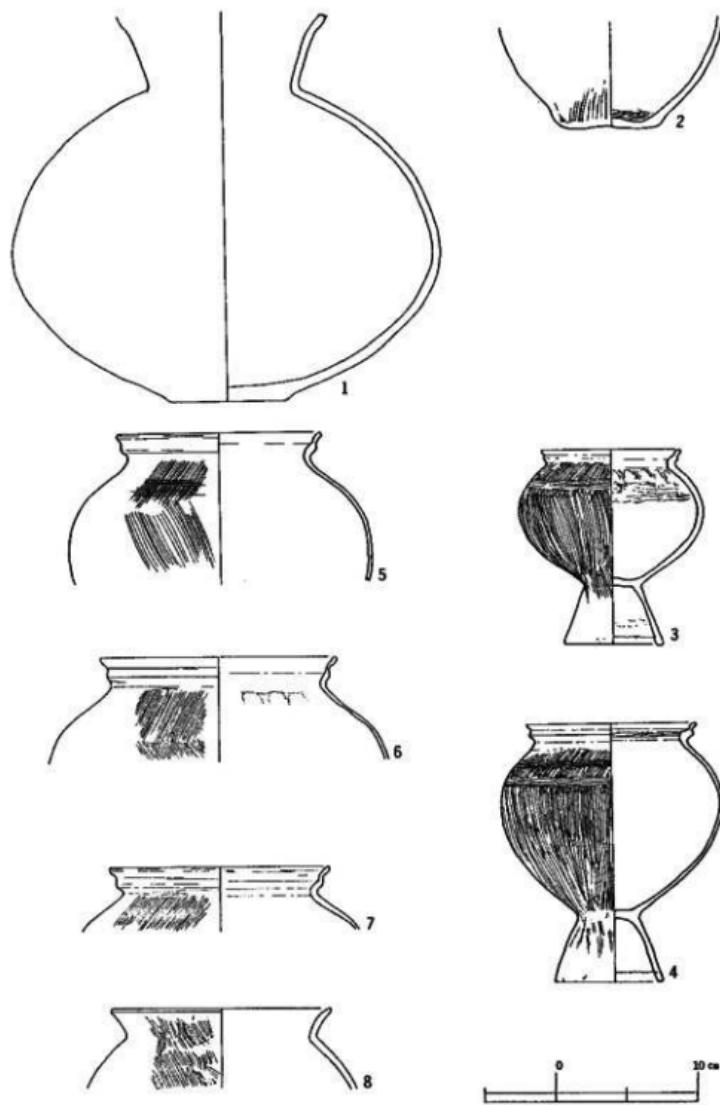
12. 完形。色調は褐色～暗褐色を呈する。

#### 石 器

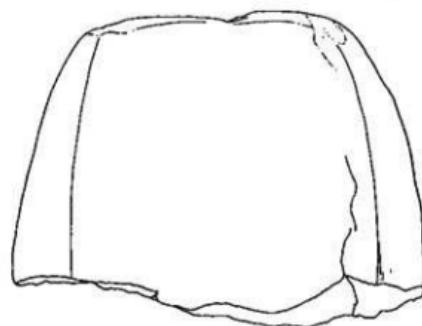
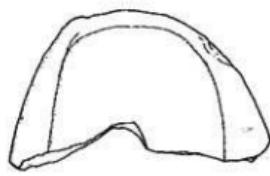
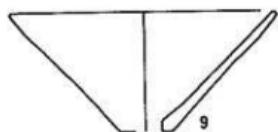
- 13・14. ともに埋没土中位から出土。破損しているが、片面に凹みをもつ石皿。安山岩質の石材を用いてある。縄文時代の所産であろう。



第37図 B地区第4号住居址 (ノロ)



第38図 B地区第4号住居址出土遺物(少)



13

14



第39図 B地区第4号住居址出土遺物 (3/4)

### B地区 第5号住居址（第40図）

B地区、南側に位置する。ローム層中に黒褐色土の落ち込みを発見し、土層観察用の土手を残し発掘する。埋没土の状態は、大別して上層から黒褐色土、褐色土の順である。床面は軟弱であるが、比較的大形の深い住居である。時期は五領期であろう。

#### 【構造】

平面形 囲円長方形

規模 長軸の長さ 6m65cm、短軸の長さ 5m45cm

主軸の方向 N-90°-W

炉址 床面中央部から北東よりに位置する。直径、東西57cm、南北68cmの不整隋円形を呈し、焼土は厚さ16cmでレンズ状に堆積している。炉東端に長さ27cm、幅27cm、厚さ7cmの偏平な石が置いてあった。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。直径は30cm強で、床面からの深さ52cm~68cmを測る。

床 床面は黄褐色土で、比較的平坦であるが、軟弱で堅い面はない。

壁 ローム層を掘り込んであり、比較的良好な立ち上がりをもつ、壁高は40cm前後である。

周溝 なし

#### 【出土遺物】（第41図）

壺形土器

1. 3分の1を欠損。色調は淡赤褐色を呈し、底部が煤けている。胎土には砂粒を含み焼成良好。口縁部内面及び器外面は篦みがきが施されている。胴部内面には刷毛目痕が薄くみられる。器面は磨減により若干ザラザラしている。

2. 胴部以下を欠損。壺形土器の資料。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。外面は縱位の篦みがき、内面は横位の篦みがきが施されている。折り返し口縁には刺突による文様が連続している。

3. 胴部以下を欠損。壺形土器の資料。色調は褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。器面は刷毛目の上に篦みがきが施されている。

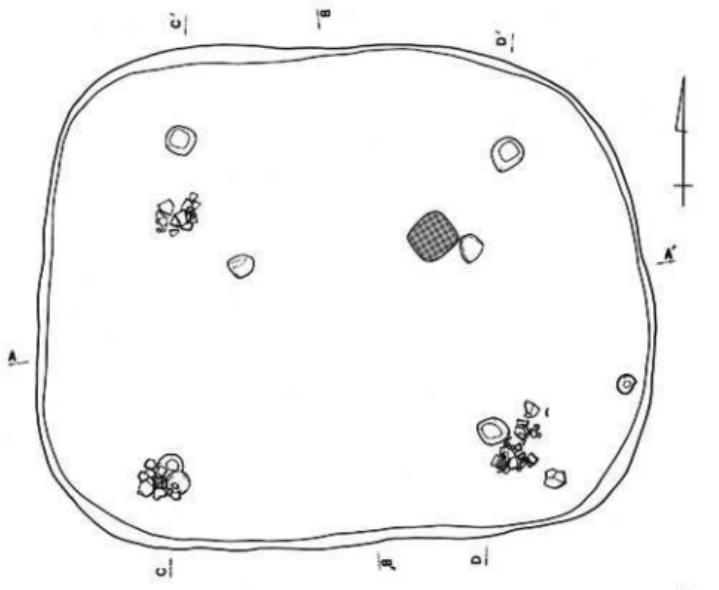
甕形土器

4. 口縁部破片。S字状口縁台付甕の資料。色調は褐色を呈する。

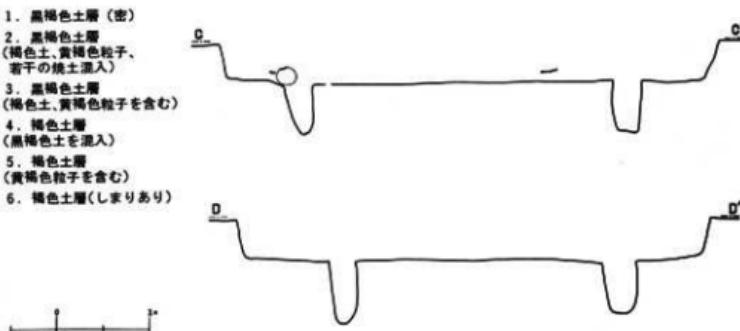
5. 口縁部破片。S字状口縁台付甕の資料。色調は淡褐色を呈する。口縁部は横撫で整形。外側肩部には斜位と横位の刷毛目で格子目文がつくりだされている。内面には刷毛目と指頭による圧痕がみられる。

6. 口縁部破片。台付甕の可能性もある。色調は褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒、砂粒を含む。刷毛目、横撫で、指頭押圧痕などの整形がみられる。

7. 台付甕の台部破片。色調は赤褐色を呈する。



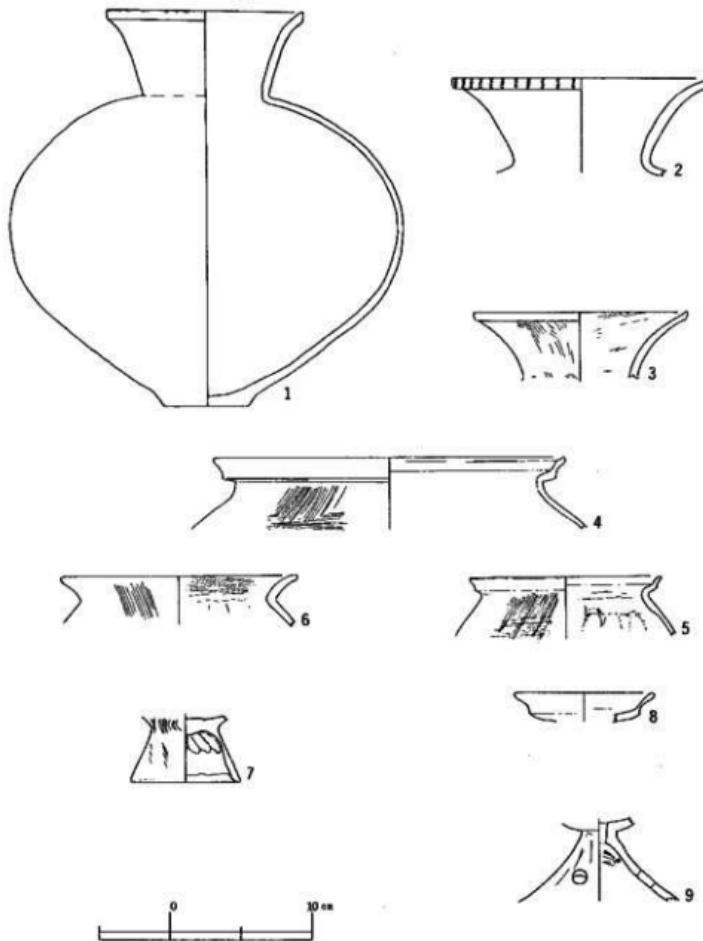
1. 黒褐色土層(密)
2. 黒褐色土層  
(褐色土、黄褐色粒子、若干の植土混入)
3. 黒褐色土層  
(褐色土、黄褐色粒子を含む)
4. 褐色土層  
(黒褐色土を混入)
5. 褐色土層  
(黄褐色粒子を含む)
6. 褐色土層(しまりあり)



第40図 B地区第5号住居址 (1/6)

器台形土器

8. 器受部破片。器台形土器の資料。色調は淡褐色を呈する。
9. 器受部上半、脚部下半を欠損。器台形土器の資料。色調は褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒などを含む。器受部底部に単孔があき、脚部には3孔が穿ってある。外面に範みがきが施されている。



第41図 B地区 第5号住居址出土遺物 (34)

### B地区 第6号住居址（第42図）

B地区、中央西側に位置する。排土作業の際に土器が出土したが、本住居址の埋没土が黄褐色土の為、平面形の確認が困難であったので、1ヶ所床面を検出し、それを追いかながら壁の立ち上がりを捜した。出土遺物も多く、形の整った深い住居址である。時期は五頭期であろう。

#### 【構造】

平面形 脊部がややふくらんだ隅円長方形

規模 長軸の長さ 4m70cm、短軸の長さ 4m20cm

主軸の方向 N-13°-W

炉址 床面中央部から北壁よりに位置する。直径東西40cm南北53cmの不整隋円形プランを呈し、若干掘りくぼめられている。長さ18cm、幅5cmと、長さ12cm、幅5cmの枕石を2個もつ。焼土は厚さ12cmでレンズ状に堆積している。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。直径は25cm前後の不整円形プラン、床面からの深さ50cm前後を測る。

床 黄褐色土の床面で、平坦で堅い。

壁 ローム層を掘り込んであり、やや外傾した良好な立ち上がりを持つ。壁高は40cmを測る。

周溝 なし

#### 【出土遺物】（第43図）

##### 甕形土器

1. 底部を欠損。台付甕の可能性もある。色調は暗褐色を呈し、煤けている。焼成良好で堅い。口縁部は横撫でが施され、脣部外面は刷毛目が顕著である。
2. 口縁部破片。台付甕の可能性もある資料。色調は赤褐色を呈する。口縁には刻目が連続し、外面には刷毛目がみられる。
3. 口縁部破片。S字状口縁台付甕の資料。色調は外面暗褐色、内面褐色を呈する。
4. 台付甕の台部破片。色調は淡褐色を呈する。

##### 壺形土器

5. 2分の1を欠損。色調は淡褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒などを含む。焼成良好。外面口縁下付近に刷毛目がみられる。

##### 高坏形土器

6. 脚部下半を欠損。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。刷毛目及び篦みがきの整形がみられる。

##### 器台形土器

7. 脚部若干欠損。色調は明褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒、土器粉碎粒などを含む。器受部は篦みがきが施され、先端部は横撫でがみられる。脣部は外面に篦みがきが施され単孔が穿ってある。

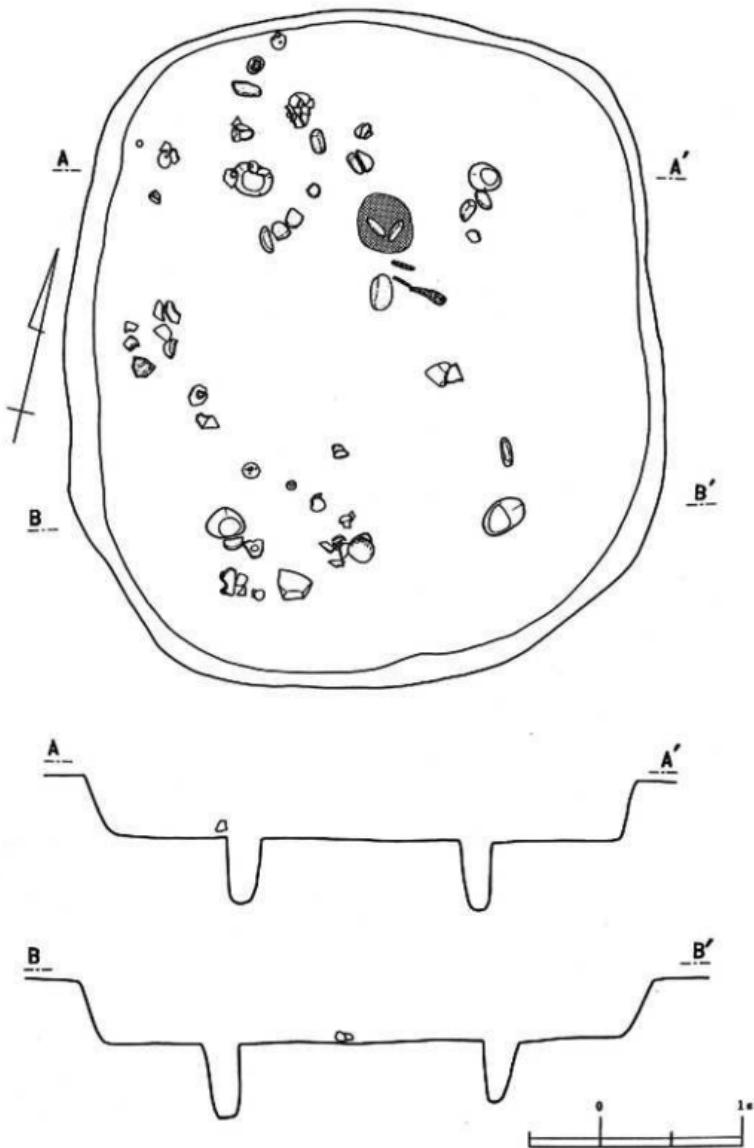
8. 脚部下半を欠損。色調は橙褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒、砂粒を含む。器受部底部に単孔があく。器面は磨滅によりザラザラしている。
9. 器受部破片。器台形土器の資料。色調は赤褐色を呈する。
10. 器受部を欠損。器台形土器の資料。高环形土器の可能性もある。色調は淡褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒などを含む。3孔が穿ってあり、外面は範みがきが施され、裾先端部には横撫がみられる。
11. 器受部を欠損。器台形土器の資料。色調は赤褐色を呈する。磨滅によりザラザラしている。3孔が穿ってある。

#### 瓶形土器

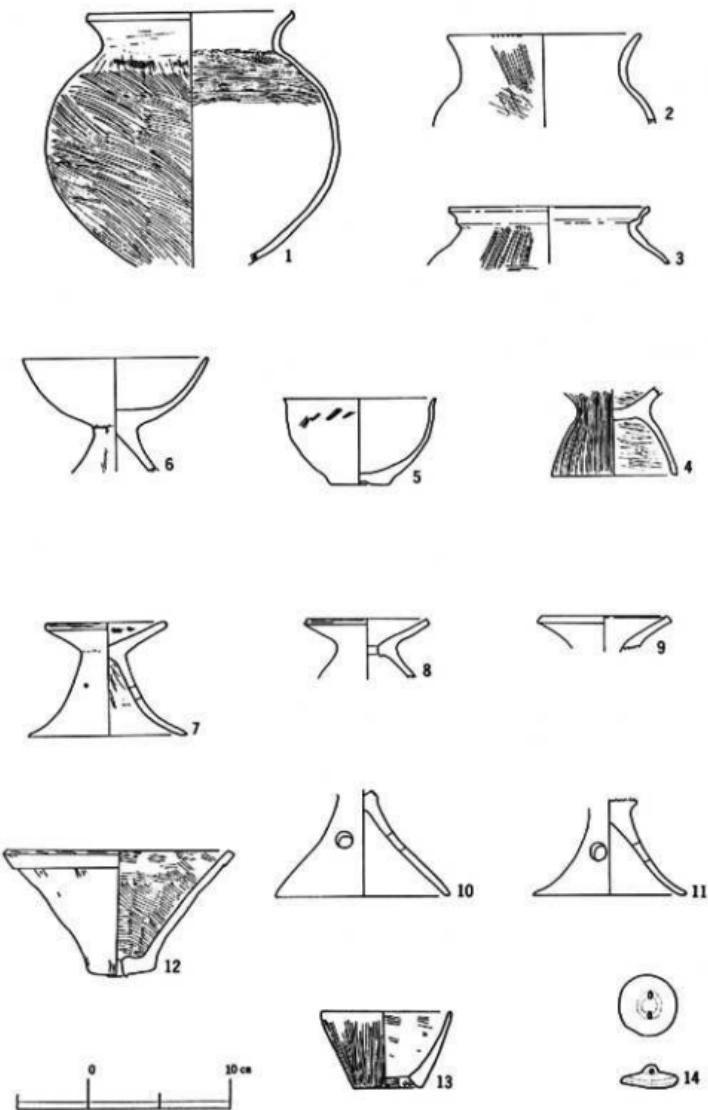
12. 完形。色調は明褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒、砂粒を含む。焼成良好であるが磨滅によりザラついている。折り返し口縁で、底部に単孔が穿ってある。内面は刷毛目が顕著である。
13. 完形。色調は淡褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。磨滅によりザラついているが、刷毛目がみられる。底部に比較的大きな孔があく。しかし、台付壺の台部にも似ている。

#### 土製品

14. 完形。直徑約4cm、厚さ1cm前後の土製円盤で、片面中央に単孔が貫通したツマミ状の突起をもつ。



第42図 B地区第6号住居址 (ノ)



第43図 B地区第6号住居址出土遺物 (1/4)

### B地区 第7号住居址（第44図）

B地区、北端に位置する。小形の住居址であるが、削平が顕著で浅い。南東隅には、カマドが構築されていたことを物語るように焼土が検出された。遺物の出土はやはり少ない。国分式土器の時期であろう。

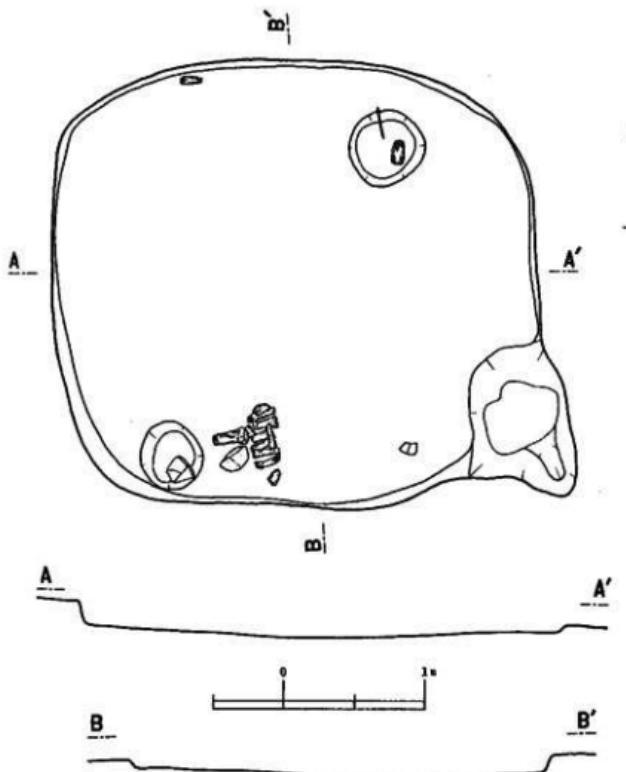
#### 【構造】

平面形 調円長方形、やや脇部がふくらむ

規模 長軸の長さ 3m40cm、短軸の長さ 2m95cm

主軸の方向 N-85°-E

遺址 カマドが南東コーナーに位置する。幅70cm、長さ1m、南東方向に煙道がのびていたと思われる。



第44図 B地区 第7号住居址（ノルマ）

柱穴 なし

床 黄褐色土の床面である。若干の凹凸がみられるが、床面は堅く、いわゆるバリバリの状態である。

壁 ローム層を掘り込んであるが、かなり削平されており、壁高は10cm前後を測る。

周溝 なし

尚、床面南北に直径45cm、深さ23cmと、直径50cm、深さ12cmの穴がある。

〔出土遺物〕（第45図）

壺

1. 3分の1を欠損。灰釉陶器。高台付の壺。ロクロ水挽き整形が認められる。付け高台で、底部外面には糸切り痕がみられる。

2. 土師器壺の破片資料。色調は外面淡褐色、内面黒色を呈する。

甕

3. 口縁部から胴部にかけての破片。色調は暗褐色を呈し、胎土には金雲母小片、砂粒を含む。口縁部は撫でが施され、内面に刷毛目が多くみられる。

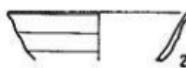
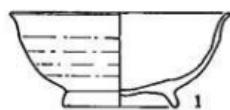
鉄製品・石器

4. 紡錘車。中位で折れている。鍛付いているが、糸巻棒につむいだと思われる細い糸状のものが付着している。

5. 両端が欠損している棒状の鉄製品。詳細は不明。

6. 鉄鎌の身破片。先端部が折れまがっている。

7. 石鎌。図は形状模式図。石材は黒曜石。押圧剝離によりつくられている。縄文時代の所産であろう。



0 10 cm (1/2)



0 10 cm (1/2)

第45図 B地区第7号住居址出土遺物

### B地区 第8号住居址（第46図）

B地区、南側西よりに位置する。比較的大形の深い竪穴式住居址である。火災を受けたらしく、焼土、炭化材が散在していた。遺物の出土は少ない。時期は五頭期と思われる。

#### 【構造】

平面形 畳円長方形

規模 長軸の長さ 6m70cm、短軸の長さ 4m80cm

主軸の方向 N-10°-W

炉址 北西ピット東際に地床炉がある。直径東西30cm、南北57cmの南北に長い隋円形のプランを呈す。焼土は厚さ14cmでレンズ状に堆積。長さ15cm、幅7.5cmと、長さ20cm、幅8cmの枕石2個を伴う。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。直径は23cm前後、床面からの深さ36cm～60cmを測る。

床 黄褐色上面を床面とする。比較的平坦で堅い。南西隅は、若干高みが見られ、ピットが1つあった。

壁 ローム層を掘り込んで、良好な立ち上がりをもつ。壁高は48cm前後。

周溝 なし

尚、内部施設として、床面北西隅に方形に一段高まりがある。いわゆるベット状造構か？その中に直径26cm、床面よりの深さ40cmでピットがある。

#### 【出土遺物】（第47図）

器台形土器

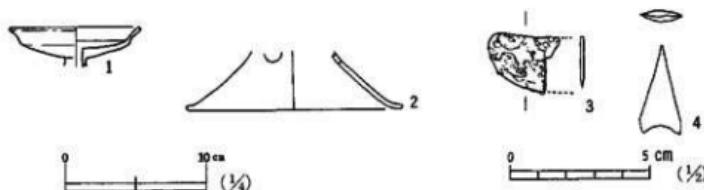
1. 器受部破片。色調は赤褐色を呈する。底部に単孔があくと思われる。
2. 脚部下半の破片。高環形土器の可能性もある。色調は橙褐色を呈する。3孔が穿ってある。

鉄製品

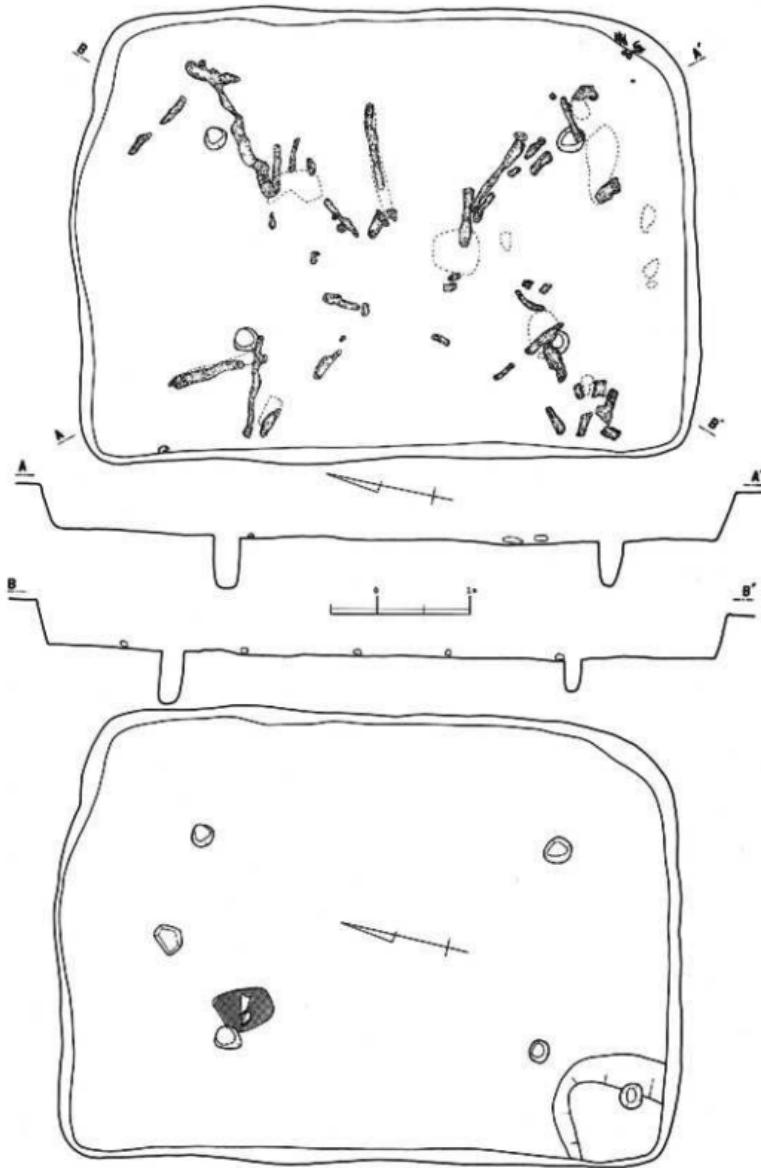
3. 床面上から出土。片側に刃がついているが、詳細は不明である。

石錐

4. 図は形状模式図。石材は水晶。押圧剝離によりつくられている。縄文時代の所産であろう。



第47図 B地区第8号住居址出土遺物



第46図 B地区第8号住居址 (ノ)

### B地区 第9号住居址（第48図）

B地区、南西端に位置する。大形の深い住居址であるが、長芋畑の為トレンチャーによる搅乱が著しい。また西北側は第10号住居址に切られている。時期は五傾期と思われる。

#### 〔構造〕

平面形 圓角長方形

規模 長軸の長さ 7m55cm、短軸の長さ 5m85cm

主軸の方向 N-86°-E

炉址 床面北東隅に焼土があるが、炉址とは思えない。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。直径は23cm前後、床面からの深さ36cm～60cmを測る。

床 黄褐色土の床面で、全体的に平坦であるが、軟弱で所々に堅い面がある。

壁 ローム層を掘り込んで良好な立ち上がりを持つ、西北壁は10号住居址に切られており壁は残存していない。壁高は東63cm、南65cm、西64cm、北58cmを測る。

周溝 なし

尚、床面中央部に、径30cm×35cm、深さ約30cmの穴が検出された。柱穴とかかわりがあるか？

#### 〔出土遺物〕（第49図）

甕形土器

1. 脇部下半を欠損。色調は褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。脇部外面は刷毛目がみられる。
2. 口縁部から脇部にかけての破片。台付甕の可能性もある。色調は外面暗褐色、内面褐色を呈する。口縁部は横撫で整形。脇部外面は刷毛目が顕著である。
3. 口縁部破片。S字状口縁台付甕の資料。色調は褐色～赤褐色を呈する。
4. 口縁部及び脇部の2分の1を欠損する小形の台付甕。色調は外面褐色、内面明褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒など砂粒を含む。器面には刷毛目がみられる。
5. 台付甕の台部破片。色調は暗褐色を呈する。

鉢形土器

6. 口縁部から脇部にかけての破片。推定復元で口径24cmを測る、広く口の開いた土器である。色調は淡褐色を呈する。

瓶形土器

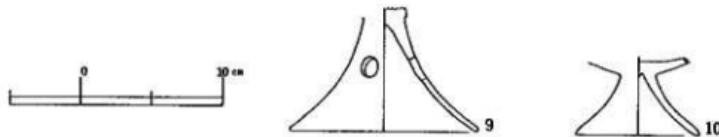
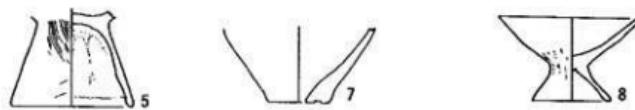
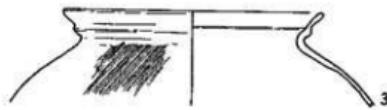
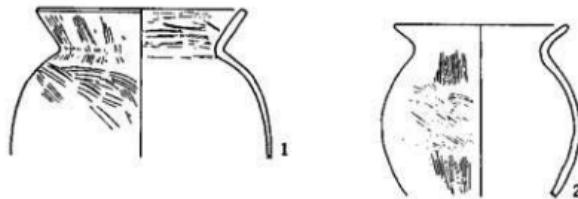
7. 口縁部を欠損。色調は褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒、砂粒を含む。底部に単孔があく。磨滅により器面はザラザラしている。

高坏形土器

8. 口縁部を若干欠損。色調は明褐色を呈し胎土には砂粒を含む。撫で、磨きの整形が施されている。
9. 坏部を欠損。色調は赤褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。外面は籠みがきが施される。3孔が穿ってある。
10. 坏部を欠損。坏部底部が比較的平坦なので器台形土器の可能性もある。色調は赤褐色を呈する。磨滅により全体にザラザラしている。



第48図 B地区第9号住居址 (1/4)



第49図 B地区第9号住居址出土遺物 (1/4)

### B地区 第10号住居跡（第50・51図）

B地区、南西端に位置する。ローム層中に黒褐色土の落ち込みを発見し、他住居址との切り合いを考え土層観察用の土手を残し調査する。埋没土の状態は上層から黒褐色土、黄褐色土の順で、北東側は第9号住居址を切って竪穴が掘られているのが認められた。国分式土器の時期であろう。

#### 〔構 造〕

平面形 異円方形

規模 長軸の長さ 4m40cm、短軸の長さ 4m

主軸の方向 N-66°-E

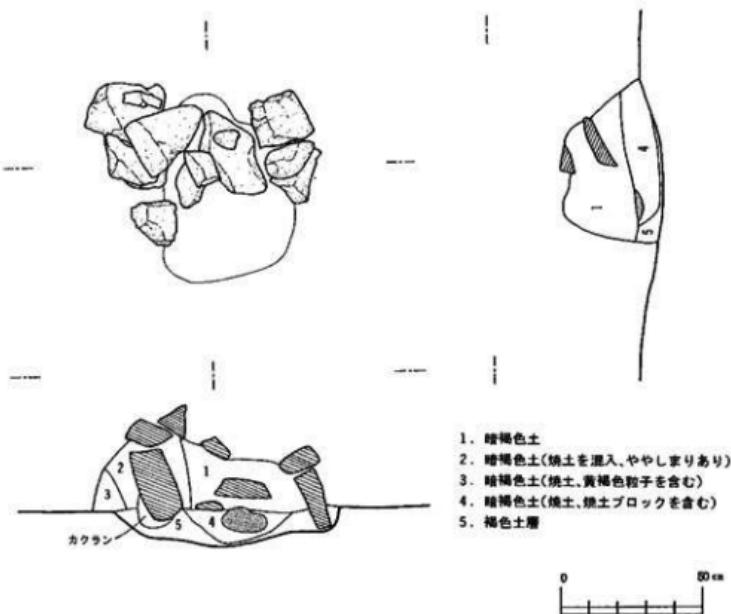
遺址 東壁の中央部にカマド構築。石組粗製カマド、幅1m70cm、長さ1m40cm

柱穴 なし

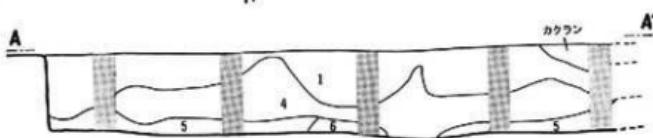
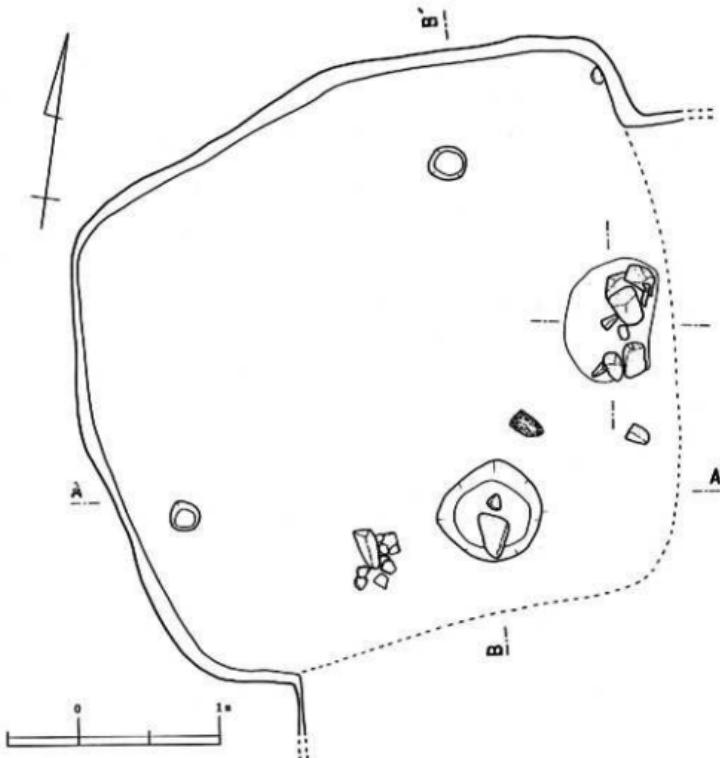
床 黄褐色土で全体に堅く良好であった。9号住居床面の上にあり、比高差約5cmを測る。

壁 ローム層を掘り込んでおり、良好な立ち上がりをもつが、東壁、南壁の膏面は9号住居址と重複しており良好な立ち上がりはなかった。更に東壁はトレンチャーによる破壊が著しい。

周溝 なし



第51図 B地区 第10号住居址カマド平面図 (1/5)



1. 黒褐色土層  
 4. 黒褐色土層(焼土粒子、黄褐色粒子を混入)  
 5. 黒褐色土層(黄褐色粒子、焼土粒子を含む)  
 6. 黄褐色土  
■トレンチャによる擾乱(カクラン)



第50図 B地区第10号住居址 (3)

〔出土遺物〕 (第52図)

Ⅲ

1. 略完成形。灰釉陶器。ロクロ水挽きによる整形が認められる。底部は付け高台で、僅に糸切り痕がみられる。

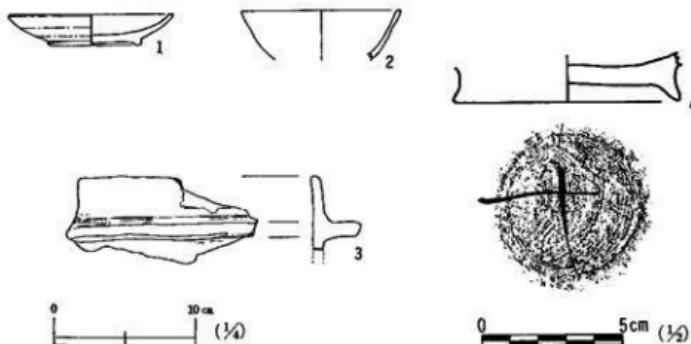
坏

2. 口縁部から胴部にかけての破片。土師器の坏の資料。色調は淡褐色を呈すが、内面は黒色で暗文がある。

3. 高台付の坏の底部。付け高台で糸切り痕がある。外面に「十」という文字が墨書きされている。

甕

4. 銛を有する羽釜の資料。色調は外面赤褐色、内面褐色を呈する。口縁部は横撫で整形。内面には刷毛目がみられる。外面銛下は煤けている。



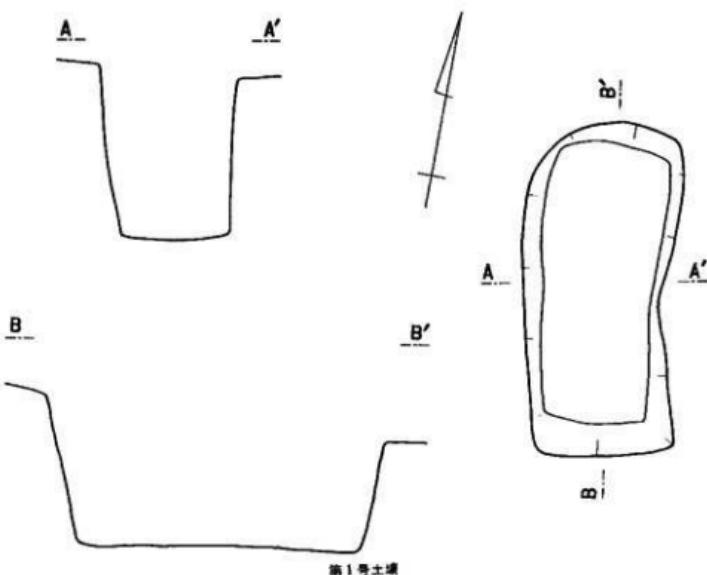
第52図 B地区 第10号住居址出土遺物

B地区 第1号土塙 (第53図)

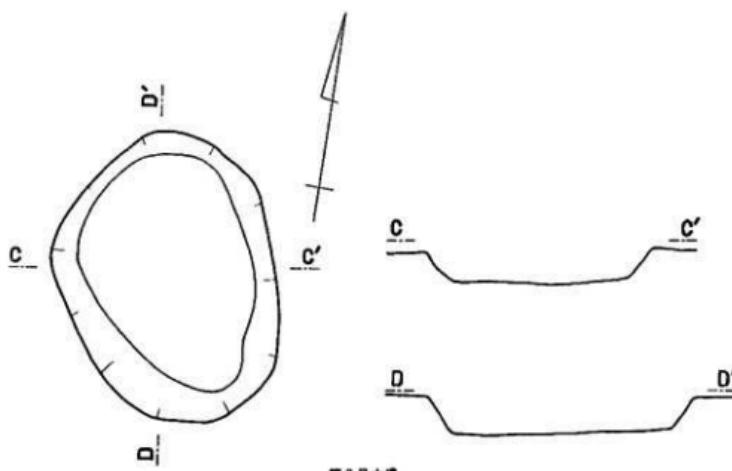
B地区、東側に位置する。規模は、長軸の長さ 2m40cm、短軸の長さ 1m の平面長方形を呈し、深さ約80cmを測る。ローム層を掘り込んでおり、底は堅く平坦である。埋没土からは角釘、炭化した板材破片、漆片が出土した。尚、埋没土は悪臭をはなっており、土塙は比較的新しい頃に構築された墓塙と思われる。

B地区 第2号土塙 (第53図)

B地区南端に位置する。平面形は、長軸の長さ 1m90cm、短軸の長さ 1m50cm で不整隋円形を呈し、深さ約24cmを測る。底に若干の焼土が検出されたが、出土遺物はない。



第1号土壤



第2号土壤



第53図 B地区土壤 (%)

C地区 第1号住居址 (第54図)

C地区、東側に位置する。1号溝と2号溝との間にあつた。南側へ傾斜している地形にあり、南半部は削り取られている。出土遺物はわずかに北壁中央部に土師器の壊が出土したにすぎない。圓分式土器の時期の住居址であろう。

〔構造〕

平面形 方形と思われる。

規模 東西4m 10cm

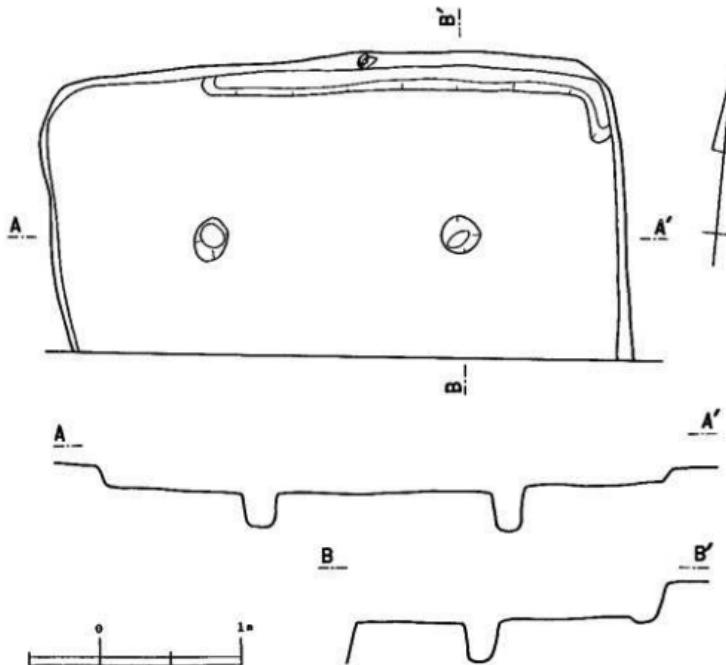
主軸の方向

炉址 炉、カマドとも遺存していない。

柱穴 2本、直徑25cm前後、床面からの深さ23cm前後。

床 粘質赤褐色土層(ローム層)を掘り込んでおり、良好な立ち上がりをもつが住居址南半分は何らかの原因により削除されている。

周溝 北壁西側から東北コーナー壁側面にかけて確認できた。深さ2cm~4cm、周溝幅は6cm。



第54図 C地区 第1号住居址 (1)

〔出土遺物〕（第55図）

皿

1. 5分の1を欠損。色調は赤褐色を呈す。焼成良好。磨滅により器面はザラザラしているが、底部は笠けざり、口縁部は撫でによる整形が認められる。土師器。



第55図 C地区 第1号住居址出土遺物 (1/4)

C地区 第2号住居址（第56・57図）

C地区、中央（第3号住居址東側）に位置する。該地は長茅畑であり、トレンチャーの深掘りによる擾乱が著しいが、本住居址はその形態を比較的よく残している。国分式土器の時期と思われる。

〔構造〕

平面形 方形

規模 東西4m、南北4m

主軸の方向 N-78°-E

柵址 東壁中央部からやや南側に構築。石組粗製カマドと思われる。南ソデ部はカクラン、北側に長さ57cm、幅40cm程の偏平な石が2個あった。幅約2m、長さ1m35cm。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。直径22cm前後で床面からの深さは8cm～26cmを測る。

床 黄褐色土をもって床面とする。やや南へゆるやかな傾斜がみられる。床面は全体的に堅い。

壁 ローム層を振り込んで、良好な立ち上がりをもつ。北から南への削平がみられ、壁高は、北46cm、南は削平著しく、10cm～16cmを測る。東西は平均で約30cm。

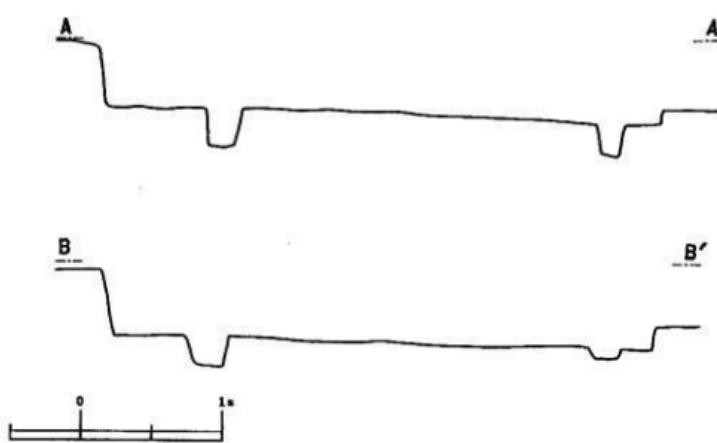
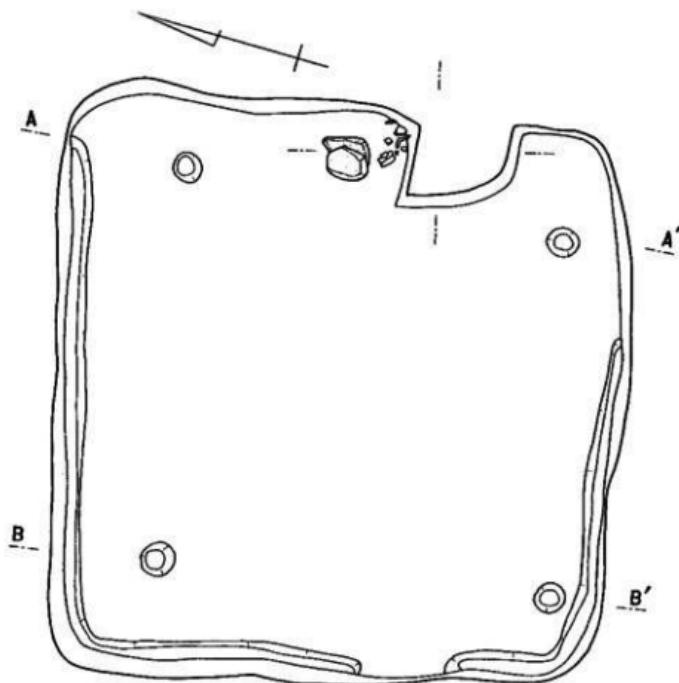
周溝 西壁南壁から北壁東端添いに、深さ4cm前後、幅8cm前後の周溝、南壁中央部よりやや東側ぞいに深さ4cm前後、幅約8cmの周溝2本確認。

〔出土遺物〕（第58図）

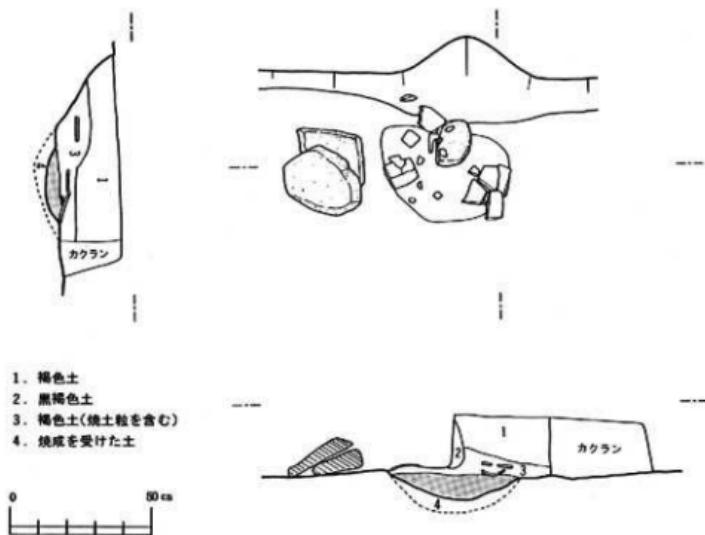
甕

1. 土師器甕の資料。口縁部から胸部にかけての破片。色調は茶褐色を呈し、胎土には金雲母、石英、長石小粒などの砂粒を含む。口縁部は横撫で、胸部は刷毛目がみられる。

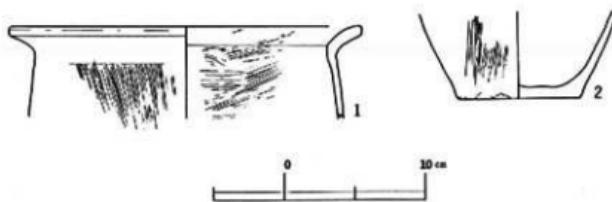
2. 土師器甕の資料。底部破片。色調は外面暗褐色、内面明褐色を呈し、胎土には金雲母、石英、長石小粒などの砂粒を含む。外面に刷毛目がみられる。



第56図 C地区第2号住居址 (1/6)



第57図 C地区第2号住居址カマド平面図 (1/4)



第58図 C地区第2号住居址出土遺物 (1/4)

### C地区 第3号住居址（第59図）

C地区、中央に位置する。排土作業の折多数の土器片が出土したことにより、住居址と判断。今回の調査で唯一の縄文時代のものである。時期は縄文時代中期後半と思われる。

#### 【構造】

平面形 円形

規模 直径4m70cm

主軸の方向 N-90°-W

炉址 床面中央部からやや北西よりに位置する。約90cm四方で掘り方があり、長さ65cm、幅25cmの大きな石をはじめ数個の石が散在、石圓炉であったと思われるが、石は抜かれ、焼土は検出されなかった。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。直径は27cm前後、床面からの深さ約30cmを測る。

床 ローム面を床とする。比較的平坦で堅い。南東土は削平され、床面は残存していない。

壁 ローム層を掘り込んであり、立ち上がりをもつが、削平が著しく、南東側壁は遺存していない。壁高は25cm～30cmを測る。

周溝 なし

#### 【出土遺物】（第60図）

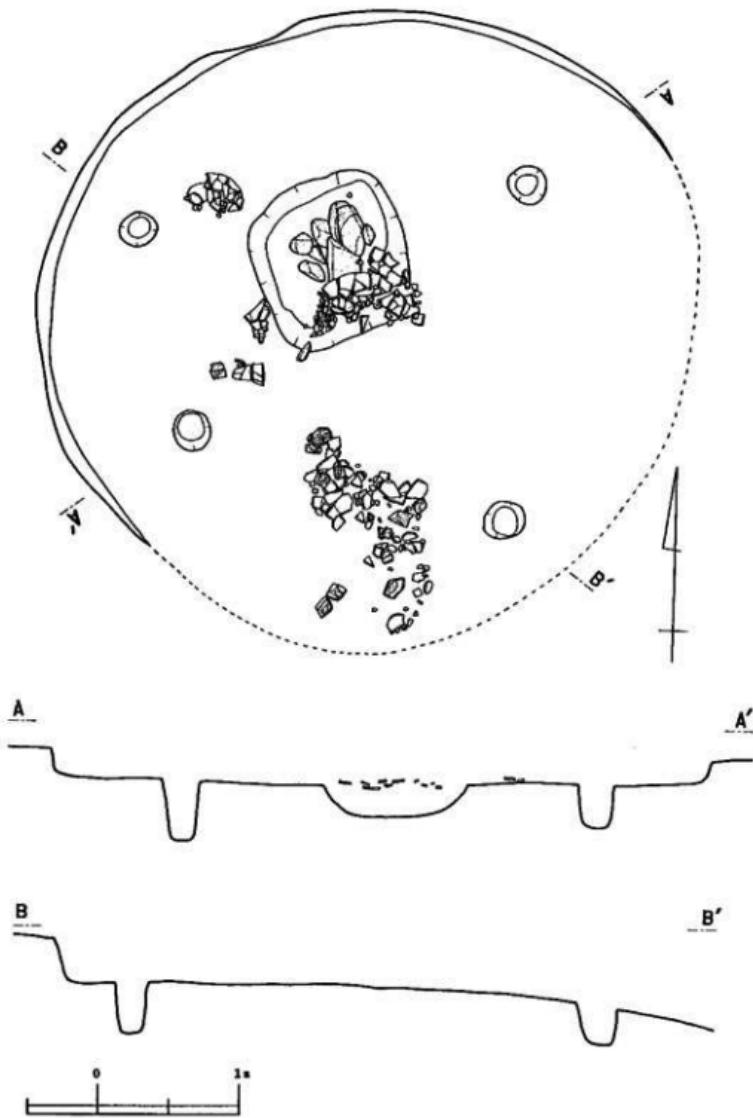
1. 底部及び胴部、口縁部など5分の1を欠損。キャリバー形の深鉢形土器。色調は褐色を呈し、胎土には赤褐色小粒、砂粒を含む。内面には籠状工具などによる磨きが施されている。文様は、口縁部に隆線による渦巻文を施し、渦巻文から胴部にかけて懸垂文を施す。胴部には「八の字」文が施文されている。

2. 口径22cmを測るキャリバー形の深鉢形土器資料。推定では4単位の把手を有すると思われる。口縁部に隆線による渦巻文を施し、渦巻文から胴部にかけて懸垂文を施す。胴部にはくずれ「八の字」文が施文されている。色調は褐色を呈する。

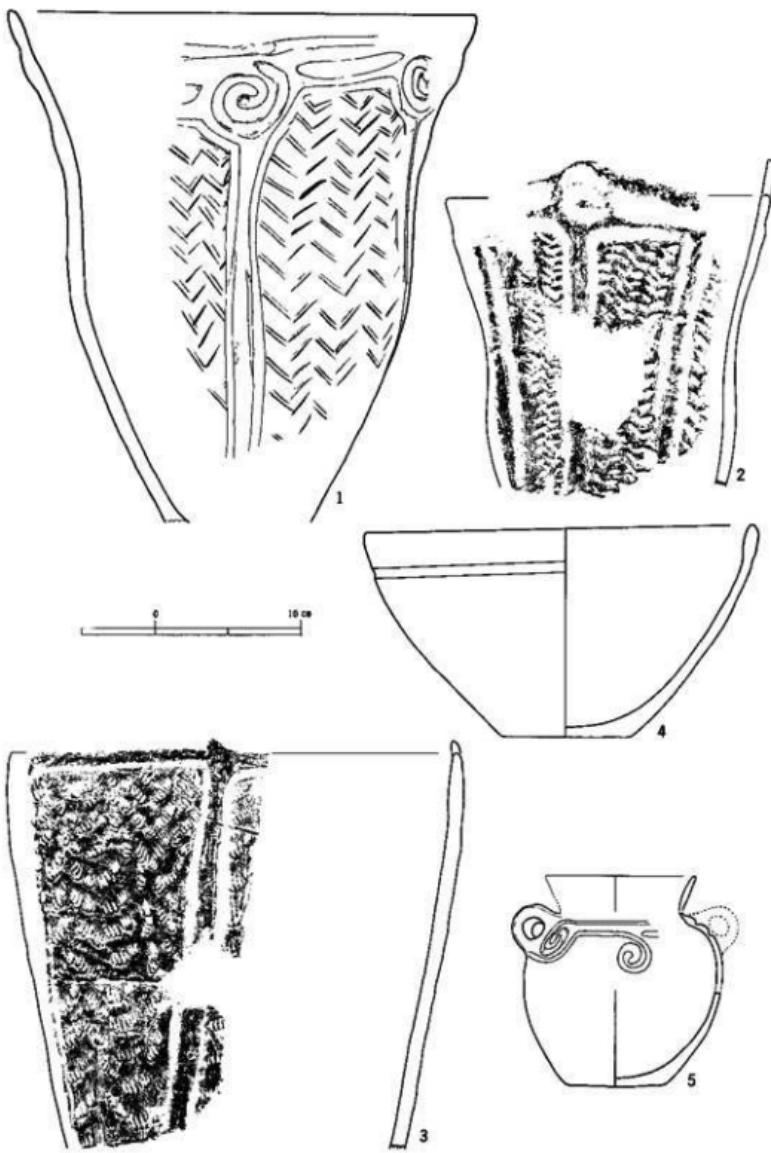
3. 口径31cmを測る大形の深鉢形土器。色調は暗褐色を呈する。口縁部に隆線をめぐらし、突起を有する。胴部には突起下から隆線の懸垂文を施し、3本1組の施文具で「八の字」状に列点を充填している。

4. 4分の1を欠損。浅鉢形上器。色調は赤褐色を呈し、黒斑がある。焼成良好で、全面に範みがきが施されているが、内面は使用などにより磨滅が顕著である。口縁部に沈線がまわっている。底部には網代痕がある。

5. 口縁部及び3分の2を欠損するため詳細は不明であるが、左右に把手の付く広口壺と思われる。色調は黒褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒、砂粒を含む。器内外面ともに範みがきにより仕上げられている。肩部に沈線による渦巻文が施される。



第59図 C地区第3号住居址 (縦)



第60图 C地区第3号住居址出土遗物(3)

#### C地区 第4号住居址（A）（第61図）

C地区、中央に位置する。削平著しく、床面を検出し、壁の立ち上がりを捜した。南半部はB住居址に切られているが、床面の比高差はほとんどない。時期は五領期であろう。

#### 【構造】

平面形 隅円長方形と思われる。

規模 長軸の長さ 4m50cm、短軸の長さ 3m90cm

主軸の方向 N-7°-W

炉址 床面中央部から北に80cmの所に地床炉がある。直径東西37cm、南北64cmの不整隋円形。

柱穴 整然と配列された4個の主柱穴がある。直径は22cm～30cmで、床面からの深さは50cm～59cmを測る。

床 黄褐色土の床面である。全体に比較的平坦で堅い。床面に比高差は認められない。南東は削り取られ堅い床面は遺存していない。

壁 ローム層を掘り込んであり立ち上がりをもつが削平著しく、壁高は、5cm～20cm程である。南下半は、B住居、削平により切られており壁は遺存していない。

周溝 なし

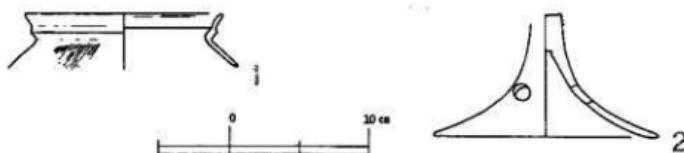
#### 【出土遺物】（第62図）

甕形土器

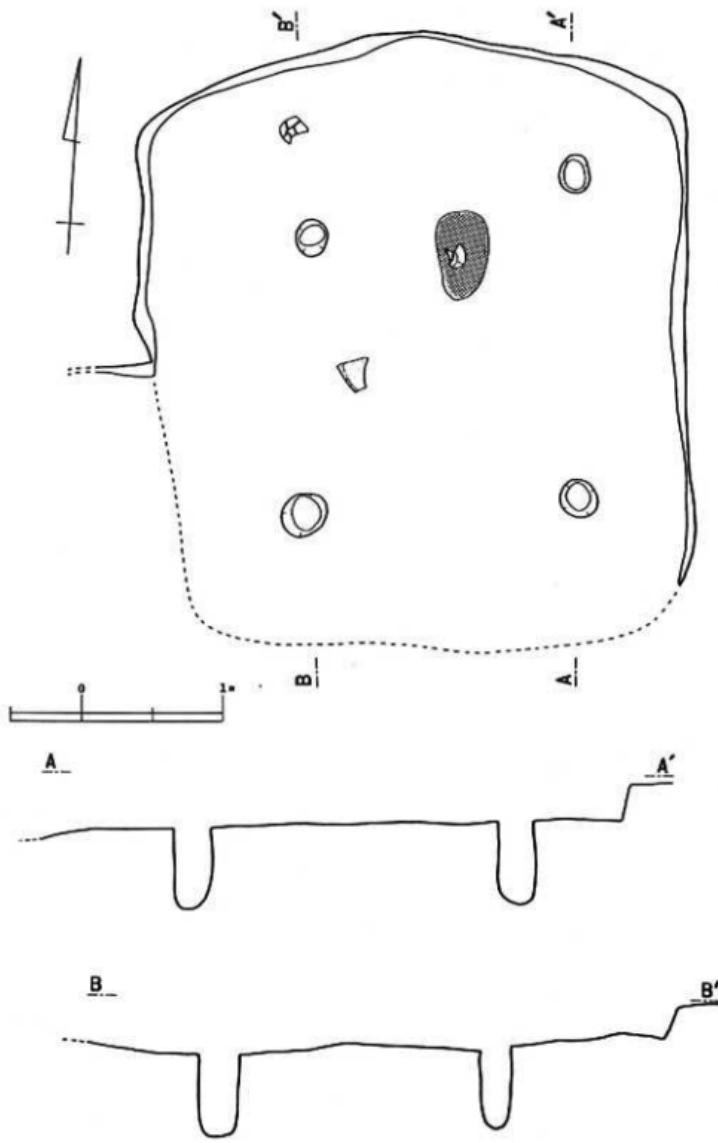
1. 口縁部破片。S字状口縁台付甕の資料。色調は暗褐色を呈し、胎土には雲母細片、砂粒を含む。口縁部は横撫でが施され、以下外面には刷毛目がみられる。

高坏形土器

2. 坏部を欠損。高坏形土器脚部資料。色調は赤褐色を呈する。外面は範みがきが施され、3孔が穿ってある。磨滅により器面はザラついている。



第62図 C地区 第4号住居址（A）出土遺物（34）



第61図 C地区第4号住居址 (A) (B)

#### C地区 第4号住居址（B）（第63図）

C地区、中央に位置する。A住居址を切って構築されているが、床面の比高差はほとんどなく、A住居址床面の検出作業により本住居址が確認された。土師器片、灰釉陶器片の出土により国分式土器の時期の住居址と思われる。

##### 【構造】

平面形 開円長方形と思われる。

規模 長軸の長さ 4m20cm、短軸の長さ 3m40cm

主軸の方向 N-94°-E

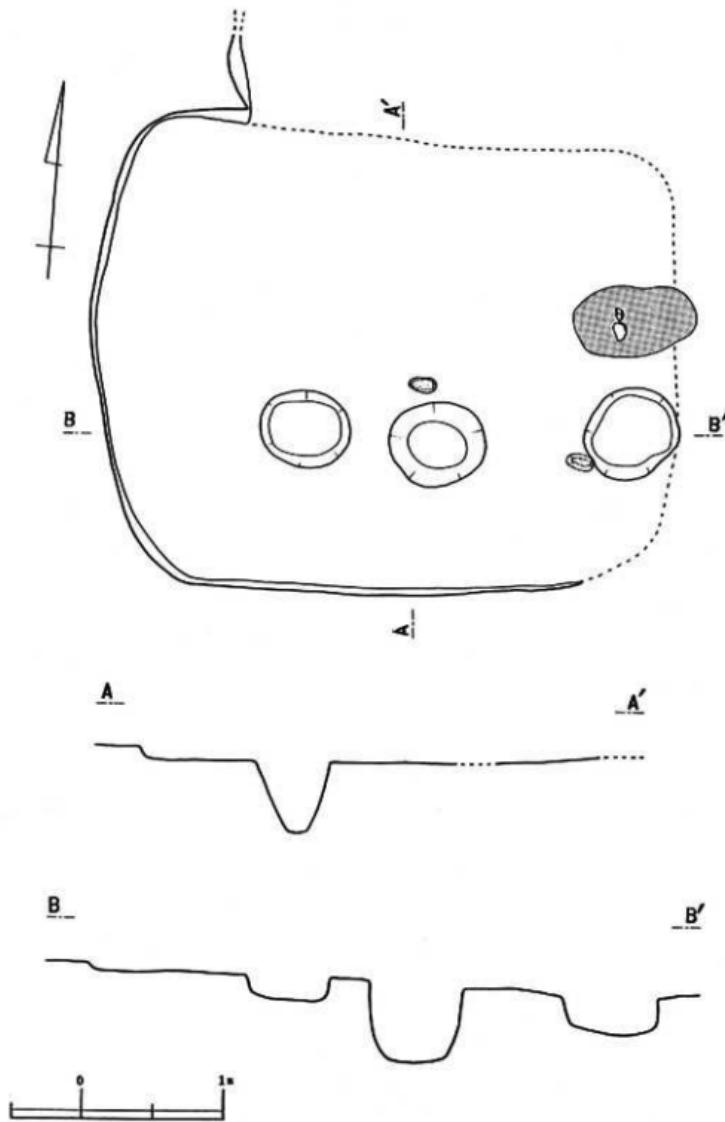
電址 東壁と思われるところ中央部よりやや北に位置して焼土がある。幅50cm前後、長さ87cm。削平され、遺存状態が悪いが、カマドが構築されていたと思われる。

柱穴 床面南よりに東西に並んだ3個の穴が検出された。西から長径65cm、短径55cmの隋円形、直径65cmの不整円形、長径70cm、短径60cmの不整隋円形を呈し、それぞれに床面からの深さは、17cm、55cm、24cmを計測する。

床 黄褐色土の床面である。全体に比較的平坦で堅い。床面に比高差は認められない。東は削り取られ堅い床面は遺存していない。

壁 遺存状態は悪く、壁高は5cm～10cm程度である。北壁、東壁の大半はA住居と重複し、また削平により良好ではなかった。

周溝 なし



第63図 C地区第4号住居址（B）（ $\frac{1}{50}$ ）

### C地区 第5号住居址（第64図）

C地区、東側に位置する。住居址南半は削平により西側は2号溝によって切られている。若干の堅い床面と、粘性赤褐色土の立ち上がりを頼りに検出。時期詳細は不明。

#### 【構造】

平面形 方形と思われる。

規模 北壁残存部東西3m50cm

主軸の方向

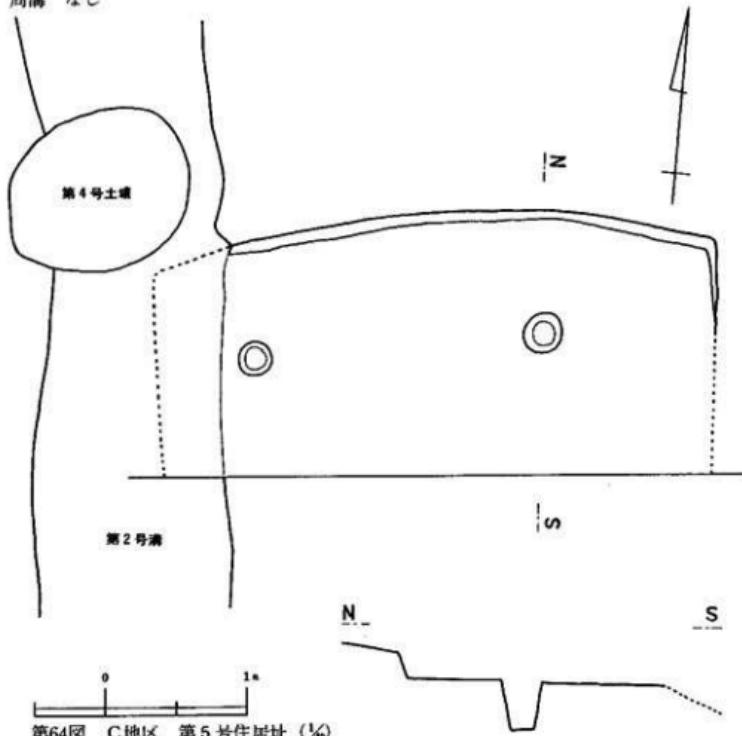
炉址 炉、カマドは遺存していない。

柱穴 2本 直径は24cm前後で、床面からの深さは30cmを測る。

床 粘性赤褐色土を床面とし、堅い面が若干ある。南下半は削り取られている。

壁 削平により北壁が遺存するのみ、壁高22cm～30cmを測り、立ち上がりをもつ、東壁、南壁は削り取られ、西壁は、2号溝状造構によって切られている。

周溝 なし



C地区 第6号住居址（第65・67図）

C地区とD地区の間にある黒褐色の埋没土の中にある。C地区とD地区の境の埋没沢にトレンチを設定し、その断面より落ち込みを確認し調査を行った。国分式土器の時期の住居址と思われる。

【構造】

平面形 囲円長方形

規模 長軸の長さ 3m50cm、短軸の長さ 3m

主軸の方向 N-52°-W

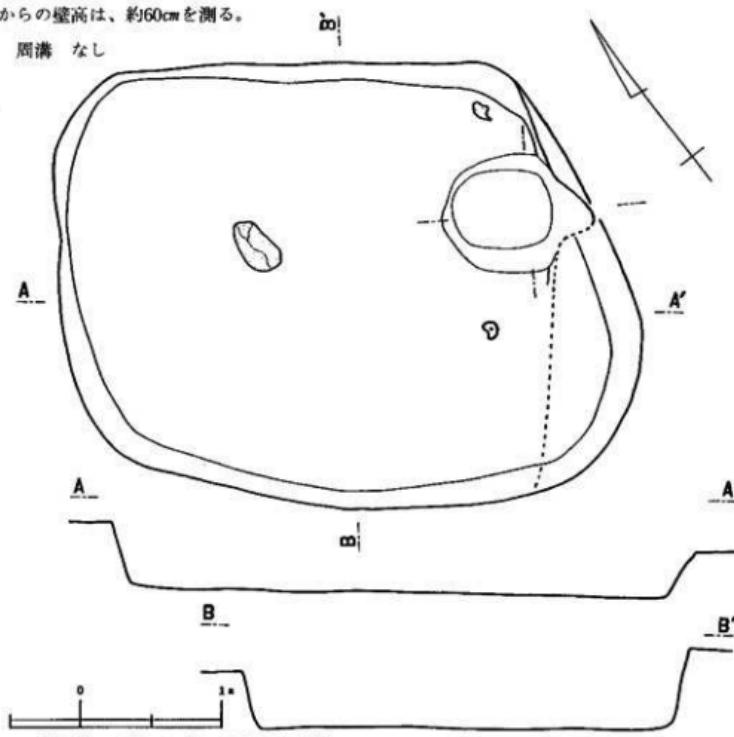
竈址 カマドは、南東壁のやや東よりに位置し、全長約1m、焚口は幅約40cm。長さ30cm前後幅20cm前後の扁平な石をいくつか組合せ構築されている。煙道は南東に出ている。

柱穴 なし

床 床面は、ほぼ平坦で褐色土を踏み固め若干の堅い面をなしている。

壁 本住居址は、黒褐色土層を掘り込んでつくられて、壁は、やや外傾し立ち上がり、確認面からの壁高は、約60cmを測る。

周溝 なし

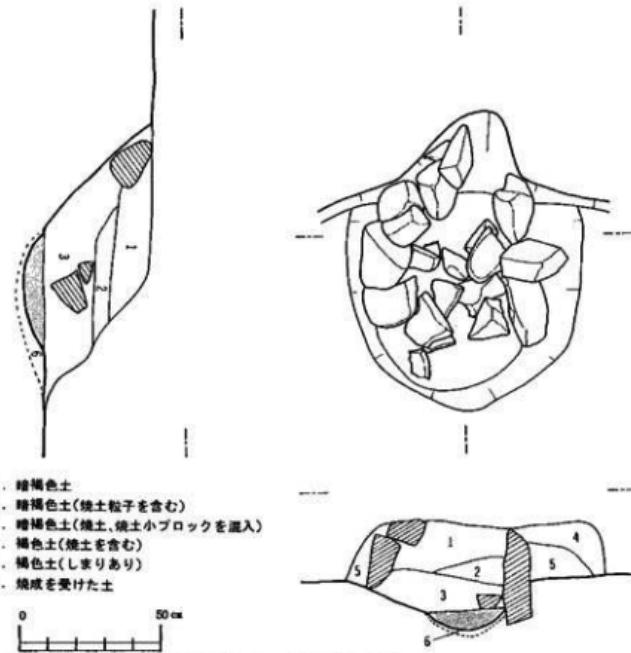


第65図 C地区 第6号住居址 (3)

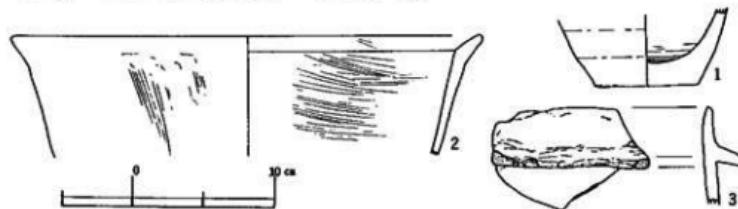
〔出土遺物〕 (第66図)

甕

1. 底部から胴部にかけての破片。色調は外面赤褐色、内面暗褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。外面にロクロ水挽痕がみられ、底部には回転糸切り痕がある。
2. 口縁から胴部にかけての破片。色調は茶褐色を呈し、胎土には金雲母細片、砂粒を含む。口縁部は横拂で整形。胴部に刷毛目がみられる。
3. 羽釜の資料。色調は外面茶褐色、内面褐色を呈し、胎土には石英、長石小粒など砂粒を含む。



第67図 C地区 第6号住居址カマド平面図 (3分)



第66図 C地区 第6号住居址出土遺物 (3分)

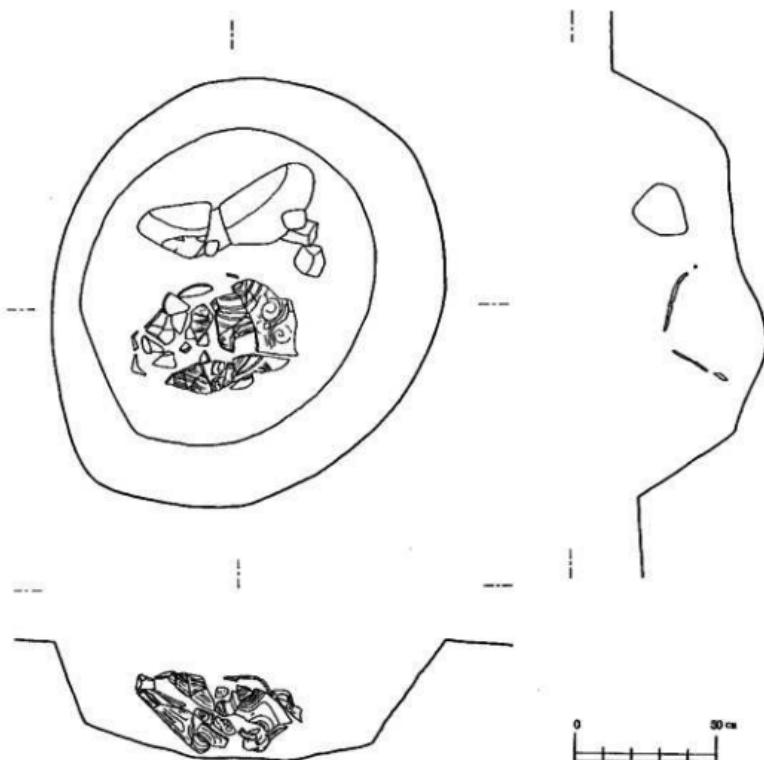
C地区 第1号土壙（第68図）

C地区中央部第2号住居の北東に位置する。長径1m50cm、短径1m40cmの不整円形を呈し、確認面からの深さ28cm～35cm、中央からやや南よりの一番深い所で約50cmを測る。土壙内からは、大形の甕形土器が口辺部をやや下にし横位の状態で出土した。土器北側には長さ35cm幅20cm、長さ25cm幅18cmの大きさの石2個と、他に挙大の石数個があった。また、土器を取り上げた底に、径45cm～67cmの不整隋円形状に土が焼けた跡が検出された。

土器は縄文時代中期、曾利期のものであろう。

C地区 第2号土壙（第70図）

C地区東側、第1号溝の中央部に検出された。平面形は円形で直径1m前後、確認面からの深さは約40cmを測る。出土遺物はない。



第68図 C地区 第1号土壙(1)

#### C地区 第3号土壙（第69図）

C地区東側の第5号住居址内に検出された。径85cm～95cmの隋円形を呈し、確認面からの深さは5cm～7cmを測る。遺物の出土はない。

#### C地区 第4号土壙（第69図）

C地区東側の第2号溝中に検出された。平面形は不整円形で、径1m15cm～1m35cm、確認面からの深さ60cmを測る。出土遺物はない。

#### C地区 第5号土壙（第69図）

C地区中央部第2号住居址の北に位置する。直径90cmの円形を呈し、確認面からの深さ35cmを測る。土壤内からは、口辺部を下にし、伏せた状態で甕形土器が出土した。時期は縄文時代中期であろう。

#### C地区 第6号土壙（第69図）

C地区西北に位置する。長径1m25cm、短径1m10cmの不整円形を呈し、確認面からの深さ45cmを測る。土壤内には口辺部を下にした埋甕があったと思われるが、攪乱により土器片が僅かに底に遺存しているにすぎなかった。時期は縄文時代中期であろう。

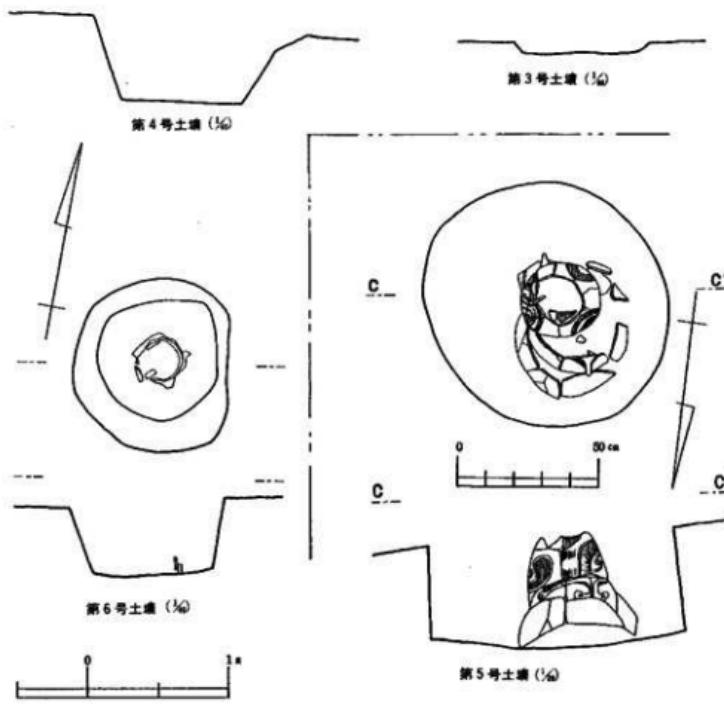
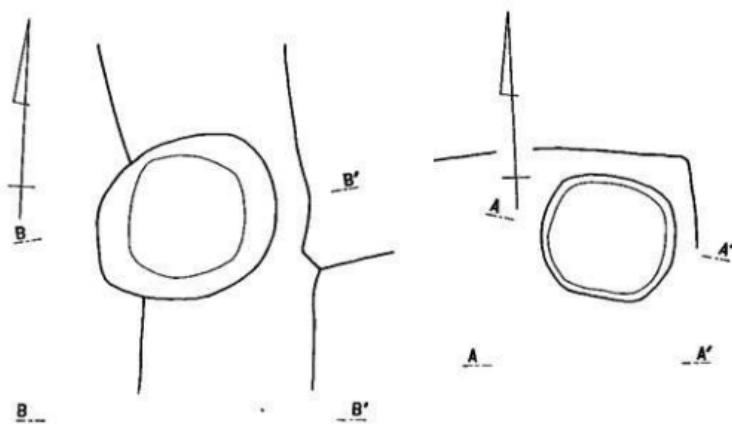
### C地区 溝 状 遺 構

#### 第1号溝（第70図）

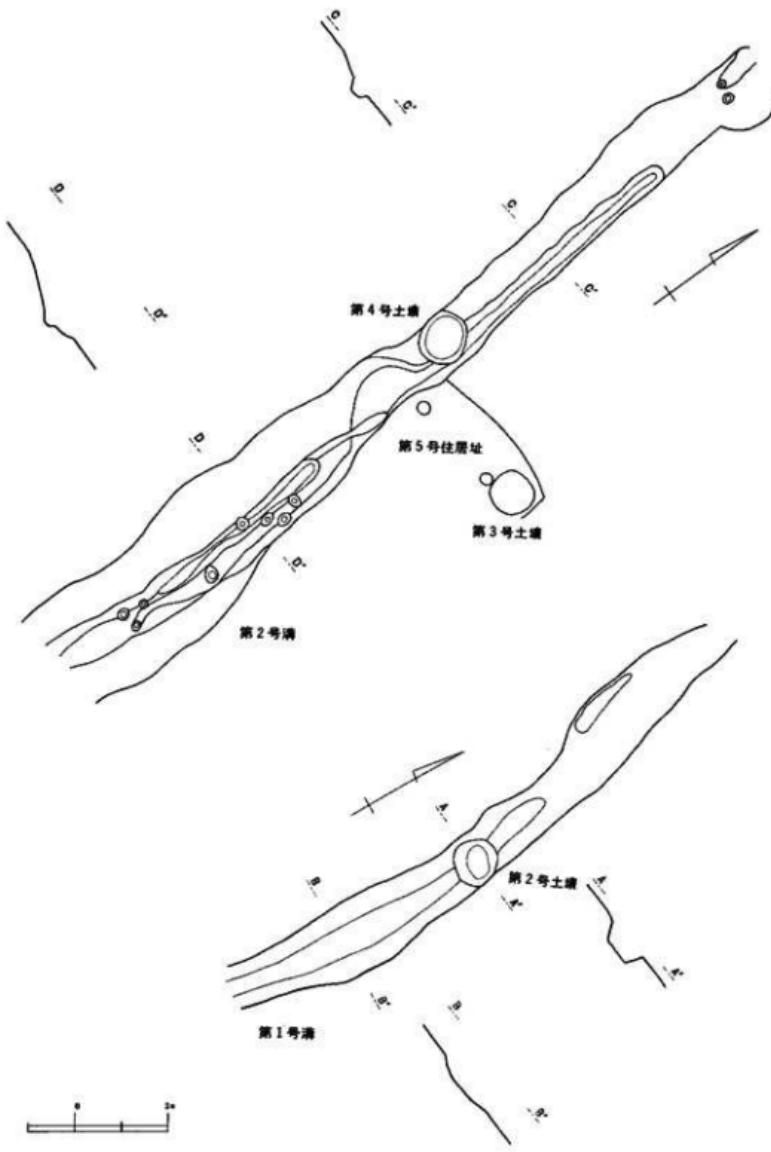
C地区の東側に位置し、北から南に流れをもつ溝。長さ13m30cm、幅1m～1m60cm、確認面からの深さは北から南へ3cm～13cmと漸次深くなっている。本溝の性格と構築時期は不明。

#### 第2号溝（第70図）

C地区東側第1号溝の西約14mに位置する。長さ20mで、北から南へ流れをもつ。確認面からの深さは6cm～45cmと漸次深くなっていく。溝のなか東よりに一段深くなって、幅30cm前後の断面U字状の溝が走っている。本溝の性格と構築時期は不明。



第69图 C地区土壤



第70図 C地区溝状遺構 (1/10)

#### D地区 第1号方形周溝墓（第71図）

D地区西端に位置する。西側は調査区域外で完掘できなかった。規模は南北17m65cmを測り、幅平均2m前後、確認面からの深さ70cm余の断面U字型の溝が周っており北東部コーナーにブリッジを設ける。溝の埋没土の状態は、上層から暗褐色土、褐色土、黄褐色土の順である。また、溝に囲まれた方台部（台状部）は平坦であり、穴が4個検出された（P<sub>1</sub>直径1m50cm、深さ45cm、P<sub>2</sub>径2m×1m70cm、深さ45cm、P<sub>3</sub>直径1m10cm、深さ35cm、P<sub>4</sub>直径1m、深さ25cm）。

溝を少し詳しくみてみると。東溝は、深さ50cm前後、幅は南半部で2m前後、南溝とのつながり部はくびれ1m70cm、北半部は大きく広がり最大幅3m40cmを計測する。方台部（台状部）側は直立するが、外側ではゆるやかな傾斜で立ち上がる。北端に東西2m10cm、南北1m10cm、深さ約30cmの土壤がある。北溝は、最小幅1m70cm、最大幅2m70cmで、深さ64cm～80cmを測る。溝中に段があり10cm程深くくぼんでいる。方台部（台状部）側よりも外側ではゆるやかな傾斜をもち立ち上がる。南溝は、幅2m前後、深さ40cm～70cm。方台部（台状部）側よりも外側は外傾している。

#### D地区 第2号方形周溝墓（第72図）

D地区西側に位置する。北側は調査区域外で完掘できなかった。規模は東西15m40cmを測り、方台部（台状部）は平坦で、北西コーナーにブリッジを設けると思われる。周溝は、断面U字型で幅1m5cm～2m50cm、深さは平均50cmを測り、西南外周で第1号方形周溝墓と境を接している。

東溝は、幅1m70cm～2mで、確認面からの深さは南から北へ漸次深くなり30cm～75cmを計測する。溝断面はやや開いたU字型を呈する。南溝は、幅1m60cm前後、確認面からの深さは西から東へ漸次50cm～30cmを測る。溝壁は方台部（台状部）側よりも外側がやや外傾している。西溝は、最大幅2m50cmで北から南にかけ細くなり、南溝とのつながり部は最小幅1m5cmを測る。溝の深さは、北半部が一段深く確認面から87cmを測り、南半部は60cm～50cmと順次浅くなる。方台部（台状部）側溝壁は直立するが、外側ではゆるやかな傾斜をもって立ち上がる。

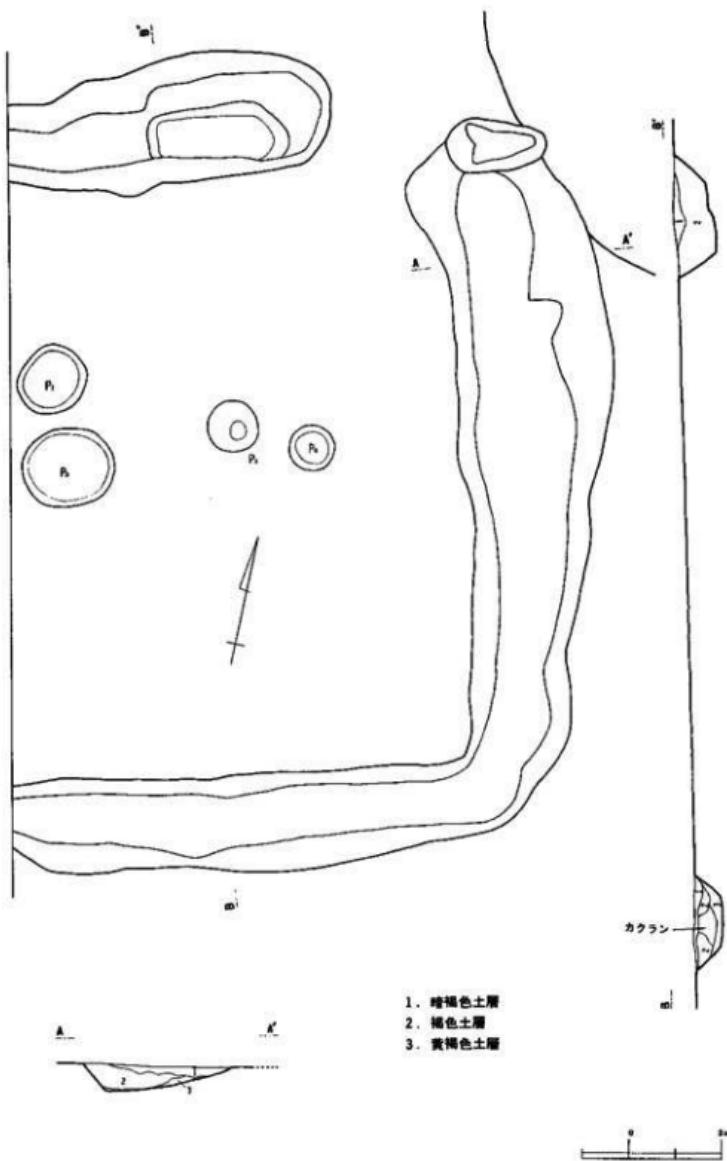
溝埋没土は上層から暗褐色土、褐色土、黄褐色土の順に堆積している。

尚、西溝から壺の胴部下半が出土した他は、遺物の出土は僅かである。

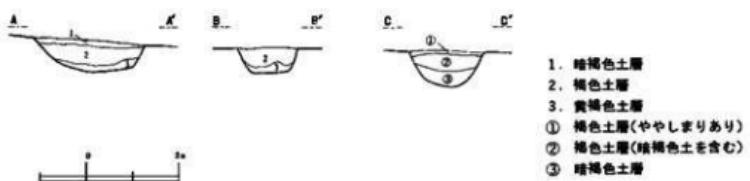
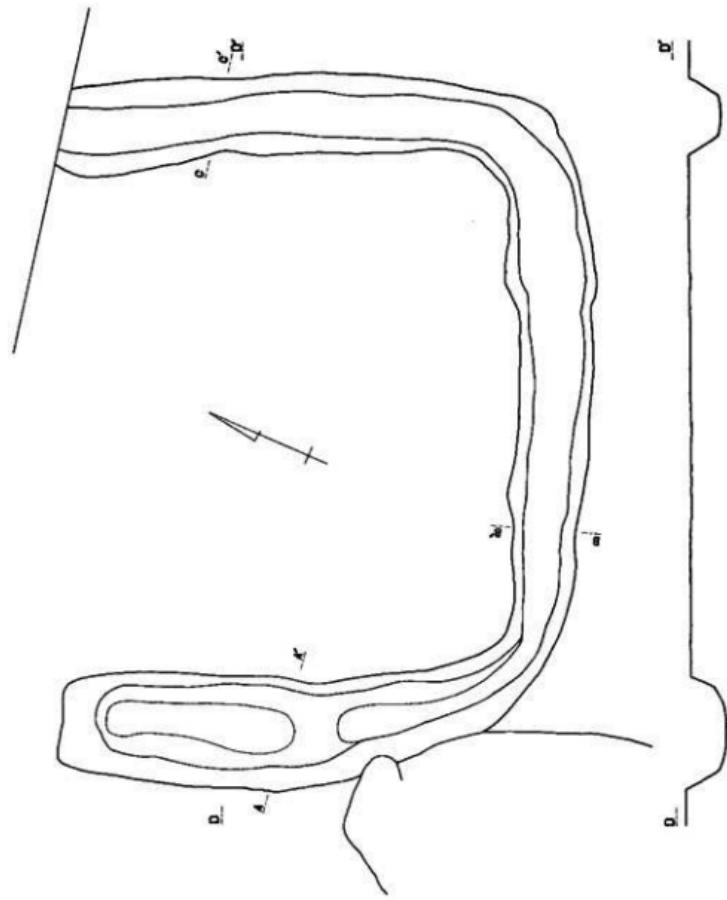
#### D地区 第3号方形周溝墓（第73図）

D地区中央に位置する。本調査で完掘できた唯一の1基である。規模は東西11m20cm、南北12mを測り、削平されていると思われるが、方台部（台状部）は平坦で、北西コーナーにブリッジを設ける。周溝は幅1m20cm前後で、深さ20cm程を測る。

東溝は、幅1m20cm前後で、南から北に漸次浅くなり、確認面からの深さ20cm～15cmを測る。北溝は、幅1m20cm～1m60cmで西から東へ漸次深くなり、確認面からの深さ15cm～30cmを測る。溝西よりに直径1m90cm、溝底からの深さ70cmの土壤が検出された。西溝は、溝の幅が大きく広がり、最大2m30cmを測る。中央部がふくらみ両側へ細くなつてゆく、南溝とのつなが



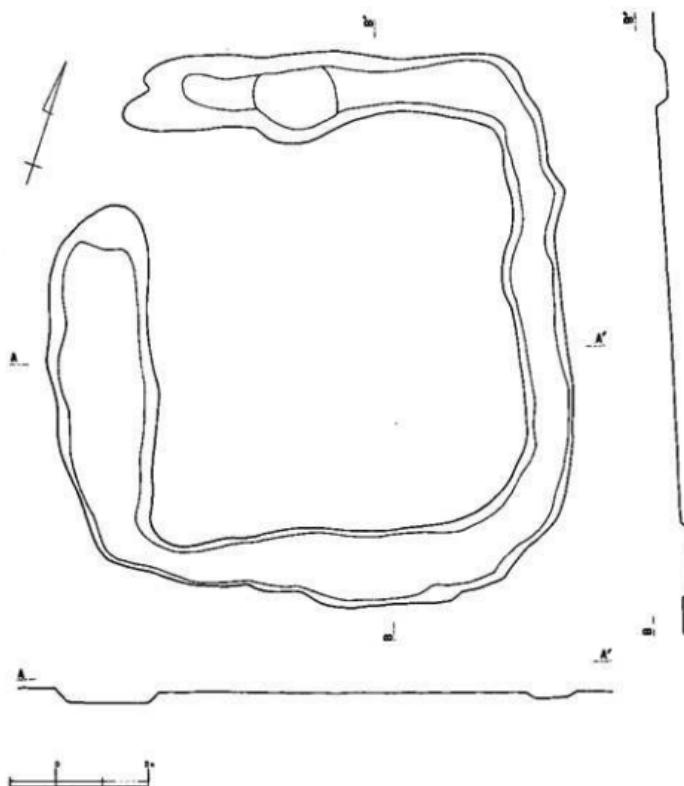
第71図 D地区第1号方形周溝墓 (3/20)



第72図 D地 | X第2号方形周溝墓 (Kofun)

り部はくびれ、最小幅で75cmを測る。確認面からの深さ40cm前後を計測する。南溝は、幅1m前後、確認面からの深さ20cm~30cmを測る。東よりに最大幅1m60cmをもつ。これらの溝は、方台部(台状部)側溝壁が直立、もしくは急な立ち上がりをし、外側では立ち上がりの傾斜がゆるやかになっている。

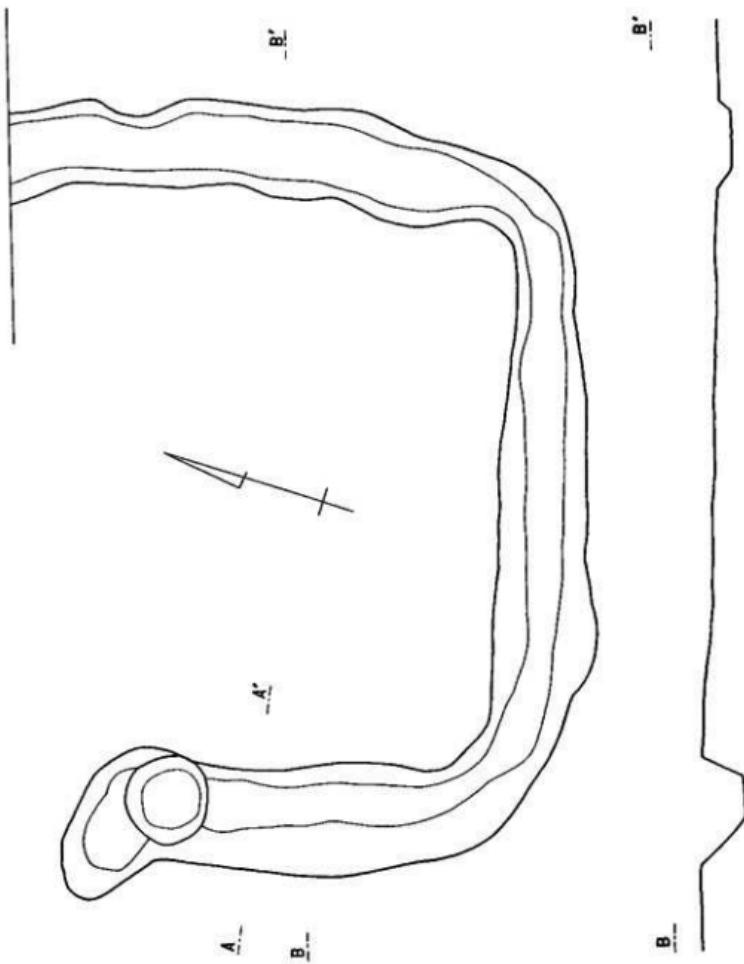
尚、土壤上部に浮いた状態で、五頭期と思われる台付甕の胸部下半が出土した。



第73図 D地区 第3号方形周溝墓

D地区 第4号方形周溝墓(第74図)

D地区東側に位置する。北側は調査区域外で完掘できなかった。規模は東西10m90cmを測り、北西部コーナーにブリッジを設けると思われる。方台部(台状部)には、削平等の原因が考えられるが、墓壙は検出されなかった。周溝は、西溝は、幅1m50cm前後、南溝とのつながり部はややくびれ、幅1mを計測する。北端には段があり、直径1m25cm溝底からの深さ10cmの土



1. 灰褐色土層
2. 黄褐色土層(ソフトローム)
3. 灰褐色土層(黑色粒子を含む)
4. 黄褐色土層(若干の褐色土を含む)

第74図 D地区第4号方形周溝墓 (1/6)

墳が検出された。南溝は、幅1m20cm前後、東溝とのつなぎり部はくびれ、幅80cmを測る。東溝は、幅1m30cm前後で、確認面からの深さはそれぞれに、西溝、南溝、東溝と漸次50cm～20cmと浅くなっている。これらの溝は、方台部（台状部）側の溝壁は直立し、外側ではゆるやかな傾斜をもって立ち上がる傾向を示している。埋没土の状態は大別して暗褐色土、黄褐色土の堆積である。

#### D地区 方形周溝墓出土遺物（第75図）

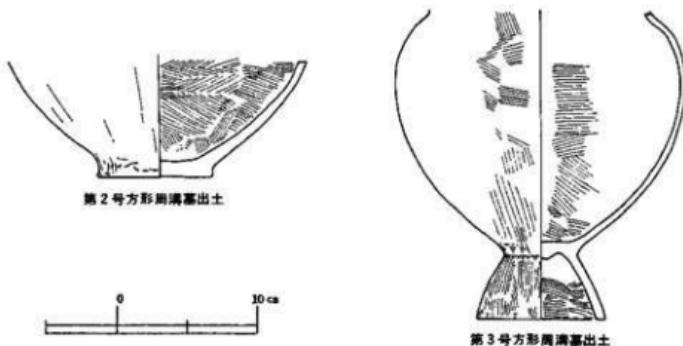
4基の方形周溝墓からの出土遺物は、その形状の推定できるものは第2号・第3号墓からの僅かに2個体であった。

##### 第2号方形周溝墓出土遺物

胴部上半を欠損。壺形土器の資料。色調は外面赤褐色、内面褐色を呈し、胎土には金雲母細片、砂粒を含む。外面は範みがきが施され、内面は刷毛目が顕著である。

##### 第3号方形周溝墓出土遺物

口縁部及び胴部の3分の1を欠損する台付甌。色調は褐色を呈し、胎土には雲母細片、石英、長石小粒などの砂粒を含む。焼成良好で内面に刷毛目がみられる。

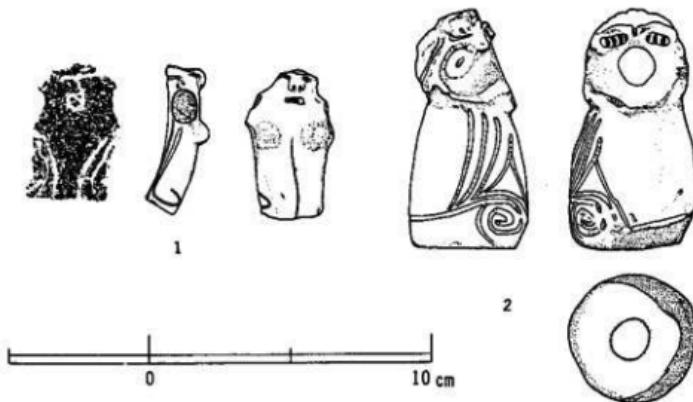


第75図 D地区 方形周溝墓出土遺物（3/4）

#### その地の出土遺物（第76図）

本遺跡からは遺構外からも遺物の出土があり、その時期は縄文時代中期、後期、古墳時代前期、平安時代などと幅ひろくなっている。ここでは特殊なものとして、土偶2点を紹介してみよう。

1. 試掘によりC地区から出土。頭部、両腕、下半身を欠損。板状の土偶。形態は、縄文時代中期の土偶に特有の、やや反り返った形の両手を広いた姿を呈すると思われる。胸部と後頸部に沈線による文様が施文されている。
2. 試掘によりA地区とB地区の間の沢の地表下約1mの土中から出土。頭部と底部を若干欠損。略完形、色調は褐色を呈するが、黒斑がある。胎土には長石、石英小粒などの砂粒を含む。焼成良好であるが、磨滅等による風化が激しくザラザラしており脆い。一般の土偶と違い、手足がなくこけしに似た形態を呈し、口から胸部をとおり底へ孔が貫通している中空の土偶である。胸部は下位に沈線がめぐり、片側には細い棒状の工具を使い結節沈線により4条の文様と渦巻文が施文されている。頭部も同じ手法で渦巻文が施文されている。目は竹管文と思われる。施文方法などから本土偶は縄文時代中期中葉の所産と思われる。



第76図 その他の出土遺物 土偶(1分)

## IV 坂井南遺跡におけるまとめ

### 1. 遺構について

坂井南遺跡の発掘調査の結果、26軒の竪穴式住居址、2棟の掘立柱建物址、10基の土壙、4基の方形周溝墓、1基の配石遺構、1基の特殊遺構が検出された。以下に住居址を中心に要約してみよう。

#### 住居址について

検出された竪穴式住居址の時期は、縄文時代中期1、古墳時代前期五領期18、平安時代国分期7である。縄文時代中期の住居址はC地区第3号住居址で、時期は中期後半に位置づけられる。円形の平面形を呈し、石囲炉をもつ。この期の集落は坂井遺跡の調査報告からもC地区北側に広がっているようである。

古墳時代前期五領期の18軒の竪穴住居址は、第1次調査区第1号～8号、A地区第1号、B地区第1号～6号・8号・9号、C地区第4号Aで、その形態は、やや胴部のふくらんだ隅円方形（第1次調査区第1号・8号、A地区第1号）、やや胴部のふくらんだ隅円長方形（第1次調査区第2号～7号、B地区第5号・6号）、隅円方形（B地区第2号・3号）、隅円長方形（B地区第8号・9号、C地区第4号A）、円形（B地区第2号）、隅円不整方形（B地区第3号）に大旨分けられる。床面は平坦。地床炉は床面中央部より片寄った所に若干窪んでつくられており、枕石を置くもの（第1次調査区第1号・4号・6号、B地区第2号・6号）、付近に扁平な石を置くもの（第1次調査区第7号、B地区第4号・5号）があった。例外として炉址のないもの（B地区第9号）もある。他に内部施設として、貯蔵穴と思われるピットを有するもの（第1次調査区第3号・4号・7号）、その周囲に土手状のたかまりが繞っているもの（第1次調査区第1号・2号・6号、B地区第2号・4号）、床面隅にたかまりをもつもの（B地区第8号）がみられた。柱穴は4本主柱穴であるが、5本主柱穴（第1次調査区第6号、B地区第9号？）、柱穴のないもの判断の困難なもの（第1次調査区第1号・8号、A地区第1号、B地区第3号）などもあった。東日本では弥生時代中期から後期にかけて、住居址の平面形は隋円形、胴張隅円方形→隅円長方形、隅円方形という変化を示しており、これに続く古墳時代前期（五領期）は弥生時代後期の形状を受け継ぎあまり変化がないとされている。本遺跡の住居址については、1・2の例外を除き、やや胴張隅円方形、やや隅円長方形、隅円方形、隅円長方形などの平面形がみられるが、該期の出土遺物の県内における時間的編年が確立されておらず、現時点では住居址の平面形による時間的差異を認めるのは困難である。

平安時代国分期の7軒の竪穴式住居址は、B地区第7号・10号、C地区第1号・2号・4号B・5号・6号で、その形態は隅円方形（B地区第10号、C地区第1号・2号・5号）、隅円長方形（B地区第7号、C地区第4号B・6号）に分けられる。カマドの位置は大旨東側に石組で構築されている（B地区第10号、C地区第2号・6号）。周溝がある住居址は2軒（C地区第1号・

2号)だけである。柱穴はあるもの(C地区第1号・2号・5号)とないもの不明なもの(B地区第7号・10号、C地区第4号B・6号)に分かれる。これらの住居址の構築時期には差異が考えられそうであるが、ここでは検討を差し控えておくことにする。

尚、上述してきた各期の竪穴式住居址の上屋構造について、円錐形、方錐形の屋根などが考えられるが詳細は不明である。但、B地区第2号・8号の2軒の住居址からは多量の炭化材が発見されており、詳細は別の機会に譲ることにするが、五領期の上屋構造を理解する上で良好な資料となることであろう。

#### 方形周溝墓について

方形周溝墓は1本あるいは2本～4本の断面U字状の溝を方形にめぐらし、中央に死者を埋葬する上塙を設けるもので、弥生時代前期後半～古墳時代中期にみられる墓制であり、古墳とのかかわりあいで注目をされているものである。

県内における方形周溝墓の発見は、昭和49年の東八代郡一宮町田村遺跡を初例として、現在まで10ヶ所近く発見がなされている。中でも昭和54年に発見された中道町曾根丘陵上の上の平遺跡の方形周溝墓群は、100基以上が密集しており、集落に対する墓域を形成する遺跡として全国的に有名なものとなっている。

本遺跡での発見は4基と少数ではあるが、全体的な特徴をまとめてみよう。

発見された4基の方形周溝墓はD地区に密集しており、この地区にはそれ以外の遺構は検出されなかった。方形周溝墓は本來、構築時には台状部(方台部)に盛土があり埋葬土壙がつくられていたと考えられているが、本遺跡では削平等の原因により盛土の存在は認められなかつた。また、上塙が検出されたのは第1号だけであるが、出土遺物もなく、方形周溝墓に伴うものとするには資料不足となっている。溝はほぼ東西南北に辺をもつように周っており、主軸を考えるとしたらその方向は一定性があるようである。ブリッヂの位置は、第1号を除き北西隅に設けられる。第1号と第2号は切り合ってはいるが、台状部(方台部)を侵していない。第1号～3号は一边に幅の広い溝をもつ。その他4基にみられる大きな特徴は、周溝の内側(台状・方台部側)壁が直立し、外側壁はゆるやかに立ち上がる傾向をもつことである。

出土遺物は、溝中埋没土から上器の破片が出土しており、供獻土器あるいは廃棄物などの推測ができるが、前章で述べたように形状の判断できるものが2点だけと少なく、推測の域を出ない。

#### 2. 五領期集落址の様相

前項で遺構についてまとめてみたが、次に坂井南遺跡における五領期の集落址について考えてみたい。

五領期の竪穴式住居址は第1次調査区、A地区、B地区、C地区に検出され、方形周溝墓はD地区に検出されている。A地区及びC地区は1軒のみの検出であり、A地区の住居址の形態、出土遺物などからも他の住居址とは若干の異なりをみせている。C地区はむしろその北側

に広がりをもち、縄文時代中期を主体とした遺跡が展開すると思われる。第1次調査区及びB地区は、住居址の重複が僅かであり、県内での該期の編年が確立しておらず明確なことは言えないが、同一時期か短期間の違いで住居が営まれたと思われ、B地区以南の標高450m以上の微高地上に集落が広がっていると考えられる。D地区の方形周溝墓群は純粹に墓域を形成しており、北へ拡大する可能性をもっている。これらの方形周溝墓は、沢を挟んで南東に広がるB地区以南の集落を営んだ人々が造ったものと考えるのが妥当であろう。

### 3. 遺物について

本遺跡の出土遺物は、大半が五領式土器の範疇に入るもので、所謂古式土師器と称されるものである。以下にそれらについて形態的に分類を試み、簡単にまとめてみたい。

#### 壺形土器

A類 単純口縁で胸部最大径が上半にある大形の土器。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反するもの。第41図1

B類 単純口縁で胸部最大径が下半にある大形の土器。

1種 頸部は「く」の字状に屈曲し、無文のもの。第13図1・第36図1 口縁先端部がやや内湾するもの第38図1がある。

2種 頸部は「く」の字状に屈曲し、格子目文が施文されるもの。第16図1

C類 単純口縁で口縁部は外反し、口唇部に刻目が連続する短頭広口の土器。第30図2 刷毛目が顕著である。

D類 複合口縁の大形の土器。頸部は外反しながら立ち上がり、複合部で段をつけ口縁部は斜立する。棒状浮文、円形浮文などの装飾がつく。第30図1

E類 複合口縁で短頭の土器。

1種 複合部が張り出した広口のもの。第16図2

2種 複合部は外傾し、口縁部は「く」の字状に立ち上がるもの。第23図1・2

F類 折り返し口縁の土器。

1種 胸部以下を欠損するが比較的大形と思われるもの。口唇に若干の盛り上がりがみられるものの第41図3、連続刺突文の施されたもの第41図2がある。

2種 胸部は球形を呈し、中形の大きさのもの。第19図1・第30図3

G類 胸部下半に最大径をもつ小形壺。第11図4・第13図2・第16図3 器形がわかるのは第16図3のみで、頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外傾し、やや内湾ぎみに立ち上がる。第13図2は凹底。

H類 胸部は球形に近く、頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部外側に稜を有する土器。第13図3

I類 片口形土器。第21図2

#### 壺形土器

A類 単純口縁で、頸部は「く」の字状に屈曲し、胸部最大径が上半にある土器。

- 1種 平底で、脇部上位がふくらみ、底部がすぼまる扁平なもの。第16図4
- 2種 凹底を呈し、口縁部は内湾しながら開くもの。第36図2
- 3種 脇部内側に稜をもち、口縁部は直線的に広くもの。第32図1
- 4種 口縁部はゆるやかに外反するもの。第17図9 刷毛目がみられる。
- 5種 口縁部は外反して立ち上がるもの。第38図8・第41図6 刷毛目がみられる。
- 6種 口縁部は外反し、口唇がやや内湾するもの。第43図1 刷毛目がみられる。
- 7種 口縁部は斜直して立ち上がるもの。第49図1 刷毛目がみられる。
- 尚、4種～7種は底部が欠損しているので詳細は不明であるが、台付甕の可能性も考えられる。
- B類 単純口縁で、脇部は「く」の字状に屈曲し、脇部最大径が中位にある土器。口縁部はゆるやかに外反しながら立ち上がり、口唇が僅かに内湾するもの。第49図2 台付甕の可能性も考えられる。

#### 台付甕形土器

- A類 単純口縁で、脇部最大径が上半にある土器。口縁部はゆるやかに外反し立ち上がる。台部は外反しやや開き気味を呈する。第16図5 肩部に刷毛目による流水文がみられる。
- B類 単純口縁で、口唇に刻み目が連続する土器。第21図1・第43図2
- C類 小形の土器。第49図4
- D類 所謂S字状口縁を有し、脇部最大径が上位にある無花果形を呈する土器。第13図4・第16図6・7・第19図2・3・第30図4・第38図3～7・第41図4・5・第43図3・第49図3・第62図1・第75図2

#### 瓶形土器

- 鉢形の器形を呈し、底部に単孔の貫通する漏斗状の土器。
- 内外面ともに刷毛目の顯著なもの第9図2・第17図10、内面に刷毛目の多くみられるもの第17図11・第43図12・第49図7、籠みがきにより丁寧に仕上げているもの第39図9がある。第43図12は折り返し口縁である。第43図13は比較的大きな孔があき器形も若干他とは異なるので別の用途も考えられそうである。

#### 高坏形土器

- A類 坏部は内湾しながら立ち上がる。中形の土器。第11図1・2・第43図6
- B類 坏部は内湾ぎみに「八」の字状に開く。脚部は内側へ若干の丸味をもつ。小形の上器。第30図6・第49図8
- C類 脚部に比較して坏部が大きく、「八」の字状に開く。坏部底部外面に稜を有する。脚部には3孔があき、器面は磨かれている。第36図3

#### 器台形土器

- A類 器受部口縁は小さく立ち上がり稜を有し、底部に単孔が穿ってある土器。器受部に暗文のあるもの、脚部に3孔を有するものもある。第17図12・第30図7・第39図10・第41図9・第47

## 図1

B類 器受部と脚部のつなぎ部が太い。器受部は「八」の字状に開き、先端部には稜がある、底部に単孔が穿ってある。第43図8・9

C類 器受部は直線状に開き、脚部は単孔があり下位でやや外反している。第43図7

### 塊形土器

A類 底部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がり、口唇はやや外反する上器。第43図5

B類 脊部がややふくらみ、頸部がくぼみ口縁が外傾し立ち上がる土器。第34図2

### 坏形土器

A類 底部から口縁部にかけて内湾ぎみに立ち上がる、口縁の開いた浅い土器。

1種 皿形で、底部に笠けずりのあるもの。第9図1

2種 底部が小さく、浅鉢形を呈するもの。第23図3・第24図1・第34図1

B類 底部から口縁部にかけて内湾ぎみに立ち上がる、コップ状の深い土器。第23図4・5・

第39図11

### 鉢形土器

頸部にくびれを有する、口縁部の開いた土器。第49図6

### 壺形土器

3個体が出土している。3個体ともツマミ部を有し、刷毛目のみられるもの、ツマミ部に単孔のあくものがある。第17図13・第34図4・5

### 手捏形土器

脇部中位でふくらみをもち、口縁は外反する土器。第39図12

### 小形土器

A類 台部を欠損するが、單純口縁の台付甕のミニチュア品。第34図7

B類 脇部にふくらみをもち、口縁の開いた壺形土器のミニチュア品。脇部中位以下に小孔が穿ってあるのを特徴とする。第24図2・第34図6

以上、形態的に壺・甕・台付甕・瓶・高壺・器台・塊・壺・鉢・蓋などに分類を行ったが、以下にこれら土器群の特徴を要約してみよう。

五領式土器は大別して、2時期に分けようとする考え方と、3時期に分けようとする考え方があり、各研究者により異った理解がなされているが、ここでは本遺跡の土器群が、弥生時代末期の後に来る五領期として、両方の特徴を持ち合わせていることを簡単に述べるにとどめておくことにする。弥生式土器の色合いを残すものとしては、折り返し口縁を有する壺の存在、棒状浮文・円形浮文・流水文などの装飾的な文様を有するものの存在、口唇部に刻み目を有する土器の存在などがあげられる。五領式土器の要素としては、S字状口縁台付甕の存在、壺を思わせる小形壺と器台形土器の存在、壺形土器の川上などがあげられる。

## 参考文献

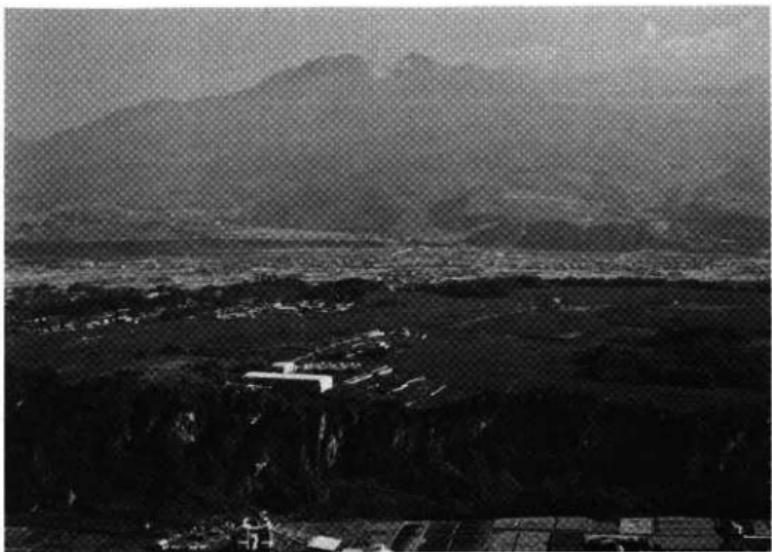
- 和島誠一編 「日本の考古学」Ⅲ 弥生時代 1966 河出書房新社
- 近藤義郎・藤沢長治編 「日本の考古学」V 古墳時代（下） 1966 河出書房新社
- 大塚初重・戸沢充則・佐原真編 「日本考古学を学ぶ」1～3 1978・79 有斐閣選書
- 萩原三雄・末木健 「山梨の考古学」 1983 山梨日日新聞社
- 野沢昌康・萩原三雄ほか 「京原」 1974 山梨県教育委員会・山梨県遺跡調査団
- 岩崎卓也・関根孝夫ほか 「松戸市文化財調査報告第5集 諏訪原遺跡」 1974 松戸市教育委員会
- 末木健ほか 「山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書—北巨摩郡長坂、明野、韭崎地内一」 1975 山梨県教育委員会・日本道路公団東京第二建設局
- 山崎金夫・坂本美夫ほか 「山梨県塩山市 西田遺跡—第一次発掘調査報告書一」 1978 山梨県教育委員会
- 望月幹夫ほか 「子ノ神 厚木市戸室所在子ノ神遺跡の調査」 1978 厚木市教育委員会
- 小林広和ほか 「上の平」 1980 山梨県教育委員会
- 米田明訓・保坂康夫 「久保屋敷遺跡」 1984 山梨県教育委員会

## おわりに

坂井南遺跡は、古墳時代前期（五領期）を主体とした複合遺跡であり、住居址群と方形周溝墓群を考え合わせると大規模な遺跡と言える。これまでに県内において該期の遺跡としては、甲府盆地を中心に主に東側周辺部での発見が多かったが、近年北巨摩郡長坂町柳坪・頭無遺跡などで住居址が発見され、最近では韭崎市大草町久保屋敷遺跡、櫛形町六科山遺跡など発見が相繼いでいる。本遺跡は、県内における北西部の同時期の空白部を埋める上でも、集落と墓域を対比させ古墳時代社会の特質を考える上でも重要な意味をもつものと思われ、格好な資料となることであろう。しかしながら今回の報告は遺跡内だけ（特に五領期の遺構、遺物）の説明に終始してしまい、県内外の他遺跡との遺構・遺物などの比較検討がなされなかつた点で非常に不十分なものとなってしまったことは否めない。今後、より一層の調査研究が必要ではあるが、まずは、本報告書が先学諸氏の目に触れることを喜びとしたい。

（文責 山下）

# 図 版



圖版1 遺跡遠景



圖版2 遺跡遠景

## 第 1 次 調 査

圖版 3

第 1 号住居址



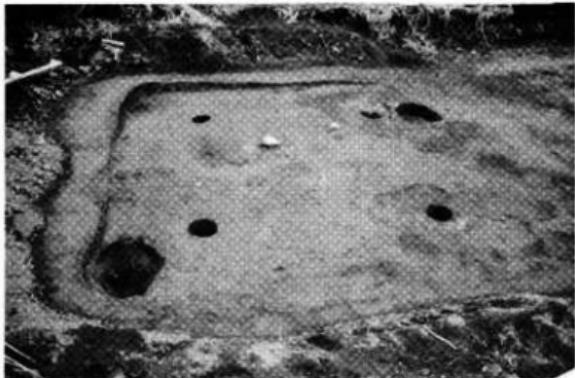
圖版 4

第 2 号住居址



図版 5

第 3 号住居址



図版 6

第 4 号住居址



図版 7

第 5 号住居址



圖版8

第6号住居址



圖版9

第7号住居址



圖版10

特殊遺構



## 第 2 次 調 査

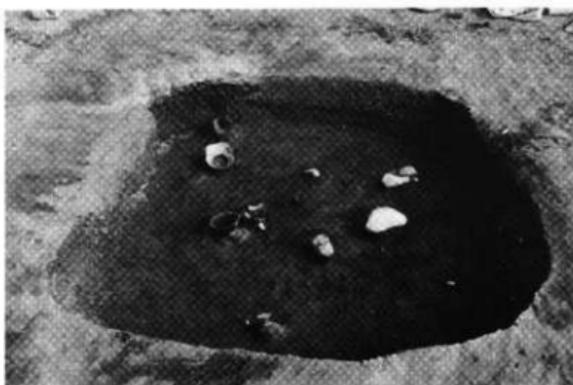
図版11

A地区配石遺構



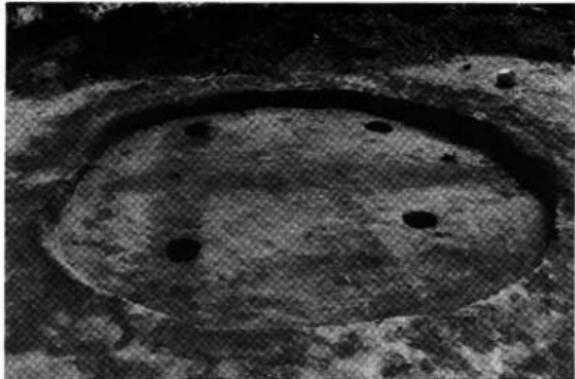
図版12

A地区  
第1号住居址



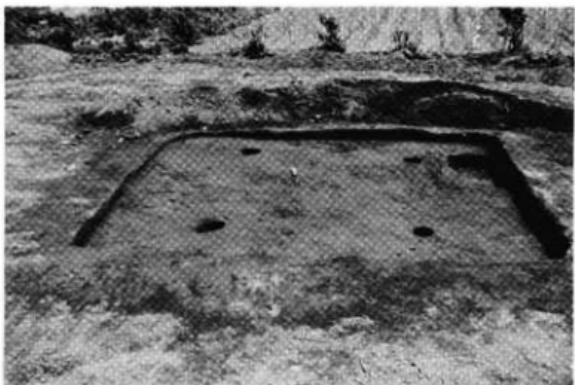
图版13

B地区  
第1号住居址



图版14

B地区  
第2号住居址



图版15

B地区  
第3号住居址



図版16

B地区  
第4号住居址



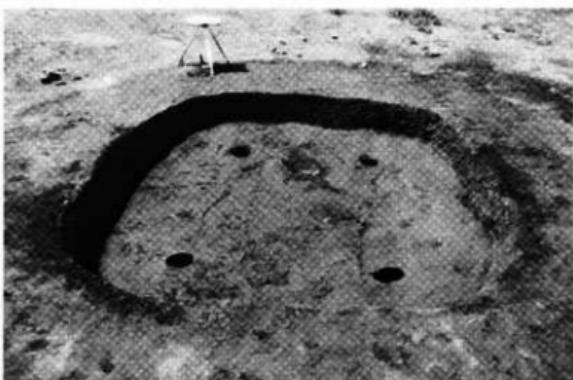
図版17

B地区  
第5号住居址



図版18

B地区  
第6号住居址



図版19

B地区  
第7号住居址



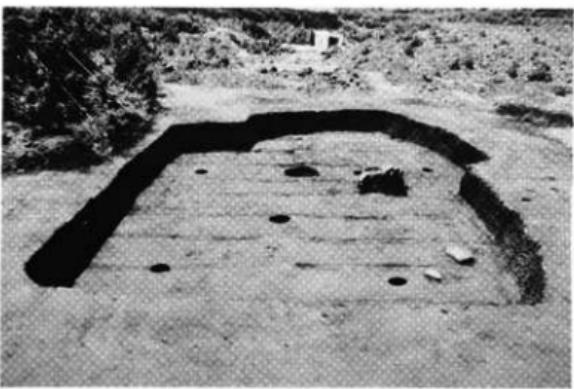
図版20

B地区  
第8号住居址



図版21

B地区  
第9号住居址



図版22

B地区  
第10号住居址



図版23

C地区  
第1号住居址



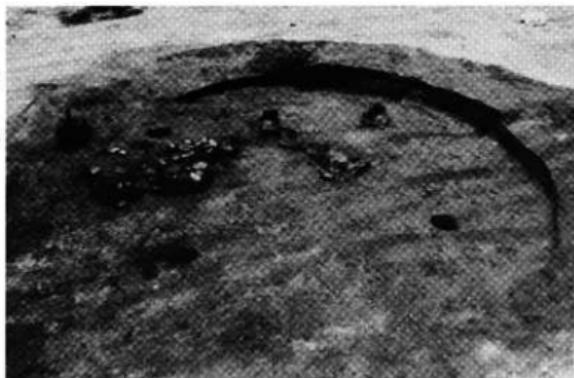
図版24

C地区  
第2号住居址



図版25

C地区  
第3号住居址



図版26

C地区  
第4号住居址



図版27

C地区  
第5号住居址  
第2号溝



図版28

C地区第6号住居址



図版29

C地区第1号土壤



図版30

C地区第5号土壤



図版31

C地区第6号土壤



図版32

C地区第1号溝



図版33

D地区  
第1号方形周溝墓



図版34

D地区  
第2号方形周溝墓



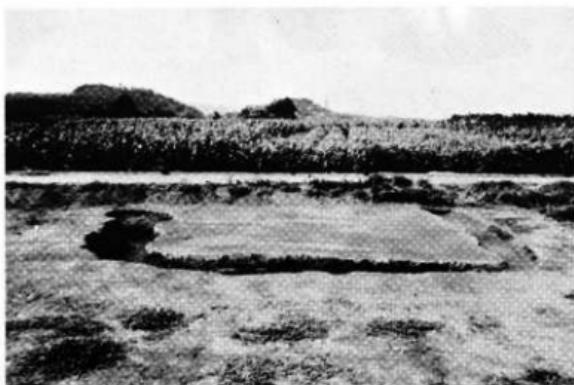
図版35

D地区  
第3号方形周溝墓



図版36

D地区  
第4号方形周溝墓

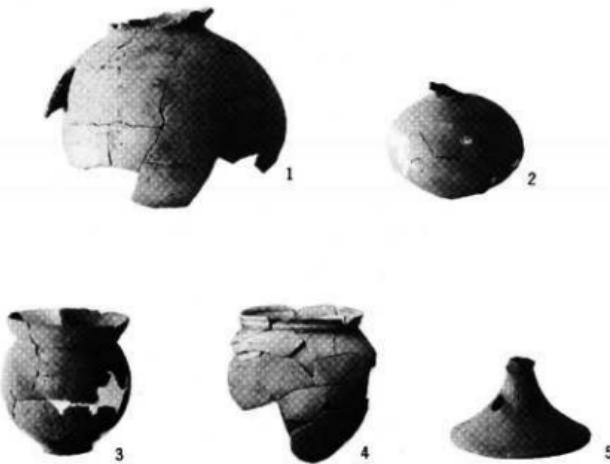




图版37 第1号住居址遗物



图版38 第2号住居址遗物



图版39 第3号住居址遗物



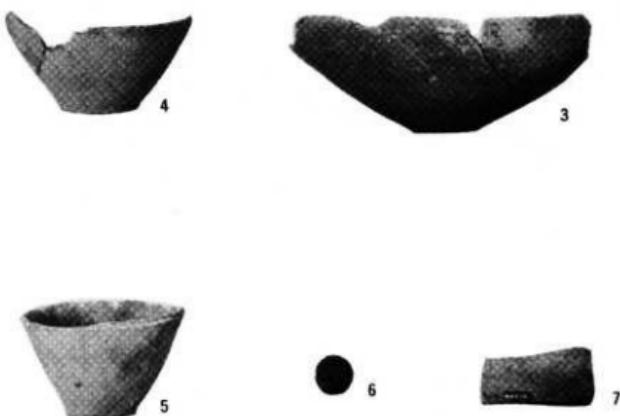
图版40 第4号住居址遗物



圖版41 第5號住居址遺物



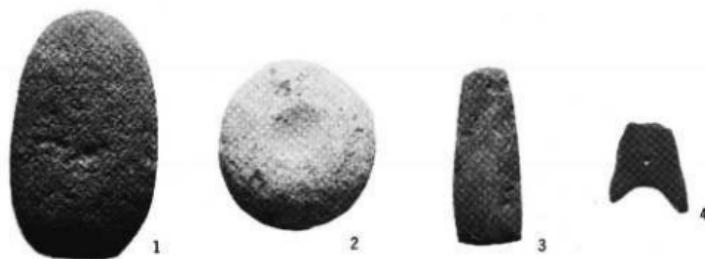
圖版42 第6號住居址遺物



圖版43 第7號住居址遺物



圖版44 特殊構造物



图版45 A地区配石造石器



图版46 A地区第1号住居址遗物



1

图版47 B地区第1号住居址遗物



1



2



4



5



6



7

图版48 B地区第2号住居址遗物



1



2

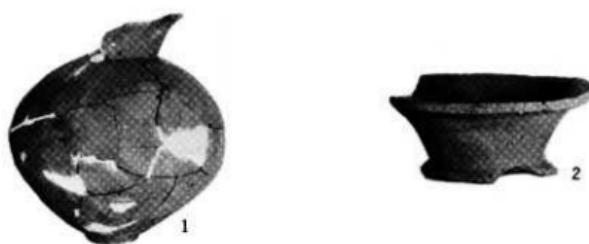


3

图版49 B地区第3号住居址遗物



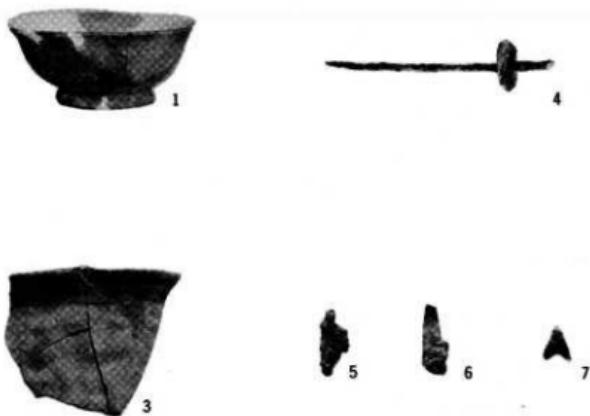
图版50 B地区第4号住居址遗物



圖版51 B地區第5號住居址遺物



圖版52 B地區第6號住居址遺物



図版53 B地区第7号住居址遺物



図版54 B地区第8号住居址遺物



図版55 B地区第9号住居址遺物



図版56 B地区第10号住居址遺物



図版57 C地区第1号住居址遺物



图版58 C地区第3号住居址遗物



第2号方形周溝墓

第3号方形周溝墓

图版59 D地区方形周溝墓遗物



図版60 その他の遺物

## 坂 井 南 遺 跡

---

発行日 昭和59年8月1日  
編集 嵐崎市教育委員会  
発行 東京エレクトロン株式会社  
印刷 嵐崎市教育委員会  
印 別 島北印刷株式会社

---

